

2025 年度 こども学科 シラバス

■目次

学修成果(到達目標)	4
1年生カリキュラムマップ	6
1年生カリキュラムツリー	7
1年生 年間予定表	8
1年生 シラバス	11

開講科目	頁	開講科目	頁
英語Ⅰ	11	総合表現演習Ⅰ	29
英語Ⅱ	12	教職論	30
日本語表現法	13	保育原理	31
日本国憲法	14	教育原理	32
現代の社会	15	社会福祉	33
法律入門	16	教育制度論	34
体育基礎	17	子ども家庭福祉	35
体育実技	18	社会的養護Ⅰ	36
情報処理Ⅰ	19	子ども理解の理論と方法	37
レクリエーション論	20	生涯発達心理学Ⅰ	38
数理リテラシー	21	保育内容の指導法（総論）	39
幼児と環境	22	保育内容の指導法（環境）	40
幼児と健康	23	保育内容の指導法（言葉）	41
幼児と表現	24	特別支援教育演習Ⅰ	42
幼児と人間関係	25	子どもの保健	43
音楽表現Ⅰ	26	教育実習Ⅰ	44
音楽表現Ⅱ	27	教育実習指導Ⅰ	45
造形表現	28	基礎演習Ⅰ	46

2年生カリキュラムマップ	51
2年生カリキュラムツリー	52
2年生 読替表	53
2年生 年間予定表	54
2年生 シラバス	57

開講科目	頁	開講科目	頁
情報処理Ⅱ	57	家庭支援論	72
音楽表現Ⅲ	58	子どもの食と栄養	73
総合表現演習Ⅱ	59	子育て支援	75
生涯発達心理学Ⅱ	60	保育・教職実践演習（幼稚園）	76
乳児保育Ⅰ	61	保育実習Ⅰ（保育所）	77
カリキュラム論	62	保育実習Ⅰ（施設）	78
保育内容の指導法（健康）	63	保育実習指導Ⅰ	79
保育内容の指導法（人間関係）	64	保育実習Ⅱ	80
保育内容の指導法（表現）	65	保育実習指導Ⅱ	81
特別支援教育演習Ⅱ	66	保育実習Ⅲ	82
乳児保育Ⅱ	67	保育実習指導Ⅲ	83
教育相談	68	教育実習Ⅱ	84
教育方法論	69	教育実習指導Ⅱ	85
社会的養護Ⅱ	70	基礎演習Ⅱ	86
子どもの健康と安全	71		

ナンバリング	106
教員一覧	110
実務経験を有する教員一覧	111
オフィスアワー	112
成績評価	112

こども学科

■ 学修成果（到達目標）

学修成果（到達目標）

- 1 **【基礎力】** 一般教養並びに各専門分野の基礎的能力
 - ① 子どもの豊かな感性と表現力を育むための基礎的知識や技術を身につけている。
 - ② 保育者としての適切な考え方や態度を身につけている。

- 2 **【実践力】** 各分野の実際の場面に対応できる力
 - ① 子どもの発達段階を理解し、保育に活かすことができる。
 - ② 子ども一人ひとりの健全な発達を保障する保育環境づくりを行うことができる。

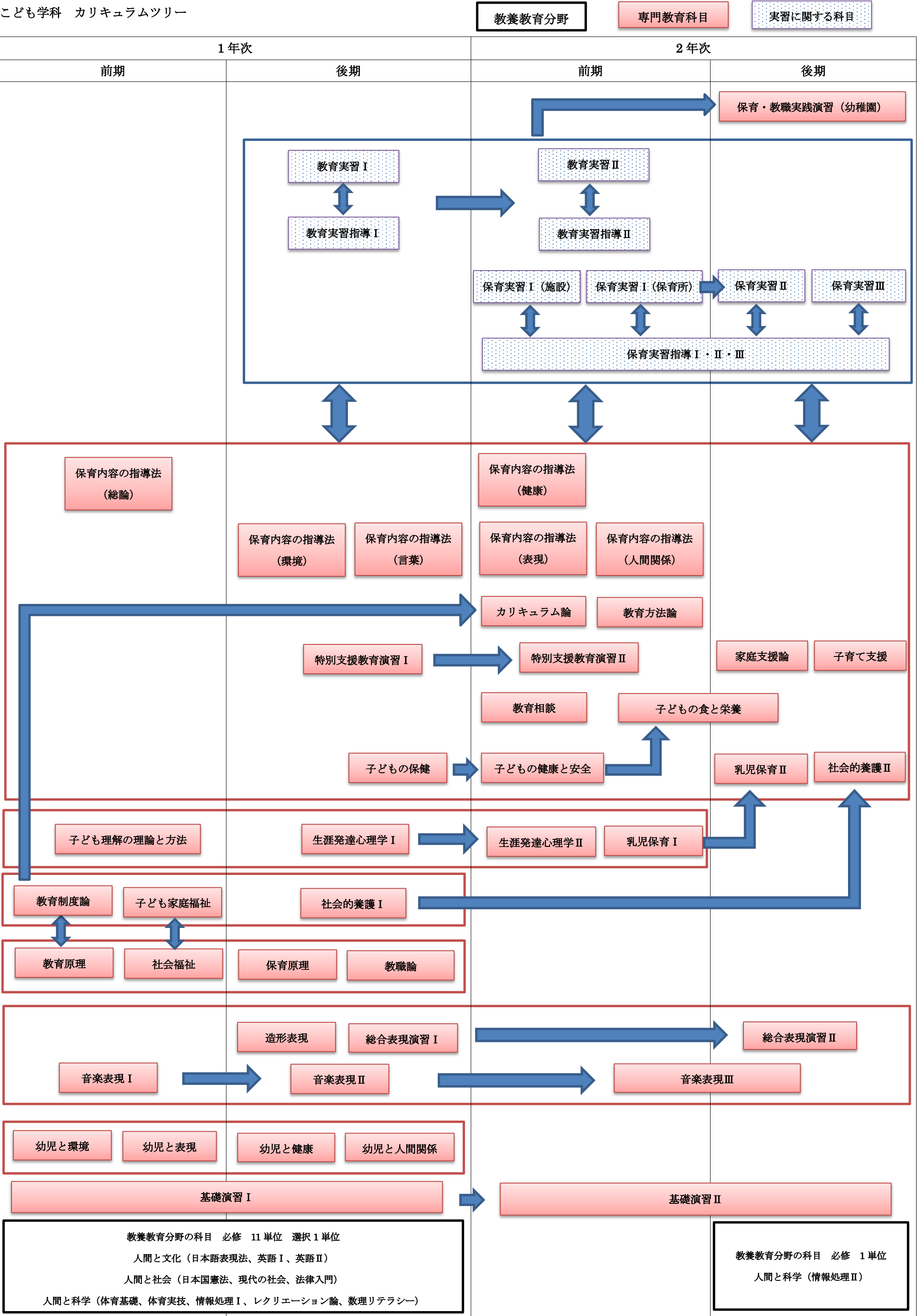
- 3 **【人間関係力】** 専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力
 - ① 保護者とともに子育てを行う姿勢を基本に、適切な子育て支援体制を築くことができる。
 - ② 適切に状況判断を行い、必要に応じて他者や他機関と連携できる。

- 4 **【生涯学習力】** 生涯にわたって学び、成長できる力
 - ① つねに、子どもをめぐる社会的歴史的課題や時事問題に関心をもつ。
 - ② 保育に関する自らの課題について、真摯に反省し、自己の向上に努める。

- 5 **【地域理解力】** 地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力
 - ① 地域の状況を理解し、子育てを通して地域社会に貢献できる。
 - ② 地域の特徴（自然や文化）を活かした子育て環境を構築できる。

こども学科 1 年生

- カリキュラムマップ
- カリキュラムツリー
- 年間予定表
- シラバス



2025年度 こども学科1年生 年間予定表

前期

	日	月	火	水	木	金	土
4月			1	2	3 入学式	4 オリエンテーション	5
	6	7 オリエンテーション	8 1	9 AM健康診断 1	10 1	11 1	12
	13	14 1	15 2	16 2	17 2	18 2	19
	20	21 2	22 3	23 3	24 3	25 3	26
	27	28 3	29	30 4	1 4	2 4	3
5月	4	5	6	7 5	8 5	9 5	10
	11	12 4	13 4	14 6	15 6	16 6	17
	18	19 5	20 5	21 7	22 7	23 7	24
	25	26 6	27 6	28 8	29 8	30 8	31
6月	1	2 7	3 7	4 9	5 9	6 9	7
	8	9 8	10 8	11 10	12 10	13 10	14
	15	16 9	17 9	18 11	19 11	20 11	21
	22	23 10	24 10	25 12	26 12	27 12	28
	29	30 11	1 11	2 13	3 13	4 13	5
7月	6	7 12	8 12	9 14	10 14	11 14	12
	13	14 13	15 13	16 15	17 15	18 15	19
	20	21	22 14	23 月14	24 授業予備日	25 授業予備日	26
	27	28 15	29 15	30 定期試験	31 定期試験	1 定期試験	2
8月	3	4 保育体験活動 (8/8まで)	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18 不合格者発表	19	20	21	22	23
	24	25 再試験	26 再試験	27	28	29	30
	31	1	2	3	4	5	6
9月	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26 オリエンテーション	27
	28	29 1	30 1				

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2025年度 こども学科1年生 年間予定表

後期

	日		月		火		水		木		金		土	
10月							1	1	2	1	3	1	4	
	5		6	2	7	2	8	2	9	2	10	2	11	
	12		13		14	3	15	3	16	3	17	3	18	
	19		20	3	21	4	22	4	23	4	24	4 PMせいよう祭準備	25	せいよう祭
	26		27	4	28	5	29	5	30	5	31	交流会	1	
11月	2		3		4	6	5	6	6	6	7	5	8	保護者会
	9		10	5	11	7	12	7	13	7	14	6	15	
	16		17	6	18	8	19	8	20	8	21	7	22	
	23		24		25	9	26	9	27	9	28	8	29	
	30		1	7	2	10	3	10	4	10	5	9	6	
12月	7		8	8	9	11	10	11	11	11	12	10	13	
	14		15	9	16	12	17	12	18	12	19	11	20	
	21		22	10	23	13	24	13	25	実習オリエン テーション	26	実習オリエン テーション	27	
	28		29		30		31		1		2		3	
1月	4		5	11	6	14	7	14	8	13	9	12	10	
	11		12		13	15	14	15	15	14	16	13	17	
	18		19	12	20	月13	21	金14	22	15	23	15	24	
	25		26	14	27	月15	28	授業予備日	29	授業予備日	30	定期試験	31	
2月	1		2	定期試験	3	定期試験	4		5		6		7	
	8		9		10	教材発表会	11		12	実習報告会	13	不合格者発表 PM実習指導	14	
	15		16	教育実習 I	17	教育実習 I	18	教育実習 I	19	教育実習 I	20	教育実習 I	21	
	22		23		24	実習予備日	25	実習指導	26	実習指導 再試験	27	就職報告会 再試験	28	
3月	1		2		3		4		5		6		7	
	8		9		10		11		12		13		14	
	15		16		17	(卒業式)	18		19		20		21	
	22		23		24		25		26		27		28	
	29		30		31									

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
						CO-0-HCU-02				
	●									
科目名	英語 I				単位 認定者	尾形 まゆみ		評価の 方法	プレゼンテー ション	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	40 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	日常会話や専攻分野の仕事・職場で頻繁に用いられる基本表現を「話し」・「聞く」ことができる力を養い、基礎的な英語コミュニケーション能力を修得する。									
到達目標	1. 基礎的な英文法を身につけ、それを使って読んだり聞いたりしたものを理解することができる。 2. 平易な英語を使って身近なことについて書いたり話したりすることができる。									
学修者への 期待等	必ず予習をして授業に臨むこと。受講生の積極的かつ意欲的な参加が求められる。授業中いつでも手を上げて質問したり、意見を述べたりして構わない。課題を課された場合、遅れて提出することは認めない。また、欠席が多いと発言の機会、小テスト等の提出が減り、評価が低くなるので、極力欠席はしないこと。テキストは必ず購入すること。テキストを持っていない場合、オンライン課題ができないので単位取得は不可能となる。									
回	授業計画					準備学修				
1	授業ガイダンス、CheckLinkの設定。 テキスト Pre-Unit 品詞と語順					シラバスに目を通し、授業の概要や評価方法を確認しておくこと。テキストの該当Unitをよく読み、問題に解答しておく。（概ね1時間）				
2	Unit 1 be動詞について学ぶ。									
3	Unit 2 一般動詞の現在形について学ぶ。									
4	Unit 3 可算名詞／不可算名詞について学ぶ。									
5	Unit 4 代名詞について学ぶ。									
6	Unit 5 一般動詞の過去形について学ぶ。									
7	Unit 6 進行形について学ぶ。									
8	Unit 7 時と場所を表す前置詞について学ぶ。									
9	Unit 8 未来形について学ぶ。									
10	Unit 9 現在完了形について学ぶ。									
11	Unit 10 比較級／最上級について学ぶ。									
12	Unit 11 接続詞について学ぶ。									
13	プレゼンテーション①：与えられたテーマについて短いプレゼンテーションを英語で行う。（第1グループ）					プレゼンテーションのためのリサーチを行い、パワーポイントファイルや原稿を準備しておく。（概ね3時間）				
14	プレゼンテーション②：与えられたテーマについて短いプレゼンテーションを英語で行う。（第2グループ）									
15	プレゼンテーション③：与えられたテーマについて短いプレゼンテーションを英語で行う。（第3グループ）									
教科書	『English Aid』Robert Hickling、臼倉美里著、金星堂									
参考文献	随時指示する。									
備考	授業内課題については、次回の授業でフィードバックを行う。 詳しくは第1回授業で説明する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

						科目ナンバリング				
						CS-0-HCU-01				
学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力					
	●									
科目名	英語Ⅱ				単位 認定者	Heap Jonathan		評価の 方法	試験（筆記）	30　％
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1　単位		授業内課題	40　％
						授業時間数	30　時間		受講態度	30　％
					授業形態	演習	授業回数		15　回	
授業の概要	この講義の目的は、幼児教育の現場で使える英語能力の向上である。子どもたちが楽しめる英語の歌やゲーム、紙芝居を授業の中で実体験する。それらの経験を通して、実践的な英語能力の向上を図るとともに、子ども用の英語を用いたゲームについて学習する。									
到達目標	1. 幼児教育の現場で、子どもたちが楽しみながら学習できる英語の単語と短い文章を、歌やゲーム、紙芝居を通じて教えることが出来るようになる。 2. 社会人として基本的な英会話を話すことが出来るようになる。									
学修者への期待等	Complete the homework, be creative and proactive in the class by asking questions when something is difficult to understand. Making grammatical errors in my class is a positive, so take risks. ①宿題を完成させること。 ②(先生が話す英語の) 理解が難しい時には、遠慮なく質問をしてください。授業中はクリエイティブで前向きな姿勢でいてください。 ③授業中の文法的な誤りを恐れないこと、むしろポジティブな姿勢だとみなします。									
回	授業計画					準備学修				
1	Introductions - Getting to know each other					(1) Write an introduction (1)				
2	What happens in a Kid’s English lesson?					(2) True or False Questionnaire				
3	Likes and Dislikes					(3) Write about your hobby (1)				
4	Presenting Language					(4) Design a drill activity (1)				
5	There is/are - Around town					(5) Write about where you live (1)				
6	Eliciting Language					(6) Design an elicitation activity (1)				
7	Experiences					(7) Write about some of your first time experiences(1)				
8	Practising Language					(8) Design a fun practice acivity (1)				
9	Abilities (can/be able to)					(9) Write a list of acivities you would like in the future (1)				
10	Language Skills (Receptive/Productive)					(10) Design a mini lesson (1)				
11	Roleplay - Dealing with problems					Team lesson preparation				
12	Final Teaching Practice Preparation					Team lesson preparation				
13	Comparatives					Team lesson preparation				
14	Final Teaching Practice					Team lesson preparation				
15	Final Teaching Practice					None				
教科書	Self-produced worksheets									
参考文献	特になし									
備考	Feedback will be on going.									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング CO-0-HCU-01				
	●		●	●						
科目名	日本語表現法				単位 認定者	徳田 幸雄		評価の方法	試験（筆記）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	40 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	書き言葉と話し言葉における日本語運用の基本を学び、論理的なコミュニケーションの手段である言語表現を効果的に実現する基礎能力を養う。まず日本語の特徴的な知識について学び、日本語運用の基本を身に付ける。その上で、書き言葉・話し言葉等の様々な表現行為に触れ、自らも表現し、相手に伝わる表現について実践的理解を深める。具体的な場面での適切な表現方法を実際に考えることで、大学や社会で必要となる日本語表現の様々なスキルを獲得することを目指す。									
到達目標	・日常生活において、適切な言葉で表現・伝達できる力を身につける。 ・日本語の特徴を理解するとともに、正しい敬語表現を身につける。 ・目的に合わせた文章（文書）作成ができるようになる。									
学修者への期待等	日本語を知ることは日本文化を知ることでもある。社会人のための教養という面だけではなく、自らの文化を再認識・再評価し、さらには自身のルーツを見つめ直す機会としてもらいたい。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス 世界から見た日本語の特徴					日本語と英語との相違を考えてみよう。(20分程度)				
2	日本語の歴史					前回のチェック・テストの復習。(20分程度)				
3	ことばと表現①(熟語、語句)					前回のチェック・テストの復習。(20分程度)				
4	ことばと表現②(ことわざ、故事成語)					前回のチェック・テストの復習。(20分程度)				
5	敬語表現①(敬語の基本)					前回のチェック・テストの復習。(20分程度)				
6	敬語表現②(尊敬語と謙譲語)					前回のチェック・テストの復習。(20分程度)				
7	話してみよう①(インタビューとショートスピーチ)					前回のチェック・テストの復習。(20分程度)				
8	話してみよう②(グループディスカッション)					前回のチェック・テストの復習。(20分程度)				
9	修飾語と被修飾語との関係①(原則論)					前回のチェック・テストの復習。(20分程度)				
10	修飾語と被修飾語との関係②(練習問題)					前回のチェック・テストの復習。(20分程度)				
11	句読点の打ち方(原則論)					前回のチェック・テストの復習。(20分程度)				
12	句読点を打つ練習と文章要約①(境界の点)					前回のチェック・テストの復習。(20分程度)				
13	句読点を打つ練習と文章要約②(逆転の点)					前回のチェック・テストの復習。(20分程度)				
14	意見文の書き方(4STEPS)					前回のチェック・テストの復習。(20分程度)				
15	意見文の作成と句読点を打つ練習									
教科書	プリントを配布する。									
参考文献	『日本語の作文技術（朝日文庫）』本多勝一著 朝日新聞出版 『大学生のための日本語表現実践ノート』米田明美他著 風間書房									
備考	授業内課題については、次の授業内にてフィードバックを行う。									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-0-HS0-02				
	●			●						
科目名	日本国憲法				単位認定者	高橋 勇人		評価の方法	試験（レポート）	55 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	15 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	近代憲法発展の歴史の変遷について理解し、また日本国憲法と国民生活との関連について考察する。日本国憲法の三原則である、「国民主権」、「基本的人権の尊重」、「平和主義」を中心に学習し、私たちの身近に憲法があることを感じ、憲法の精神をより深く理解する。									
到達目標	憲法の基本的な用語や概念を正しく理解し、説明できる。修得した知識をもとに憲法問題について自ら考え、条文に沿って自分なりの意見を導くことができる。									
学修者への期待等	聞き慣れない用語や概念が多いと思われるので、復習を中心に取り組みつつ、授業前に教科書を必ず一読すること。日頃から新聞やニュースに目を通すのが好ましい。									
回	授業計画					準備学修				
1	授業ガイダンスと導入ー日本国憲法と教育・保育ー					高等学校の「公共」など公民科目の政治分野を復習しておく（概ね1時間）。				
2	法とは何か					事前に教科書1頁-10頁を読み、事後に課題に取り組むこと（概ね1時間）。				
3	わが国の法のしくみ					事前に教科書25頁-34頁を読み、事後に課題に取り組むこと（概ね1時間）。				
4	日本国憲法と教育・保育法規					事前に教科書43頁-50頁を読み、事後に課題に取り組むこと（概ね1時間）。				
5	最低限度の生活を営む権利					事前に教科書113頁-120頁を読み、事後に課題に取り組むこと（概ね1時間）。				
6	自由に考え、表現する自由					事前に教科書103頁-112頁を読み、事後に課題に取り組むこと（概ね1時間）。				
7	法の下での平等					事前に教科書93頁-102頁を読み、事後に課題に取り組むこと（概ね1時間）。				
8	人権とは何か					事前に教科書51頁-60頁を読み、事後に課題に取り組むこと（概ね1時間）。				
9	外国人の人権					事前に教科書61頁-66頁を読み、事後に課題に取り組むこと（概ね1時間）。				
10	子ども、未成年者の人権					事前に教科書67頁-76頁を読み、事後に課題に取り組むこと（概ね1時間）。				
11	私人間の人権問題					事前に教科書67頁-76頁を読み、事後に課題に取り組むこと（概ね1時間）。				
12	統治のしくみ					事前に教科書121頁-136頁を読み、事後に課題に取り組むこと（概ね1時間）。				
13	天皇					事前に教科書137頁-142頁を読み、事後に課題に取り組むこと（概ね1時間）。				
14	法の目的					事前に教科書11頁-24頁を読み、事後に課題に取り組むこと（概ね1時間）。				
15	まとめと補遺					これまでに学習した内容を振り返り、課題に取り組むこと（概ね1時間）。				
教科書	『保育者のための法学・憲法入門〔第2版〕』高乗正臣 成文堂									
参考文献	講義内で適宜紹介する。									
備考	授業内課題については、次回の授業の冒頭で解説する。第11・13・15回は双方向型で実施予定である。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
						CO-0-HSO-03				
	●			●	●					
科目名	現代の社会				単位 認定者	丸藤 准二		評価の方法	試験 (レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	16 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	現代の日本が世界の中でどのような立場にあるか、初めに日本及び主な国の文化・思想・宗教ならびに近代の歴史を学ぶことから理解をする。そのうえで政治・経済の視点を軸にして現代の日本の様々な問題点について学修し、現代の社会を生きるために不可欠な基本知識を身につけ、社会生活において適切な選択や判断ができることを目指す。									
到達目標	現代の世界とりわけ日本の社会における様々な問題について、正しい認識と知識を身に付けること。そのうえで、各人がよく考えてこれからの社会生活をより良くすることを目標とします。									
学修者への期待等	毎回の授業に意欲的に取り組んでください。思考の前提となる知識を身に付け、自分で物事を考える習慣をつけましょう。また、実社会の様々な事象に関心をもち、情報に触れるようにしてください。									
回	授業計画					準備学修				
1	現代の日本社会(日本人・日本社会の特質)					現代の日本社会について、授業内容を整理して理解する。(1時間程度)				
2	日本の政治(政治参加と選挙、政党政治)					前回の授業内容を復習し、日本の政治について授業を整理して理解する。(1時間程度)				
3	日本経済の現状(経済発展と停滞)					前回の授業内容を復習し、日本経済の現状について授業を整理して理解する。(1時間程度)				
4	現代の労働問題(賃金と格差)					前回の授業内容を復習し、現代の労働問題について授業を整理して理解する。(1時間程度)				
5	日本の人口問題(人口減少と少子高齢化)					前回の授業内容を復習し、日本の人口問題について授業を整理して理解する。(1時間程度)				
6	資源エネルギー問題(資源の現状と課題)					前回の授業内容を復習し、資源エネルギー問題について授業を理解する。(1時間程度)				
7	環境問題と自然災害(地球温暖化と日本の自然災害)					前回の授業内容を復習し、環境問題と自然災害について授業を理解する。(1時間程度)				
8	世界の中の日本(現代の国際関係と日本)					前回の授業内容を復習し、世界の中の日本について授業を整理して理解する。(1時間程度)				
教科書	『小論文頻出テーマ解説集2025 現代を知るplus 』第一学習社									
参考文献	『図解でわかる時事重要テーマ100 2025-2026』日経HR編集部編著 日経HR 授業において参考文献を適宜紹介します。									
備考	毎回資料を配布します。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	C0-0-HS0-04				
	●			●						
科目名	法律入門				単位認定者	武居 沙弥佳		評価の方法	試験 (レポート)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	35 %
						授業時間数	16 時間		受講態度	15 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	社会生活をしていく上で必要な基本的な法律について学修する。特に日常の社会生活・大学生活に関係の深い様々な問題を取り上げて、問題点、解決方法、回避方法など、具体的な事例を通じて理解し身につけていく。									
到達目標	社会問題を考える際の土台となる法律の基本的な用語や概念を理解し、説明できる。身近な法律問題の学習を通じて、自ら問題を解決するための思考方法を養う。									
学修者への期待等	聞き慣れない用語や概念が多いと思われるので、復習を中心に組みつつ、授業前に教科書を必ず一読すること。日頃から新聞やニュースに目を通すのが好ましい。各法制度の内容や事例の結論を暗記するのではなく、どうしてそのような制度を導入したのか、なぜそうなるのかを自分なりに考え説明できるよう心がけてほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	学習ガイダンス（法律の理解、考え方）					授業前に教科書第1章を読み、授業後に資料を参照して復習すること（概ね1時間）。				
2	民法（1）（契約法、消費者法）					授業前に教科書第2・3章を読み、授業後に資料を参照して復習すること（概ね1時間）。				
3	民法（2）（家族法）					授業前に教科書第5章を読み、授業後に資料を参照して復習すること（概ね1時間）。				
4	刑法（犯罪と刑罰）					授業前に教科書第6・7章を読み、授業後に資料を参照して復習すること（概ね1時間）。				
5	労働法（グループワーク）					授業前に教科書第4・11章を読み、授業後に資料を参照して復習すること（概ね1時間）。				
6	国際法					授業前に教科書第12・13章を読み、授業後に資料を参照して復習すること（概ね1時間）。				
7	社会保障法					授業前に配布資料を読み、授業後に資料を参照して復習すること（概ね1時間）。				
8	知的財産権（グループ発表）					授業前に配付資料を読み、グループ発表の準備をしてきてください（概ね1時間）。				
教科書	『プレステップ法学』池田真朗、弘文堂									
参考文献	『ケースで学ぶ実践への法学入門』富永晃一他著、中央経済社他、講義内で適宜紹介する。									
備考	授業内課題については、第1回の授業で解説する。									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング CS-0-HSC-01				
	●			●						
科目名	体育基礎				単位 認定者	中曽根 裕		評価の方法	試験 （レポート）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	15 %
						授業時間数	16 時間		受講態度	15 %
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	身体活動・スポーツの意義や重要性を理解することを目的とする。これによって、生涯を通じて身体の自己管理及び生涯スポーツの奨励等は、より健康な生活を送るために欠かせないものであることが認識できる。 自身の健康管理に関心を持たせ、計画的に運動を実践する習慣付けを行い、自らの健康寿命延伸へのセルフコントロールが出来るような方法を学ぶ。									
到達目標	生涯にわたり健康で有意義な人生を送るために、しっかりとしたライフスタイル（生活様式）を確立することは重要であり、そのための運動・スポーツの意義や役割についての基礎知識を身に付ける。									
学修者への期待等	積極的な姿勢で授業に臨むこと。講義で得た知見を今後の生活の中で実践して欲しい。									
回	授業計画					準備学修				
1	生涯スポーツの基本的な考え方について									
2	運動と健康との関係について ペアワーク									
3	体力とは何か（体力の構造について）					体力調査結果に関する事前配布資料を読んでくること。（1時間程度）				
4	運動習慣と筋力の加齢変化について									
5	座位時間と健康との関連性									
6	スポーツ基本計画とは ペアワーク									
7	個々人に応じた運動プログラムとは（運動処方） 運動プログラムの立案・作成					事前に配布する資料の中にある運動プログラム（運動処方）を作成してくること。（1時間程度）				
8	運動プログラム（運動処方）作成・提出									
教科書	必要に応じて文献・資料を配布する。									
参考文献	特になし									
備考	授業内課題については内容を確認し、次回以降の授業でコメントする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
		●		●		CS-0-HSC-02				
科目名	体育実技				単位 認定者	中曽根 裕		評価の方法	試験 （レポート）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	15 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	15 %
					授業形態	実習	授業回数		15 回	
授業の概要	学生の身体諸機能の向上ならびに体力の増進をはかり、今後の社会生活の基盤となる体力及び生涯スポーツ実践のための方法や技術、身体運動に関する科学的知識等について実践を通して身に付けることを目的とする。 具体的には、ストレッチング、ニュースポーツ、バスケットボール、バレーボール、フットサル等を行い、基礎技能やルールを理解した上でミニゲームやグループ試合等を行う。									
到達目標	様々な運動を通して、生涯にわたり健康で有意義な生活を送るために、体力の向上や生涯スポーツの獲得を目指すものとする。									
学修者への期待等	運動のできる服装を用意すること。積極的な姿勢で授業に臨むこと。また、グループによる活動も多いので、協力して活動に取り組むこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	授業ガイダンス（授業の進め方、準備物について） 信頼関係とホスピタリティ・トレーニング （グループワーク）									
2	動的ストレッチングとアイスブレイキング （実技）					実践したストレッチ運動を生活に取り入れてみる こと。（30分程度）				
3	ニュースポーツ① （フライングディスク・ドッチビー）（実技）					ニュースポーツが暮らしに取り入れられた背景に ついてまとめておくこと。（1時間程度）				
4	ニュースポーツ②（ユニバーサル・ホッケー） 基礎技能・ミニゲーム（実技）									
5	ニュースポーツ③（ユニバーサル・ホッケー） 試合（実技）									
6	ポートボール① 基礎技能・グループ練習・ミニゲーム（実技）					ポートボールのルールの特徴について調べておく こと。（1時間程度）				
7	ポートボール② 試合（前半）（実技）									
8	ポートボール③ 試合（後半）（実技）									
9	ソフトバレーボール① 基礎技能・グループ練習・ミニゲーム（実技）					ソフトバレーボールのルールの特徴について調べて おくこと。（1時間程度）				
10	ソフトバレーボール② 試合（前半）（実技）									
11	ソフトバレーボール③ 試合（後半）（実技）									
12	フットサル① 基礎技能・グループ練習・ミニゲーム（実技）					フットサルのルールの特徴について調べておくこ と。（1時間程度）				
13	フットサル② 試合（前半）（実技）									
14	フットサル③ 試合（後半）（実技）									
15	体力測定（実技）					体力測定の結果から自己分析して、日常生活にお ける運動実践の必要性について考察し、提出する こと。（1時間程度）				
教科書	必要に応じて文献・資料を用意する。									
参考文献	特になし									
備考	授業内課題については内容を確認し、次回以降の授業でコメントする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HSC-01				
	●	●		●						
科目名	情報処理 I				単位認定者	氏家 留美子		評価の方法	試験（筆記）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	30 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	現代のコミュニケーションツールとして重要な位置を占めるパソコンを用いて、文書作成やデータ処理など情報伝達・発信方法の基礎を学ぶ。加えて、パソコンをコミュニケーションツール、ビジネスツールとして活用する能力を養う。また、パソコンを使う者のマナー、情報保護の意識等も学修する。									
到達目標	パソコンの基本操作を修得し、Word・Excel・PowerPointの効率的な使用能力を身につける。 ◆Word：書式設定や印刷設定を適切に使える。表・図形・写真を取り入れた表現力のある文書を作成できる。 ◆Excel：書式設定をして表を整えることができる。適切な計算式や関数を使える。グラフを作成できる。 ◆PowerPoint：プレゼンテーションについて理解し、訴求力のあるスライド作成とスライドショー実施ができる。 さまざまなITツールの活用で、情報を整理・評価し、ICTを活用した情報分析が出来るようになる。									
学修者への期待等	基本から応用操作まで、学生が自身のスキルを見つめ直し成長することを期待する。 操作に不慣れな学生は、この機会に基礎を固めること。既にスキルを持つ学生もさらなる向上を目指してほしい。操作がわからない部分は、演習中に質問して確実に理解を深めること。 教材データを保存するために、USBメモリを授業 2 回目以降で使用する。授業 1 回目の時にUSBメモリについては詳しく説明するので、2 回目の授業までに各自準備しておくこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	Word（実技）：ビジネス文書の基礎知識（ビジネス文書の構成と作成方法）					【予習について】 マウス操作・入力操作は各自できるようにして授業に臨むこと。特に入力操作が苦手な場合は、タイピングの練習をして技術を向上させること。（30分程度） 【復習について】 Word・Excelは、はじめは基礎内容から入り、段階的に応用内容に進んでいくため、各回の内容をしっかりと身につけ、次の授業へ臨むこと。 授業内に完成しなかった作成物は、次回までに完成しておくこと。 これまでの経験によって、パソコンスキル（技能）は異なるため、自分の現在のスキルを把握し、学修したパソコン操作が身につけていないと感じる場合は、授業で作成したものを繰り返し操作して復習すること。（各自のスキルにより30分～1時間程度）				
2	Word（実技）：Wordの基本操作（書式設定・印刷設定） 情報セキュリティ：脅威が与える影響とセキュリティ対策									
3	Word（実技）：情報の整理（表を用いた文書作成）									
4	Word（実技）：いろいろな書式設定の活用方法（段落の網かけ・均等割り付け・ルビ・囲い文字・傍点・段組み・ヘッダーフッター）									
5	Word（実技）：文書の表現力アップ（イラスト・写真・ワードアート・図形描画）									
6	Word（実技）：レポートなどの長文作成をサポートする操作（見出しスタイルの利用・目次作成・検索・置換） 著作権の知識：著作権の概念・著作権侵害・引用のルール									
7	PowerPoint（実技）：プレゼンテーションの構成・箇条書きや表を用いた情報の整理・図形や画像の効果的な利用法・スライドショーの実施・印刷設定									
8	PowerPoint（実技）：アニメーションの設定・図解表現の手法・指示するテーマで、伝わるプレゼンテーションの課題作成									
9	Excel（実技）：Excelの基本操作（四則演算・SUM、AVERAGE関数・書式設定・行列操作・表示形式・印刷設定）									
10	Excel（実技）：数式を効率的かつ正確に作る（相対参照と絶対参照の使い分け）									
11	Excel（実技）：数値を評価するための基本的関数（MAX・MIN・COUNT・COUNTA）									
12	Excel（実技）：データを視覚的に分析・評価（グラフ作成）									
13	Excel（実技）：基準に基づくデータの整理や抽出（データベースのしくみ・並べ替え・フィルター）									
14	Excel（実技）：データを条件付きで処理・集計（IF・COUNTIF・SUMIF関数など） 関数のまとめ①（データの評価・集計するための関数の活用）									
15	Excel（実技）：特定の値を基に検索とデータ取得（VLOOKUP関数など） 関数のまとめ②（データの整理・分析するための関数の活用）									
教科書	『30時間アカデミック Office2021 Windows11対応』 杉本くみ子／大澤栄子 著 実教出版									
参考文献	進行に応じてプリントを配付する。									
備考	「試験」は、Word・Excel・PowerPointの使用法に関する筆記試験を行う。 「課題」は、指示した作成ファイルをデータ形式で提出する。内容を確認し、以後の授業で講評する。 情報処理室で授業を実施する。パソコンの操作手順を示す際に講師の操作画面を各学生のパソコン画面へ映す授業支援システム(SkyClassesMng)を利用する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
						CS-0-HSC-04				
	●			●						
科目名	レクリエーション論				単位 認定者	中曽根 裕		評価の方法	試験 (レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	15 %
						授業時間数	16 時間		受講態度	15 %
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	これからの時代余暇生活の充実が、ひとりひとりの豊かな人生の実現に大きな関わりをもってくる。そこでホイジンガやカイヨワの遊戯研究から「遊戯」についての本質・定義について論理的に学び、現代のレクリエーションの社会的意義やレクリエーション支援の諸理論について理解を深める。また、子どもを対象としたレクリエーションプログラムの展開に必要な知識・技術を学ぶ。									
到達目標	レクリエーションの社会的意義やレクリエーション支援の諸理論について理解を深め、子どもを対象としたレクリエーションプログラムの展開に必要な基礎知識を身につける。									
学修者への期待等	積極的な姿勢で授業に臨むこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	レクリエーションの概念と目的とは (支援の目的と方法)					教科書の第1章「レクリエーション概論」を読んでおくこと (1時間程度)				
2	楽しさと心の健康作り理論① ペアワーク (楽しさを感じる心の仕組みと支援方法とは)					教科書の第2章「楽しさと心の健康作り理論」を読んでおくこと (1時間程度)				
3	楽しさと心の健康作り理論② (地域のきずなづくりとレクリエーションとは)									
4	レクリエーション支援理論① ペアワーク (コミュニケーションと信頼関係づくり)					教科書の第3章「レクリエーション支援理論」を読んでおくこと (1時間程度)				
5	レクリエーション支援理論② グループワーク (良好な集団づくり)									
6	レクリエーション支援理論③ グループワーク (自主的・主体的に楽しむ力を育む)									
7	レクリエーション支援のプログラム① (リスクマネジメントの視点と方法)									
8	レクリエーション支援のプログラム② (プログラムの立案の視点と方法)									
教科書	『楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法～』日本レクリエーション協会									
参考文献	特になし									
備考	授業内課題については内容を確認し、次回以降の授業でコメントする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
	●	●				CO-0-HSC-02				
科目名	数理リテラシー				単位 認定者	前田 幸仁 中島 拓		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	16 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	数学の基礎・基本を身に付け、数式・表・グラフ等の活用を通して数学的处理の“良さ”を知ることにより、統計学、数学、コンピュータサイエンス、人工知能など今後の社会に必要とされる数理的思考やデータ分析・活用能力を身につける。									
到達目標	本科目では、筋道を立て、客観的に物事を考えることができることを目的とし、日常生活のあらゆる場面で役立つ計算力やデータ、表やグラフなどを読み取ることができる。また、人工知能に触れ、適切な使用法や倫理観を理解できる。									
学修者への期待等	日常でよく使う計算、算数・数学的な考え方とデータについての基本を習得するための科目です。授業前に準備学修を終わらせ、基本的な考え方を習得しておいてください。授業後は1時間程度の復習をし、考え方や処理が不明の箇所がある場合は積極的に質問してください。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	分数や小数の計算・四則計算					教科書1～35ページを読んで授業に臨んでください(1時間程度)			前田 幸仁	
2	割合と百分率(損益算・仕事算・濃度算)					教科書52～74ページを読んで授業に臨んでください(1時間程度)			前田 幸仁	
3	速さ(速さ・時間・距離、旅人算)					教科書75～3597ページを読んで授業に臨んでください(1時間程度)			前田 幸仁	
4	数的推理①(図形)								前田 幸仁	
5	数的推理②(確率)					教科書123～145ページを読んで授業に臨んでください(1時間程度)			前田 幸仁	
6	統計の基礎①(実数、指数)								前田 幸仁	
7	統計の基礎②(総量と構成比、増加率)								前田 幸仁	
8	生成AIの利用と倫理					参考文献に記載の事前学習資料を参照し、注意事項に沿って生成AIの利用体験をする			中島 拓	
教科書	『数的推理[問題編]』、『数的推理[解答編]』 大原出版株式会社									
参考文献	第8回講義の事前学習資料： https://seiyogakuinac-my.sharepoint.com/:w:/g/personal/admini_seiyogakuin_ac_jp/EYpAtrfYN_9Pm8P0ypvj6vsBcjJvq-2jFJYcyp2z15908w?e=JxW4xN									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-BSN-01				
	●				●					
科目名	幼児と環境				単位 認定者	小野瀬 剛志 田中 公一		評価の方法	試験 (レポート)	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	30 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	幼児の発達における環境の重要性について学ぶ。幼児の発達にとって、自然環境、社会環境、人的環境、物的環境がもつ意味を理解し、よりよい環境とは何かについて体験や知識の獲得を通して理解を深める。また、現代的課題としての幼児教育と環境の関係性について理解を深める。									
到達目標	1 幼児の発達における環境の重要性を理解する。 2 自らの体験を通して、幼児の発達にとって適切な環境とは何かを考え、伝えられるようになる。									
学修者への期待等	この授業は講義形式で行う授業だけでなく、実際の体験をもとに、自らの考えをまとめ、発表する内容が含まれているので、積極的な授業参加をお願いします。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	オリエンテーション（授業概要の説明、人間発達における4つの環境）								小野瀬 剛志	
2	環境と子どもの発達（人間の成長は、素質か、環境か？）【遠隔（オンデマンド）】				人間の発達にとってより重要な要素は素質か環境かを、ピアニストなどを例に考え、まとめる（概ね1時間）				小野瀬 剛志	
3	人的環境と「心」の発達【遠隔（オンデマンド）】								小野瀬 剛志	
4	現代の生活環境と保育①（日本の家族の変化）【遠隔（オンデマンド）】				少子化の要因について、家族の視点から考えてくる（概ね1時間）				小野瀬 剛志	
5	現代の生活環境と保育②（自然、社会環境の変化）【遠隔（オンデマンド）】								小野瀬 剛志	
6	現代の生活環境と保育③（「持続可能な社会」と幼児教育）【遠隔（オンデマンド）】				「持続可能な開発のための教育（ESD）」について、ユネスコのHP等を参考にまとめる（概ね1時間）				小野瀬 剛志	
7	身近な環境を利用した保育計画の考え方								小野瀬 剛志	
8	保育計画の準備								小野瀬 剛志 田中 公一	
9	身近な施設と保育①（植物園見学）				仙台市周辺の野草について調べてくる（概ね1時間）				小野瀬 剛志 田中 公一	
10	植物（園）と保育（植物園振り返り：グループワーク）								小野瀬 剛志 田中 公一	
11	身近な施設と保育②（動物園見学）				幼児を動物園に連れていく意義についてまとめる（概ね1時間）				小野瀬 剛志 田中 公一	
12	動物（園）と保育（動物園振り返り：グループワーク）								小野瀬 剛志 田中 公一	
13	身近な施設と保育③（公園）				公園での遊びを考えてくる（概ね1時間）				Aクラス：小野瀬剛志 Bクラス：田中公一	
14	身近な環境と子どもの発達（公園体験の振り返り：グループワーク）【遠隔（オンライン）】								小野瀬 剛志	
15	総括（人的環境としての保育者）				これまでの授業から「人的環境としての保育者」の役割についてまとめる（概ね1時間）				小野瀬 剛志	
教科書	『持続可能な社会をつくる幼児期のESD 論—子どもと環境—』降旗信一・菊池稔編著、人言洞									
参考文献	適宜紹介する									
備考	9・10回目は2クラスに分けて実施し、各教員が2クラス担当するが、13回目は各教員が1クラスずつ担当する。ただし、状況によっては4クラスに分けて実施する場合もあり、その際は各教員が2クラスずつ担当する。 授業内で課した課題については、後日コメント等を付して返却する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング CS-1-BSN-02				
	●	●								
科目名	幼児と健康				単位 認定者	中曽根 裕		評価の方法	試験 (レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	15 %
						授業時間数	16 時間		受講態度	15 %
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	本科目では、乳幼児の基本的な生活習慣や心身の健康に関する内容、運動的活動に関する内容を中心に、心と体の調和のとれた発達について、理解を深める。また、健康な生活を営むための幼稚園教諭の役割などについての実践的な内容について学ぶ。									
到達目標	1 幼稚園指導要領に示される「健康」の領域のねらいや内容を理解する。 2 「健康」の領域を通じて何を育てるべきか、そのためにはどのような援助が必要かについて理解し、心と体の両面の健康課題について把握する。また、安全な生活と怪我の予防に関する具体的な方法について習得する。									
学修者への期待等	日頃から子どもの健康に関する書籍や新聞・雑誌の記事に目を通しておくことが望ましい。									
回	授業計画					準備学修				
1	子どもにとっての「健康」とは ペアワーク									
2	人間の心とからだの発育発達について					教科書の第1章を読んでおくこと。(1時間程度)				
3	幼児期の心とからだの発育発達について					教科書の第2章を読んでおくこと。(1時間程度)				
4	生活スタイルの現状と課題 ペアワーク					生活スタイルの問題点などについて、事前に新聞等で理解を深めておくこと。(1時間程度)				
5	基本的生活習慣の形成について									
6	幼児の体力と運動					事前に配布する資料のさまざまな身体事情について読んでくること。(1時間程度)				
7	幼児の安全教育(事故と予防) グループワーク									
8	これからの「健康」分野の課題について									
教科書	『保育内容 健康―保育の内容・方法を知る』花井忠征・野中壽子 編著、北大路書房									
参考文献	適宜、授業にて指示する。									
備考	授業内課題については内容を確認し、次回以降の授業でコメントする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
	●	●				CS-1-BSN-03				
科目名	幼児と表現				単位 認定者	鈴木 純子 芳賀 哲		評価の方法	試験 (レポート)	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	本科目では、領域「表現」の指導力の基礎となる知識・技能・表現力を身につけることをめざす。音楽表現と造形表現の基礎知識と平易な理論、技能を学ぶことを通して、幼児の表現の育ちを支える立場にふさわしい感性を豊かにする。									
到達目標	1) 幼児の表現に関する知識・技能への理解を深め、幼児の表現活動に展開させることができる。 2) 表現についての体験を通し、幼児の表現を促す環境や適切な教材について工夫することができる。									
学修者への期待等	「幼児の表現」について主体的な考察及び実践を重ね、学びを深めることを期待する。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	領域「表現」について				幼稚園教育要領の「表現」の項目を読んでおく（1時間程度）			鈴木 純子		
2	各領域と表現				幼稚園教育要領の全体を読んでおく（1時間程度）			鈴木 純子		
3	子どもの表現と保育者の役割				提示された課題について意見をまとめる（1時間程度）			鈴木 純子		
4	表現の実態の把握（グループワーク）				提示された課題について意見をまとめる（1時間程度）			鈴木 純子		
5	表現と評価（ディスカッション）				提示された課題について意見をまとめる（1時間程度）			鈴木 純子		
6	表現を育む保育環境 環境を通した保育について				提示された課題について意見をまとめる（1時間程度）			鈴木 純子		
7	保育現場の表現 環境構成を考える（グループワーク）				提示された課題について意見をまとめる（1時間程度）			鈴木 純子		
8	保育現場の表現 発表（実践 ディスカッション）				グループごとに、発表に必要な準備を整えておくこと（1時間程度）			鈴木 純子		
9	幼児の表現と造形について学ぶ				教科書の1章「造形表現の意義」と2章「表現を育む人になる」を読んでくる（1時間）			芳賀 哲		
10	三歳までの遊びと造形表現能力の発達を学ぶ				教科書の4章「子どもの造形表現の発達」を読んでくること（1時間）			芳賀 哲		
11	三歳～五歳位までの遊びと造形表現能力の発達を学ぶ				前回の発達について復習しておくこと（1時間）			芳賀 哲		
12	イメージを広げる（同じ形から作品を作る）活動を通じ、造形活動の重要性を学ぶ				前回の発達について復習しておくこと（1時間）			芳賀 哲		
13	モダンテクニックについて学ぶⅠ（技法について学ぶ）				モダンテクニック一般について調べておく（1時間）			芳賀 哲		
14	モダンテクニックについて学ぶⅡ（技法を使って表現する。グループワーク）				モダンテクニックを使った表現の準備をしてくること（1時間）			芳賀 哲		
15	物づくりの広がりやと人格形成について学ぶ				モダンテクニックを使った作品を完成させてくること（1時間）			芳賀 哲		
教科書	『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『「音」からひろがる子どもの世界』吉永早苗著、(株)ぎょうせい 『保育をひらく造形表現』槇英子著、萌文書林									
参考文献	『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『伝承あそび事典』芸術教育研究所編、黎明書房									
備考	課題のうち提出されたものに関しては、内容確認の次回以降返却する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
	●		●			CS-1-BSN-04				
科目名	幼児と人間関係				単位 認定者	平田 修三		評価の方法	試験 (レポート)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	50 %
						授業時間数	16 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	人間が本来的に持っている“他者とつながる”本性、そして、幼児が他者や集団との関係のなかで発達していく側面について学びながら、幼児教育で保障すべき教育内容について検討する。さらに、具体的な事例をもとにしながら、実際の幼児教育現場でみられる人間関係のありようや現代の子どもを取り巻く人間関係をめぐる諸課題についても理解を深めつつ、領域「人間関係」の指導の基盤となる専門知識を身に付ける。									
到達目標	1. 子どもの発達にとっての「人間関係」の意味について理解を深める。 2. 関係発達論的な視点をもとに、具体的な幼児教育場面や人間関係について考察できるようになる。									
学修者への期待等	グループワーク等に積極的に参加し、自身も円滑な人間関係を築けるように主体的に授業に取り組むこと。また、日ごろから乳幼児や子育てに関わるニュースや新聞記事等に目を通す習慣をつけること。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス：領域「人間関係」のねらい					「幼稚園教育要領」の第2章「人間関係」に関わるページ（PP. 16-17）に目を通しておく（概ね30分）				
2	母子関係のはじまり									
3	保護を引き出す新生児の特性					「赤ちゃんはなぜかわいのか」について事前に考えてくる（概ね1時間）				
4	子育てをめぐる現代的課題					「育児の悩み」についてインターネット等で事前に調べてくる（概ね1時間）				
5	保育者との関係・友だちとの関係（保育場面についての事例検討グループワーク含む）									
6	子ども同士のトラブル（保育場面についての事例検討グループワーク含む）									
7	園行事と人間関係（保育場面についての事例検討グループワーク含む）					「思い出に残っている園行事」について事前にレポートにまとめておく（概ね1時間）				
8	領域「人間関係」と指導計画					保育指導案の書き方について復習しておく（概ね1時間）				
教科書	なし									
参考文献	『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼稚園教育要領』文部科学省、フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館									
備考	授業内課題やグループワークの成果物は、Office365の機能を用いてクラウド上に保存し、受講者が相互参照できるようにする。さらにそこで教員によるフィードバックも行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-STC-01				
	●	●								
科目名	音楽表現Ⅰ				単位 認定者	田宮 希砂		評価 の方法	試験（レポート）	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度
							授業回数		15 回	
授業の概要	本科目では、『保育所保育指針』及び『幼稚園教育要領』を踏まえ、音楽表現の基礎となる知識と技能を習得する。ピアノ実技指導は、保育の現場で活用できる教材を使用し、少人数のグループ及び個人指導の形で行う。									
到達目標	・保育者の専門性としての音楽表現について学び、基礎知識・技能を習得する。 ・乳幼児期の音楽表現への理解を深め、学生自身が音楽表現を実践する。									
学修者への期待等	音楽実技の習得は、継続的かつ繰り返しの取り組みが重要となります。それぞれの課題を十分に取 り組んでから授業に参加しましょう。									
回	授業計画					準備学修				
1	授業ガイダンスと保育の音楽表現の導入									
2	鍵盤楽器① 鍵盤を使った音遊び（実技）					各自の課題に取り組む(1時間程度)				
3	子どもと音（グループワーク）					各自の課題に取り組む(1時間程度) 教科書p.2-7「『音』からアプローチする子ども の育ち」を読んでから授業に臨むこと				
4	鍵盤楽器② 鍵盤楽器の音色を探る（実技）					各自の課題に取り組む(1時間程度)				
5	身の回りにある音に気づく・音探し（グループワ ーク）					各自の課題に取り組む(1時間程度) 教科書p.8-29「子どもの音感受の実際」を読ん でから授業に臨むこと				
6	鍵盤楽器③ 英語音名の理解と伴奏（実技）					各自の課題に取り組む(1時間程度)				
7	保育者としての音楽観（グループワーク）					各自の課題に取り組む(1時間程度) 教科書p.52-59「子どもの育ちへの共感」を読ん でから授業に臨むこと				
8	鍵盤楽器④ 単音伴奏（実技）					各自の課題に取り組む(1時間程度)				
9	音の探究と楽器作り（グループワーク）（実技）					各自の課題に取り組む(1時間程度) 教科書p.60-67「表現活動」を読んでから授業に 臨むこと				
10	鍵盤楽器⑤ コードについて（実技）					各自の課題に取り組む(1時間程度)				
11	ファシリテーターとしての役割（実技）					各自の課題に取り組む(1時間程度) 教科書p.68-81「環境構成と表現/聴くことを遊ぶ アイデア」を読んでから授業に参加すること				
12	鍵盤楽器⑥ コードを使った伴奏（実技）					各自の課題に取り組む(1時間程度)				
13	様々な楽器に親しむ（実技・グループワーク）					各自の課題に取り組む(1時間程度)				
14	鍵盤楽器⑦ 子どもの歌の伴奏法（実技）					各自の課題に取り組む(1時間程度)				
15	様々な楽器演奏の実践（実技・グループワーク）					各自の課題に取り組む(1時間程度)				
教科書	『こどものうた100』小林美実編、チャイルド本社 『「音」からひろがる子どもの世界』吉永早苗著、(株)ぎょうせい									
参考文献	随時紹介します。									
備考	田宮希砂、大石祥之、川村智英子、高橋真美、田中美沙、富永睦子、半澤恵子、吉田明香里の8名で授 業を行う。課題のうち提出されたものに関しては、内容確認の上次回以降返却する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-STC-02				
		●								
科目名	音楽表現Ⅱ				単位認定者	田宮 希砂		評価の方法	試験（レポート）	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度
						授業回数	15 回			
授業の概要	本科目では、音楽表現Ⅰで学んだ基礎知識と技能を基に、季節や行事にあわせた「弾き歌い」のレパートリーを増やし、保育現場での表現力を高めてゆくことを目標とする。ピアノ実技指導は、一人ひとりの進度に配慮し、少人数のグループ及び個人指導の形で行う。									
到達目標	保育者としての観点から音楽表現への理解を深め、学生自身が実践する。									
学修者への期待等	音楽実技の習得は、継続的かつ繰り返しの取り組みが重要となります。それぞれの課題を十分に取り組んでから授業に参加しましょう。									
回	授業計画					準備学修				
1	オリエンテーション 保育現場の音楽あそび					教科書p.82-94「環境構成と表現/聴くことを遊ぶアイデア」を読んでから授業に参加すること（1時間程度）				
2	こどもの歌の弾き歌い① メロディを弾きながら歌う（実技）					各自の課題に取り組む（1時間程度）				
3	発達と音楽表現（グループワーク）					各自の課題に取り組む（1時間程度） 教科書p.95-103「全年齢で同じ歌に取り組むことから見えてきたこと」を読んでから授業に参加すること				
4	こどもの歌の弾き歌い② 左手単音を弾きながら歌う（実技）					各自の課題に取り組む（1時間程度）				
5	保育と音楽教育法（グループワーク）					各自の課題に取り組む（1時間程度）				
6	こどもの歌の弾き歌い③ 和音伴奏を弾きながら歌う（実技）					各自の課題に取り組む（1時間程度）				
7	保育現場の歌唱活動（グループワーク）					各自の課題に取り組む（1時間程度） 教科書p.120-127「保護者とともに」を読んでから授業に参加すること				
8	こどもの歌の弾き歌い④ 様々な伴奏パターンに親しむ（実技）					各自の課題に取り組む（1時間程度）				
9	歌唱活動の計画立案（グループワーク）					各自の課題に取り組む（1時間程度）				
10	こどもの歌の弾き歌い⑤ 様々な伴奏パターンに親しみ、弾きながら歌う（実技）					各自の課題に取り組む（1時間程度）				
11	歌唱活動実践準備（グループワーク・実技）					各自の課題に取り組む（1時間程度）				
12	こどもの歌の弾き歌い⑥ 世界のリズムを表現する（実技）					各自の課題に取り組む（1時間程度）				
13	歌唱活動実践（グループワーク・実技）					各自の課題に取り組む（1時間程度）				
14	こどもの歌の弾き歌い⑦ 弾き歌いのまとめと2年次への課題を考える（実技）					各自の課題に取り組む（1時間程度）				
15	歌唱活動実践の振り返り（グループワーク・実技）					各自の課題に取り組む（1時間程度）				
教科書	『こどものうた100』小林実編、チャイルド本社 『「音」からひろがる子どもの世界』吉永早苗著、(株)ぎょうせい									
参考文献	随時紹介します。									
備考	田宮希砂、大石祥之、川村智英子、高橋真美、田中美沙、富永睦子、半澤恵子、吉田明香里の8名で授業を行う。課題のうち提出されたものに関しては、内容確認の上次回以降返却する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
						CS-1-STC-04				
	●	●								
科目名	造形表現				単位 認定者	芳賀 哲		評価の 方法	試験(レポート)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	30 %
						授業時間数	30 時間		授業態度	20 %
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	子どもの心身の発達や取り巻く環境等と「保育所保育指針」を踏まえて、子どもが意欲的に造形活動を楽しみ、取り組めるように、援助者としての理解を深め、技能を高める。									
到達目標	指導者として自らが造形表現を楽しむとともに、幼児が参加したくなる造形活動を考え、具体的にどのように導くのかを実践し、その技能を磨き、さらに指導案上にまとめられるようになる。									
学修者への 期待等	造形表現活動を楽しみ、その体験をどのように子どもたちに伝えるかを深く追求してほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	幼児にとっての造形活動の意義、及び計画について学ぶ					テキストの5章の「造形表現指導の実際」①～⑤を読んでおくこと(1時間)				
2	自己紹介グッズの計画書を仕上げる					造形プログラム計画について復習しておくこと(1時間)				
3	自己紹介グッズを作る(実技)					自己紹介グッズ作りの準備をしておくこと(1時間)				
4	自己紹介グッズを発表する					自己紹介グッズを完成してくる。(2時間)				
5	造形指導の指導案について学ぶ					テキストの5章の「造形表現指導の実際模擬」⑥～⑧を読んでおくこと(1時間)				
6	指導案の書き方を復習し、幼児に展開してみたい造形計画を考える					指導案の書き方を復習しておくこと(1時間)				
7	指導計画を形にするとともに、指導案にしてみる					造形活動作品を完成させてくる(1時間)				
8	指導案を完成させ、より良いものにする					指導案を完成させてくる(2時間)				
9	ネズミの指人形をつくる(実技)					ネズミの指人形のストーリーを考えてくる(30分)				
10	ネズミの指人形をコーティングし、演技方を学ぶ(実技)					ネズミの指人形を完成してくること(30分)				
11	折り紙について学び、幼児にプレゼント出来るものを作り、学生同士でプレゼント交換を行う(実技)					人形劇のやり方を復習しておくこと(30分)				
12	カエルの指人形を作り演技方を学ぶ(実技)					レポートを完成させてくること(2時間)				
13	はばたく仕掛けとその応用作品を作る(実技)					何を羽ばたかせたら面白いのか、考えてくる(30分)				
14	回る仕掛けの作品を作る(実技)					何を回転させたら面白いのか、考えてくる(30分)				
15	造形活動を豊かにするための実践を知る					テキスト6章「造形カタログ」③④を読んでもくこと(1時間)				
教科書	『保育をひらく造形表現』槇英子著、萌文書林									
参考文献										
備考	授業内課題については、その都度、コメントする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング					
		●	●	●		CS-1-STC-07					
科目名	総合表現演習Ⅰ					単位 認定者	鈴木 純子		評価の方法	試験 (レポート)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位	授業内課題等		40 %	
						授業時間数	30 時間	受講態度		10 %	
				授業形態	演習	授業回数	15 回				
授業の概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と、「保育所保育指針」の内容の理解を踏まえ、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。また、身近な自然やものの音や音色、声や音楽等に親しみを持ち、身体的な表現が出来るように実践力を養う。										
到達目標	1. 子どもを取り巻く環境に応じた遊びを実践することができる。 2. 保育教材を的確に判断、使用し、遊びに繋げることができる。										
学修者への期待等	子どもの感性を育むための「表現活動」を踏まえ、保育者としての実践力を高められるように様々な体験・学修から見識を深められるようにしてほしい。また、限られた時間の中で計画的に準備を行い、グループ活動等協力しながら積極的に学修することを望む。										
回	授業計画					準備学修					
1	子どもを取り巻く環境と心身の発達					保育内容の5領域について確認する (概ね1時間)					
2	子どもの遊び①：保育教材の作成 (グループワーク)					保育所保育指針第2章「保育の内容」を熟読しておく (概ね1時間)					
3	子どもの遊び②：保育教材の活用 (グループワーク)					予め、パネルシアターの製作を進めておくこと (概ね2時間)					
4	保育教材の発表①：保育教材の実演					活動計画書を立案しておくこと (概ね1時間)					
5	保育教材の発表②：構成を考える					実演準備をおこなう (概ね1時間)					
6	保育教材の発表③：パネルシアターの実演					台本の製作を進めておくこと (概ね2時間)					
7	保育教材の発表④：パネルシアターの工夫					保育教材の作成 (概ね1時間)					
8	絵本の読み聞かせ					絵本を選んでおく (概ね1時間)					
9	子どもの表現について (グループワーク)					子どもの表現について自分の考えをまとめる (概ね1時間)					
10	グループ発表①：子どもの身体表現と感性					身体表現について授業を振り返る (概ね1時間)					
11	グループ発表②：子どもの言葉表現について					紙芝居を調べておく (概ね1時間)					
12	グループ発表③：子どもの言葉表現と感性					絵本・紙芝居を読む (概ね1時間)					
13	作品鑑賞：オペレッタ (グループワーク)					様々な表現方法の実践について考える (概ね1時間)					
14	遊びのロールプレイ：保育教材の活用 (グループワーク)					子どもに対する言葉遣いや話し方について練習する (概ね2時間)					
15	表現活動の振り返りを通した自己課題の分析					ロールプレイの反省点や課題をまとめておくこと (概ね1時間)					
教科書	『わらべうたによる音楽教育』本間雅夫・鈴木敏朗著、自由現代社 その他適宜、参考資料を提示・配布する										
参考文献	『幼稚園教育要領』文部科学省、フレーベル館 『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館										
備考	「絵本の読み聞かせ」に関しては図書館司書の方に講義をしていただきます。発表は積極的に行うように心がけ、意欲的に授業に参加してください。授業内の課題は、確認後に授業の中でコメントします。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-PEN-01				
	●			●						
科目名	教職論				単位認定者	堀之内 敏恵		評価の方法	試験（筆記）	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内課題	40 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
				授業回数			15 回			
授業の概要	本講義は、保育者（幼稚園教諭）の本質について考察することを目的とする。この目的を達成するため、保育者に求められる資質・能力とその形成過程、役割と倫理、制度的な位置付けについて集中的に講じていく。さらには、保護者や地域社会との連携、幼・小の連携、保育者と保護者の協働についても考察し、最終的には保育者の専門性とは何かを追究していく。									
到達目標	・教職の意義、職業的特徴について理解している。 ・現代社会において教師（保育者）に求められる役割、基礎的な資質・能力を理解している。 ・教員の職務内容や服務、責任について理解している。 ・教師が内外の専門家と連携・分担して諸課題に対応する重要性を理解している。									
学修者への期待等	講義形式を基本とするが、グループワーク等も行うので、積極的な授業参加を期待する。日ごろから教育に関する報道に関心を持ち、情報収集すること。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス ＜良い＞先生とはどんな先生か？（グループワーク）					【事前】これまでに会った「先生」について思い返しておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
2	教職の意義 教師と教員は何が違うのか？（ディスカッション）					【事前】先生、教師、教員、教諭、保育者等、類似語の相違について考えておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
3	教員養成の歴史 教員養成はいつから始まったのか？					【事前】日本において教員養成はいつから始まったのか調べておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
4	教師像 教師像の変遷					【事前】第3回の講義を踏まえて、目指そうとする教師像について考えておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
5	教師の役割と仕事① 教師の仕事の特質とは？（グループワーク）					【事前】他の職業と比較して、教師の職業的特徴は何か考えておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
6	教師の役割と仕事② 教師の仕事の具体的内容とは？					【事前】幼稚園教諭の1日の仕事内容について調べておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
7	法令からみた教員 教員の身分、服務とは？					【事前】学校教育法第22条～第27条、教育職員免許法第1条～第14条の2の内容を確認しておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
8	教師の職場環境 就業実態、満足度					【事前】新聞等を活用し、日本の教師の現状について調べておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
9	教師の抱える諸問題 保護者対応、メンタルヘルス（ディスカッション）					【事前】新聞等を活用し、日本の教師の現状について調べておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
10	チームとしての学校① 教員以外の専門スタッフとの連携・協働					【事前】学校には「先生」以外にどのような大人（職員など）がいたか思い返しておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
11	チームとしての学校② 地域社会、保護者との連携・協働（グループワーク）					【事前】学校と地域社会との連携・交流として、どのような機会があったか思い返しておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
12	教師に求められる専門性 教師に求められる資質能力、専門性とは？（ディスカッション）					【事前】教師に求められる資質能力、専門性とは何かを考えておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
13	教師のキャリア形成と研修 学び続けることはなぜ必要か？					【事前】教師が学び続けることの必要性について考えておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
14	進路選択と教員採用選考 公立の場合／私立の場合（グループワーク）					【事前】進路選択について自分の考えを再確認しておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
15	まとめ 教職についての自己の課題と教師像					【事前】自分なりの教師像とそれに向けた自己の課題について考えておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
教科書	指定しない。プリントを配布するので、ファイリングして授業時に持参すること。									
参考文献	『2025年版ポケット教育小六法』伊藤良高他編、晃洋書房 『幼稚園教育要領』文部科学省、フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館									
備考	授業内課題については、内容を確認し、次回以降の授業でコメントする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-PEN-02					
	●		●								
科目名	保育原理					単位認定者	小野瀬 剛志 鈴木 享之		評価の方法	試験(レポート)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	授業内課題		40 %	
					授業形態	講義	授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
							授業回数	15 回			
授業の概要	保育とは、子どもの生命の保持及び情緒の安定を図る養護と、子どもの心身の成長・発達を促す教育とが一体となった営みである。このことを基盤に本科目では、『保育所保育指針』における保育の基本や、保育の思想と制度の歴史的変遷を理解し、保育の現状と課題について考察する。										
到達目標	1. 保育とは何か、その基本である意味や意義を理解する。 2. 保育の場である保育所・幼稚園・認定こども園の保育や役割を理解する。 3. 保育の歴史を学んだり、保育の今日的課題を考察して自ら望ましい保育観、保育者観を構築する。										
学修者への期待等	・本授業は他の科目の本源になるのでしっかりノートを取って聞くようにする。 ・「保育所保育指針解説書」と「幼稚園教育要領解説」は毎回持参してできるだけ目を通すようにする。										
回	授業計画					準備学修				担当	
1	ガイダンス（授業概要の説明、受講に当たっての留意点）、子ども観と保育									小野瀬 剛志	
2	子どもと子どもの権利					教科書第1章から「子どもの権利」についてまとめておく（概ね1時間）				小野瀬 剛志	
3	子ども観・保育観の重要性（子どもを「観る」とは？）									小野瀬 剛志	
4	保育の歴史と思想①（古代ギリシャ、ローマの教育）					「子どもとは何か」について自分の考えをまとめる（概ね1時間）				小野瀬 剛志	
5	保育の歴史と思想②（中世ヨーロッパからルネサンス期の「子ども」）					教科書第11章第2・3節の内容から「子ども観」の変化について考えをまとめておく（概ね1時間）				小野瀬 剛志	
6	保育の歴史と思想③（近代社会と「子ども」）					教科書第11章第3節から「子どもの発見」について考えをまとめておく（概ね1時間）				小野瀬 剛志	
7	保育の歴史と思想④（「児童中心主義」と保育）					教科書第11章第4節から「児童中心主義」の意義について考えをまとめておく（概ね1時間）				小野瀬 剛志	
8	保育思想と現代の保育観					教科書第11章の中で触れられている保育思想からとくに印象に残ったものを選び、自己学修してくる（概ね1時間）				小野瀬 剛志	
9	日本の保育の歴史（明治以前と昭和以降）					教科書第12章第1～4節から現代の保育観（子ども観）と明治以前の保育観の違いと日本における保育の近代化についてまとめておく（概ね2時間）				鈴木 享之	
10	現代の保育を支える制度と子ども中心主義（保育所、幼稚園、こども園）					教科書第3章2節の内容から保育所、幼稚園、こども園の違いを整理しておく（概ね1時間）				鈴木 享之	
11	保育の二つの目標と両義性									鈴木 享之	
12	保育のねらいと内容①（未満児）-子どもを見る目を中心に-					教科書第5章から未満児の保育の特徴について整理しておく（概ね1時間）				鈴木 享之	
13	保育のねらいと内容②（以上児、小学校との接続）-保育を見る保育者の目を中心に-					教科書第6章第1節から「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について予習してくる（概ね1時間）				鈴木 享之	
14	保育のねらいと内容③（地域、家庭との連携）-保育者の対応を中心に-					教科書第10章の内容から保育者と、保護者や地域の連携について予習してくる（概ね1時間）				鈴木 享之	
15	総括（保育者になるために必要なことは何かをグループワークを通して考える）									鈴木 享之	
教科書	『つながる保育原理』小原敏郎他編、みらい										
参考文献	『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府、フレーベル館 『幼稚園教育要領』文部科学省、フレーベル館										
備考	講義は1～8回目までは遠隔（オンデマンド）で、9～15回目は対面で実施する。授業内課題は、後日、コメント、評価などをつけて返却する。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-PEN-07				
	●			●						
科目名	教育原理				単位 認定者	堀之内 敏恵		評価の方法	試験（筆記）	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題	40 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	本講義は、保育所・幼稚園の指導者を目指す者に必要な教育学全般の知識を教授し、あわせて幼児教育者に求められる資質を育成することを目的とする。具体的には次のアウトラインに沿った形で講義を進める。教育とは何か、教育思想史にみる「教育」の概念の多様性、幼稚園（保育所）・家庭・地域社会の相互性、学校制度論（主として明治期から現在までの幼児教育制度と教育課程）、日本国憲法及び教育基本法にみるわが国の教育目的等の内容である。									
到達目標	・教育の意義、目的、概念に関する基礎的な知識を習得している。 ・教育の思想および歴史の基礎を理解している。									
学修者への期待等	講義形式を基本とするが、グループワーク等も行うので、積極的な授業参加を期待する。日ごろから教育に関する報道に関心を持ち、情報収集すること。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス - 教育経験を振り返る（グループワーク）					【事前】「教育」という言葉から連想するイメージや言葉をこれまでの教育経験を踏まえて考えておく（概ね1時間）				
2	「教育」という営み① 目的（ディスカッション）					【事前】第1回の授業内容を踏まえ、「教育」に対する考えを深めておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
3	「教育」という営み② 内容（ディスカッション）					【事前】「教育」の意味について、複数の辞書を使い調べておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
4	子ども期の普及 子どもとはどのような存在か					【事前】「子ども」という言葉から連想するイメージについて考えておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
5	日本における子ども観					【事前】子どもに関わる、子どもの時に聞いた「言い伝え」「迷信」について思い返しておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
6	教育の思想と歴史① 近代学校の誕生 - なぜ学校は作られたのか（ディスカッション）					【事前】「学校」とはどのような場所か、これまでの教育経験を踏まえて考えておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
7	教育の思想と歴史② 学校という制度 - 「国民」教育の成立					【事前】寺子屋について調べ、近代学校との違いについて考えておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
8	教育の思想と歴史③ 戦時下の教育（ディスカッション）					【事前】授業資料「教育勅語」の現代語訳を読んで、内容を確認しておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
9	教育の思想と歴史④ 戦後教育改革 - 教育に期待された役割					【事前】授業資料「教育基本法」を読んで、内容を確認しておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
10	人間と教育① 遺伝と環境（グループワーク）					【事前】「蛙の子は蛙」とはどのような意味のことわざか、類似のことわざについても調べておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
11	人間と教育② 成長発達の適時性					【事前】人間にはなぜ教育が必要なのかを考えておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
12	人間と教育③ 社会化					【事前】「社会化」という言葉について、複数の辞書を使い調べておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
13	今日の教育問題 ①コロナ禍における学校（ディスカッション）					【事前】新聞等を活用し、コロナ禍における学校のありようについて調べておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
14	今日の教育問題 ②教育格差（ディスカッション）					【事前】新聞等を活用し、教育格差について調べておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
15	まとめ 「教育原理」を通しての学びを振り返る					【事前】講義を通して考えてきた「教育」という営みについて、見解をまとめておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
教科書	指定しない。プリントを配布するので、ファイリングして授業時に持参すること。									
参考文献	『2025年版ポケット教育小六法』伊藤良高他編、晃洋書房 『幼稚園教育要領』文部科学省、フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館									
備考	授業内課題については、内容を確認し、次回以降の授業でコメントする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-PEN-03				
			●		●					
科目名	社会福祉				単位認定者	田中 公一		評価の方法	試験（レポート）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題	30 %
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷等を学び、子ども家庭福祉との関係性と社会福祉の制度と法体系等を理解する。さらに社会福祉における相談援助や利用者保護にかかわる仕組み等について理解する。これらのことを踏まえ、社会福祉の動向と課題について考察する。									
到達目標	社会福祉の基本を学び、その知識を保育現場での保護者支援や相談援助に活用できるようになる。									
学修者への期待等	社会福祉は、日々刻々と変化しているので新聞記事やニュースの記事に興味・関心を持ち、講義に臨んで欲しい。そして、社会福祉の実践が生活と密着し、身近なものであることに理解を深めてほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	現代の生活と社会福祉 社会福祉の原理 社会福祉の政策					教科書第1章「社会福祉の原理と政策」を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）				
2	欧米の社会福祉の歴史的形成 日本の社会福祉の歴史的形成					教科書第2章「社会福祉の歴史的形成」を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）				
3	社会福祉法 福祉六法 その他の主要な法律					教科書第3章「社会福祉の法律」を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）				
4	社会福祉の行財政 社会福祉の機関 社会福祉の施設					教科書第4章「社会福祉の制度と実施体系」を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）				
5	社会福祉の民間活動 民間の社会福祉活動の内容 民間の社会福祉活動の課題					教科書第5章「社会福祉の民間活動」を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）				
6	社会福祉専門職の現状と資格制度 社会福祉専門職の専門性と倫理 保健・医療関係分野の専門職との連携					教科書第6章「社会福祉専門職」を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）				
7	【ロールプレイ】 ソーシャルワークの理論 ソーシャルワークの方法 相談援助の基本姿勢					教科書第7章「ソーシャルワーク」を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）				
8	広義と狭義の権利擁護制度 成年後見制度 日常生活自立支援事業 権利擁護に関わる相談を受ける組織					教科書第8章「権利擁護を支える法制度」を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）				
9	【グループワーク・ディスカッション】 子ども家庭福祉 子ども家庭福祉の内容 子ども家庭福祉の課題 地域にある児童福祉施設					教科書第9章「子ども家庭福祉」を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）				
10	高齢者保健福祉 高齢者保健福祉の内容 高齢者保健福祉の課題					教科書第10章「高齢者保健福祉」を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）				
11	【グループワーク・ディスカッション】 障がい者福祉 障がい者福祉の内容 障がい者福祉の課題 地域にある障がい者施設					教科書第11章「障がい者福祉」を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）				
12	生活保護 生活保護の内容 生活保護の課題					教科書第12章「生活保護」を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）				
13	地域福祉 地域福祉の内容 地域福祉の課題					教科書第13章「地域福祉」を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）				
14	医療福祉 医療福祉の内容 医療福祉の課題					教科書第14章「医療福祉」を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）				
15	社会の変化と社会福祉の課題 これからの社会福祉の課題 多文化共生社会構築へ向けた今後の方向性					教科書第15章「社会福祉の今後の課題」を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）				
教科書	『社会福祉の内容と課題』井村圭壮 編著、勁草書房 『福祉・保育小六法』福祉・保育小六法編集委員会編、みらい									
参考文献	随時、講義の中で紹介する。									
備考	授業内において、適宜、課題等の作成を指示するので意欲的に取り組むこと。 なお、提出された課題は、内容確認・評価後に講評及び返却するので準備学修や試験対策に役立てること。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-SEN-01				
	●			●						
科目名	教育制度論				単位認定者	堀之内 敏恵		評価の方法	試験（筆記）	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	40 %
						授業時間数	16 時間			
					授業形態	講義	授業回数		8 回	
授業の概要	現代日本の教育は、幼児教育を含め、制度（システム）として作られ、具体的には教育行政として動かされている。そして、教育行政は、すべて日本国憲法や教育関係法規にもとづいて実施されている。また、幼児教育制度については、少子化社会等を背景として、幼児教育そのものが注目を集めており、こうしたなかで教育・保育の質と量を確保していくための制度改革が進められている。このようなことを踏まえ、「教育制度論」では、現行の幼児教育制度への理解を深めるとともに、その課題について考察していく。									
到達目標	・日本の幼児教育制度について、基礎的な知識（理念、関係法規、仕組みなど）が身についている。 ・幼稚園と家庭、地域、小学校との連携について理解している。 ・保育に携わる者として学校安全への対応の重要性を理解している。									
学修者への期待等	講義形式を基本とするが、グループワーク等も行うので、積極的な授業参加を期待する。日ごろから教育に関する報道に関心を持ち、情報収集すること。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス 教育制度とは					【事前】教育に関する制度や法律を学ぶ意義について考えておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
2	教育制度を支える教育行政、構成する関係法規（グループワーク）					【事前】文部科学省の主な仕事（所掌事務）にはどのようなものがあるか調べておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
3	戦前・戦後の日本の幼児教育制度					【事前】日本における幼児教育の始まりについて調べておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
4	現代日本の幼児教育制度					【事前】学校教育法第22条～第27条の内容を確認しておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
5	幼稚園と家庭、地域との連携（ディスカッション）					【事前】幼稚園と家庭、地域との連携が求められる理由について考えおく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
6	幼稚園と小学校との連携					【事前】幼稚園と小学校との連携が求められる理由について考えおく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
7	学校安全への対応① 教育活動にひそむ危険（グループワーク）					【事前】幼稚園内での保育活動にひそむ危険について考えておく【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
8	学校安全への対応② 災害時の安全対策					【事後】補足のDVDを視聴する、授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
教科書	『2025年版ポケット教育小六法』伊藤良高他編、晃洋書房 プリントを配布するので、ファイリングして授業時に持参すること。									
参考文献	『幼稚園教育要領』文部科学省、フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館									
備考	授業内課題については、内容を確認し、次回以降の授業でコメントする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング					
	●				●	CS-1-SEN-02					
科目名	子ども家庭福祉					単位 認定者	鈴木 享之		評価の 方法	試験（レポート）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	受講態度		30 %	
						授業時間数	30 時間				
				授業形態	講義	授業回数	15 回				
授業の概要	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷等を学び、子どもの人権擁護、子ども家庭福祉に関係する制度や実施体系等について理解する。これらの理解を踏まえ、子ども家庭福祉の動向と展望について考察する。										
到達目標	保育士が子ども家庭福祉の担い手であることを認識し、その対象となる児童の理解およびその実践的な理解を深める。										
学修者への期待等	保育士資格取得のための科目でもあり、日頃から新聞記事やニュースなどにも接し、「子ども家庭福祉」の分野への興味や関心を持てるようにすること。										
回	授業計画					準備学修					
1	子ども家庭福祉と情緒の交流					今日の様々な児童問題について整理しておくこと（概ね1時間）					
2	子ども家庭福祉と保育の本質										
3	現代社会と子ども家庭福祉					教科書第1章第1節の内容から「現代社会の子どもと家庭」について考えをまとめる（概ね1時間）					
4	子ども家庭福祉の概念およびその理念					教科書第2章第1・2節の内容から子ども家庭福祉の概念及び理念を概観しておくこと（概ね1時間）					
5	子ども家庭福祉の歴史的展開①欧米における展開					教科書第2章第3節から欧米の子ども家庭福祉の展開について概観しておくこと（概ね1時間）					
6	子ども家庭福祉の歴史的展開②わが国における展開					教科書第2章第3・4節から日本の子ども家庭福祉の歴史の変遷を概観しておくこと（概ね1時間）					
7	子ども家庭福祉の法体系①児童福祉法と問題点					教科書第3章第1節から児童福祉の法体系についてまとめること。また小六法の児童福祉法の内容について予習しておくこと（概ね1時間）					
8	子ども家庭福祉の法体系②その他の関連する法律					教科書第3章第1節から児童福祉の関連する法律を概観しておくこと（概ね1時間）					
9	子ども家庭福祉の実施体制①行政機関およびその関連機関					教科書第3章第2節から特に児童相談所の役割・機能について予習してくること（概ね1時間）					
10	子ども家庭福祉の実施体制②児童福祉施設					教科書第3章第2節から特に児童福祉施設の種別について予習してくること（概ね1時間）					
11	子ども家庭福祉施策の現状と課題 ①子ども・子育て支援施策					教科書第4章第1・2節から特に保育サービス（子育て支援サービスも含む）について整理しておくこと（概ね2時間）					
12	子ども家庭福祉施策の現状と課題 ②母子保健、障害児、健全育成					教科書第4章第3. 4. 5節で触れられている各サービスの概要を整理しておくこと（概ね2時間）					
13	子ども家庭福祉施策の現状と課題 ③社会的養護、ひとり親、DV					教科書第4章第6. 7. 8節で触れられている各サービスの概要を整理しておくこと（概ね2時間）					
14	子ども家庭福祉と権利擁護					教科書第3章第5節で触れられている子どもの権利擁護について今までの授業内容を振り返りながら、子ども権利擁護について自己学修をしてくること（概ね1時間）					
15	総括 - これからの子ども家庭福祉についてディスカッションを通して考える										
教科書	『最新保育士養成講座 第3巻 子ども家庭福祉』 編纂委員会編、全国社会福祉協議会										
参考文献	随時、講義の中で紹介する。										
備考											

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-SEN-03					
	●	●									
科目名	社会的養護Ⅰ					単位認定者	田中 公一		評価の方法	試験（レポート）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	授業内課題		30 %	
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間				
						授業回数	15 回				
授業の概要	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷等を学び、子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本を理解する。さらに社会的養護の制度と法体系等の理解や関係する専門職等の理解を通し、今後の動向と課題について考察する。										
到達目標	子どもにとって、健全な家庭環境が不可欠なものであることを理解する。また、養護を必要とする子どもたちへの具体的な支援・援助方法の知識を得、保育現場で活用できるようになる。										
学修者への期待等	本科目は社会福祉、児童家庭福祉、心理学関係、教育学関係等子どもに関する分野と連携していることを理解しておくこと。										
回	授業計画					準備学修					
1	子どもの最善の利益、すべての子どもを社会全体で育む、社会的養護の定義					教科書第1章「社会的養護の理念と定義」を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）					
2	バーナードホーム、児童の権利に関する宣言、白亜館会議					教科書第2章「社会的養護の歴史」を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）					
3	子どもの権利擁護の取り組み、第三者評価					教科書第3章「児童の権利擁護と社会的養護」を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）					
4	個別化、自立支援、集団の活用					教科書第4章「社会的養護の基本原則」を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）					
5	【グループワーク・ディスカッション】専門職の倫理、専門職の資質、倫理綱領					教科書第5章「社会的養護における保育士等の倫理と責務」を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）					
6	児童福祉関係法の目的と内容					教科書第6章「社会的養護の制度と法体系」を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）					
7	児童福祉の機関と施設（養護系、障がい者系、情緒・行動系）					教科書第7章「社会的養護の仕組みと実施体系」を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）					
8	保護者のない児童、保護者に監護させることが適当でない児童、障がい児					教科書第8章「社会的養護の対象」を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）					
9	家庭養護、家庭的養護、施設養護					教科書第9章「家庭養護と施設養護」を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）					
10	【グループワーク・ディスカッション】社会的養護に関する専門職と職務内容					教科書第10章「社会的養護の専門職」を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）					
11	社会的養護の地域化、施設の小規模化、里親、虐待対応					教科書第11章「社会的養護に関する社会的状況」を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）					
12	児童福祉施設の設備及び運営に関する基準などの理解					教科書第12章「施設等の運営管理」を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）					
13	児童虐待の防止等に関する法律などの理解					教科書第13章「被措置児童等の虐待の防止」を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）					
14	児童健全育成施策などの理解					教科書第14章「社会的養護と地域福祉」を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）					
15	【グループワーク・ディスカッション】社会的養護の広がり今後の課題					教科書第15章「社会的養護の課題」を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）					
教科書	『現代の保育と社会的養護Ⅰ』井村圭壮・今井慶宗 編著、勁草書房										
参考文献	随時、講義の中で紹介する。										
備考	授業内において、適宜、課題等の作成を指示するので意欲的に取り組むこと。なお、提出された課題は、内容確認・評価後に講評及び返却するので準備学修や試験対策に役立てること。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-SSE-01				
	●	●	●	●	●					
科目名	子ども理解の理論と方法				単位 認定者	菅原 弘 早坂 正年		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	子どもの望ましい発達を支える教育活動を提供するためには、子どもを多角的な視点から理解する知識と技術が要求される。この科目では、はじめに、発達の諸相を概観したうえで子どもを取り巻く様々な諸問題について学ぶ。次に、幼児や児童の個々人が様々な課題を抱えており、このような悩みや問題等の課題に対して指導者である教師が適切に対処することの重要性を学ぶ。家庭との円滑な連携の図り方や幼小連携の重要性についても理解を深め、今日の幼児教育者に求められる資質とは何かを具体的に学ぶ。									
到達目標	1 幼児や児童を理解するために必要な知識を獲得できる。 2 幼児や児童の当面する諸課題について理解できる。 3 学級や学校（幼稚園）の生活への適応を図る重要性を理解できる。 4 幼児や児童の適応を支援する方途について理解できる。									
学修者への期待等	自ら積極的に予習し、グループワークなどを通して多くの考えに触れ子どもについて考え続けてください。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	子ども理解の理論と方法への導入 (保育者における子ども理解の重要性)				TV・新聞等を活用し、子どもをめぐる諸問題について理解を深めておくこと（1時間程度）			早坂 正年		
2	子ども理解の基本① (子どもを取り巻く現代社会の理解)				TV・新聞等を活用し、現代社会の諸問題について理解を深めておくこと（1時間程度）			早坂 正年		
3	子ども理解の基本② (子どもの発達の概要)				他の関連科目を復習し、子どもの発達について整理しておくこと（1時間程度）			早坂 正年		
4	発達にともなう諸問題の理解 (不登校・いじめ等の現状について)				TV・新聞等を活用し、不登校・いじめについて理解を深めておくこと（1時間程度）			早坂 正年		
5	子ども理解の技法（観察法を中心に）				TV・新聞等を活用し、こころの健康について理解を深めておくこと（1時間程度）			早坂 正年		
6	現代社会で必要とされる教師の姿勢				専門書等を活用し、心理アセスメントの用語理解を行っておくこと（1時間程度）			早坂 正年		
7	幼稚園等での諸問題（発達理解、保護者への対応、専門家との連携等）について				幼稚園等においてどのような問題があるか考えておくこと（1時間程度）			早坂 正年		
8	子ども理解①様々な子どもの姿の理解 (“気になる子ども”とは)				既習の内容について配布資料等を活用して復習しておくこと（1時間程度）			菅原 弘		
9	子ども理解②子どもと障害、家族と障害 (グループワーク)				既習の内容について配布資料等を活用して復習しておくこと（1時間程度）			菅原 弘		
10	子ども理解③子どもと貧困				子どもと貧困について、事前に新聞等で理解を深めておくこと（1時間程度）			菅原 弘		
11	子ども理解④子どもと虐待・DV				子どもと虐待・DVについて、事前に新聞等で理解を深めておくこと（1時間程度）			菅原 弘		
12	家族の姿と子どもの姿 (グループワーク)				配布資料を振り返り家族について考える（1時間程度）			菅原 弘		
13	家庭との連携				今までの授業を振り返っておくこと（1時間程度）			菅原 弘		
14	幼小連携の意義と課題について (グループワーク)				幼小連携について問題となることを考えておくこと（1時間程度）			菅原 弘		
15	まとめ 「子ども理解の理論と方法」を通しての学びを振り返る				これまでの授業を振り返っておくこと（1時間程度）			菅原 弘 早坂 正年		
教科書	適宜資料を配布する。									
参考文献	『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『幼児連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館									
備考	授業で提示した課題については、回収後に内容を確認し、以後の授業時に返却する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

特別支援学校・特別支援学級・通常の学級および生徒指導・特別支援教育コーディネーターでの経験を踏まえ、個別の事例に向き合う姿勢を培いながら、子どもを理解するための基本的な手立てを掘り下げて考える（菅原）。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
	●			●		CS-1-SSE-02				
科目名	生涯発達心理学 I				単位 認定者	平田 修三 早坂 正年		評価の 方法	試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内課題	50 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	特に乳幼児期の発達を概観しながら、発達に関する主要な理論を修得し、教育活動における発達理解の重要性について学ぶ。さらに、発達に応じた学習支援の展開などについて理解を深める。									
到達目標	1. 主に幼児の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達 の概念及び教育における発達理解の意義を理解する。 2. 乳幼児期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について具体的な内容を理解する。 3. 幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習支援についての基礎 的な考え方を理解する。									
学修者への 期待等	日ごろから乳幼児と関わる機会を積極的に作り、授業で身につけた知識と実際の子どもの姿を結びつ けるような学修を心がけてほしい。									
回	授業計画					学修準備			担当	
1	ガイダンス：生涯発達心理学を学ぶ意義								平田修三	
2	生涯発達とは何か？（受講者の発達観や保育観を互いに読み比べて学習を深める双方向型の課題にも取り組む）					「自分の発達観・保育観」について事前にミニレポートにまとめておく（概ね1時間）			平田修三	
3	妊娠・出産をめぐる母親の心理と現代的問題					「生殖補助医療技術」について調べておく（概ね1時間）			平田修三	
4	新生児の感覚運動器官の発達								平田修三	
5	アタッチメント								平田修三	
6	人間関係の中での発達（質問票をもとに自らの発達をふり返る実習にも取り組む）					「誕生から現在にかけて自分の発達に影響を与えた人たち」をノートに書き出しておく（概ね30分）			平田修三	
7	コミュニケーションの初期発達					「指さしの種類」について事前に調べておく（概ね1時間）			平田修三	
8	遊びの発達（受講者自身の幼児期の遊びの意義を考察する実習にも取り組む）					「幼児期に楽しかった遊び」についての事前アンケートに回答する（概ね30分）			平田修三	
9	人の心の理解の発達								平田修三	
10	道徳性の発達					「ハインツのジレンマ」について事前に調べておく（概ね1時間）			平田修三	
11	学習心理学の基礎・乳幼児への適用（発表）					「パブロフの犬」について事前に調べておく（概ね1時間）			早坂正年	
12	乳幼児の学習行動を促すには①：正統的周辺参加論、モデリング説（発表）					これまでに学修した発達理論を復習しておく（概ね1時間）			早坂正年	
13	乳幼児の学習行動を促すには②：動機づけ理論（発表）								早坂正年	
14	パーソナリティの発達					自分が知っている「心理テスト」について調べておく（概ね1時間）			早坂正年	
15	乳幼児の発達についての総括								早坂正年	
教科書	なし									
参考文献	『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼稚園教育要領』文部科学省、フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館									
備考	・ 講義は全て遠隔（オンデマンド）で行う。 ・ 毎回、授業内課題を課し、次回以降の授業でコメントする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

						科目ナンバリング				
						CS-1-CRE-03				
学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力					
	●	●	●							
科目名	保育内容の指導法（総論）				単位 認定者	鈴木 純子		評価の方法	試験（筆記）	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『保育所保育指針』における保育の原理と保育の内容とを関連付けて、保育の全体的な構造を捉えると同時に総合的に指導する考え方を学ぶ。また、子どもの発達の特性や発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を習得し、指導計画作成を理解する。さらに、保育は養護と教育が一体的に展開されているので、実践と結び付けて、具体的に遊びを通して育つことを理解する。									
到達目標	1 保育内容の指導法について、子どもの生活・遊びの中で総合的に捉える視点を持つことができるようになる。 2 指導計画の考え方を理解し、発達を見通した指導計画を作成する。 3 保育者の役割と指導等、保育者の専門性を理解する。									
学修者への期待等	準備学修をして積極的に授業に取り組んでください。また、グループワークや遊びの実践等を行いますので、事前に連絡する準備物（教材、服装等）を忘れないようにしてください。									
回	授業計画					準備学修				
1	オリエンテーション（授業概要、留意点等） 保育の基本と保育内容					「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園・教育保育要領」を確認しておく（概ね1時間）				
2	保育内容における指導についての見方・考え方 生活や遊びを通して総合的な保育					資料を読んでおくこと（概ね1時間）				
3	乳幼児期の発達の特性と発達過程 保育内容の展開					資料を読んでおくこと（概ね1時間）				
4	乳児の保育内容 実践事例（生活、遊び）を基にグループワーク					グループでレジュメを作成し提出すること（概ね2時間）				
5	2歳児の保育内容 実践事例（生活、遊び）を基にグループワーク					グループでレジュメを作成し提出すること（概ね2時間）				
6	3歳児の保育内容 実践事例（生活、遊び）を基にグループワーク					グループでレジュメを作成し提出すること（概ね2時間）				
7	4歳児の保育内容 実践事例（生活、遊び）を基にグループワーク					グループでレジュメを作成し提出すること（概ね2時間）				
8	5歳児の保育内容 実践事例（生活、遊び）を基にグループワーク					グループでレジュメを作成し提出すること（概ね2時間）				
9	環境を通して行う保育 支援を要する子ども理解とクラス運営					資料のまとめを確認する（概ね1時間）				
10	育みたい資質・能力、および「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と活動のつながり					「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について確認する（概ね1時間）				
11	子どもの発達過程に応じた保育、生活や遊びの発展 遊びを実践する					実践したことを資料で確認する（概ね1時間）				
12	遊びをテーマとした指導計画の作成・情報機器の活用・教材研究（グループワーク）					指導案作成のための資料を確認する（概ね1時間）				
13	模擬保育（グループワーク）：保育者の配慮、役割					教材の準備をして授業に臨むこと（概ね1時間）				
14	入学前の子ども理解と子どもの生活 小学校教育との関わり					資料のまとめを確認する（概ね1時間）				
15	保育者の専門性・保育の質					これまでの授業の振り返りを行う（概ね2時間）				
教科書	『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館									
参考文献	『遊び・学びを深める日本のプロジェクト保育 協働研究への誘い』秋田喜代美 松本理寿輝 監修 中央法規 『保育内容総論～生活・遊び・活動を通して育ちあう保育を創る～』太田光洋編著 同文書林									
備考	提出されたレポート等については確認後授業の中でコメントします。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
	●	●				CS-1-CRE-06				
科目名	保育内容の指導法（環境）				単位 認定者	小野瀬 剛志		評価 の方法	試験 （レポート）	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	30 %
				授業形態	演習	授業時間数	30 時間		受講態度	30 %
						授業回数	15 回			
授業の概要	本科目では、まず領域「環境」の意義を捉える。そして、幼児期が様々な環境にかかわりながら遊びを展開し、次第に周囲の様々な事象に好奇心を抱き、その意味や用法に疑問を持ち、物事の法則性に気づき、自分なりに考える課程を大事にしているということ等を願っていることを理解する。これらを踏まえて、身近な自然とのかかわりに関する指導法を体得する。									
到達目標	1 身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」の「ねらい」と「内容」を理解する。 2 身近な自然（季節と動植物等）とのかかわりに関する指導法（環境構成も含む）を体得する。									
学修者への期待等	指導案作成や模擬保育は、実際に教師や子どもになったつもりで取り組み、事後のグループワークでは積極的に意見交換をしてください。									
回	授業計画					準備学修				
1	オリエンテーション（授業概要の説明、人間の発達における環境の影響）									
2	5領域としての「環境」の理解（他の領域と環境の関係）									
3	子どもの成長を促す保育環境①（未満児）					各指針・要領の「環境」における「1歳以上3歳未満」のねらいや内容について読んでくる（概ね30分）				
4	子どもの成長を促す保育環境②（3歳児）					各指針・要領の「環境」における「3歳以上児」の乳児期のねらいや内容について読んでくる（概ね30分）				
5	子どもの成長を促す保育環境③（5歳児）					各指針・要領の「環境」における「3歳以上児」の乳児期のねらいや内容について読んでくる（概ね30分）				
6	自然環境を活かした保育									
7	指導案作成の基礎①（領域「環境」のねらい）									
8	指導案作成の基礎②（環境構成の方法）									
9	指導案の作成（グループワーク）					提示されたテーマに沿って、保育の指導案を構想してくる（概ね1時間）				
10	模擬保育準備（教材作成）（グループワーク）					模擬保育に必要な材料を各グループで相談し、準備してくる（概ね2時間）				
11	模擬保育①（保育者の観点）（グループワーク）									
12	模擬保育②（子どもの観点）（グループワーク）									
13	保育の評価①（保育の目的と計画）（ディスカッション）					「ねらい」の観点から模擬保育のふり返りを各グループで行ってくる（概ね1時間）				
14	保育の評価②（保育の実践）（ディスカッション）					「環境構成」の観点から模擬保育のふり返りを各グループで行ってくる（概ね1時間）				
15	総括（環境を通した保育）									
教科書	『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館									
参考文献	『持続可能な社会をつくる幼児期のESD 論—子どもと環境—』降旗信一・菊池稔編著、人言洞									
備考	授業内課題は、後日、授業内で総評とともに返却する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
		●	●			CS-1-CRE-07				
科目名	保育内容の指導法（言葉）				単位 認定者	飯島 典子		評価の方法	試験（筆記）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、こどもの発達に即した具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を身に付ける。									
到達目標	1. 領域「言葉」の発達の意義・ねらい・内容を踏まえて子どもの発達に応じた保育を創造できる。 2. 領域「言葉」に示される内容を達成するための具体的な指導法を考察することができる。									
学修者への期待等	保育の創造にあたっては積極的に教材開発に取り組み、指導の在り方を深く考えるようにしましょう。									
回	授業計画					準備学修				
1	オリエンテーション 5 領域と「言葉」との関連					保育所保育指針等の 5 領域を確認する(概ね30分)				
2	乳幼児の発達と領域「言葉」					保育所保育指針の領域「言葉」に示される発達の記述について確認する(概ね30分)				
3	年齢に相応しい児童文化財（未満児）					教材について調べる(概ね30分)				
4	年齢に相応しい児童文化財（以上児）					教材について調べる(概ね30分)				
5	児童文化財を用いた保育内容の教材研究					グループ活動の準備(概ね30分)				
6	児童文化財を用いた保育内容のグループ活動					グループ活動の準備(概ね30分)				
7	児童文化財の実践					グループ活動の振り返り(概ね30分)				
8	保育の中の言葉					テキストを読み内容の理解を深める（概ね30分）				
9	子ども主体の保育とは					テキストを読み内容の理解を深める（概ね30分）				
10	領域「言葉」と全体的な計画（3歳未満児）					保育・教育課程の復習（概ね30分）				
11	領域「言葉」と子ども理解					テキストの事例を読み理解を深める（概ね30分）				
12	子どもの言葉を引き出す保育実践					テキストの事例を読み理解を深める（概ね30分）				
13	子どもの言葉を引き出す保育計画の立案					テキストの事例を読み理解を深める（概ね30分）				
14	子どもの言葉を引き出す保育の評価					テキストの事例を読み理解を深める（概ね30分）				
15	まとめと振り返り					テキストの事例を読み理解を深める（概ね30分）				
教科書	『根付く・伸びる・発展するこどもの遊び』飯島典子・佐藤哲也編著、建帛社 『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼稚園教育要領』文部科学省、フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館									
参考文献	随時、紹介します。									
備考	授業内課題のフィードバックは授業内に行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-CRE-16				
	●		●							
科目名	特別支援教育演習 I				単位認定者	菅原 弘		評価の方法	試験(筆記)	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	30 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	障害特性を学び、一人一人にあわせた教育的支援について考える。教育課程や個別の指導計画および教育計画について理解する。専門機関や職員の連携により、障害児を支える仕組みについて学ぶ。また、障害にかかわらず、特別なニーズを必要としている子どもたちの困難さを理解し、支援について考える。									
到達目標	特別な支援を必要とする子どもの特性を挙げることができる。教育課程や支援方法を具体的に説明できる。									
学修者への期待等	事前にテキストや資料に目を通し質問等を準備して授業に参加し、情報交換（アンケート、ディスカッション、グループワーク）に積極的な姿勢で臨むこと。									
回	授業計画				準備学修					
1	障害をもつ子どもたちについて理解を深める				教科書の目次とプロローグを読み障害とその困り感について具体的にイメージしておく（1時間程度）					
2	特別支援教育とは-理念、制度、法令について学ぶ				教科書の第8章を読み、障害児の保育・教育特別支援教育の理念等を把握しておく（1時間程度）					
3	障害の理解と支援-発達障害について学ぶ（グループワーク）				教科書のほか「発達障害」に関する資料を熟読しておく（1時間程度）					
4	障害の理解と支援-知的障害について学ぶ（グループワーク）				教科書のほか「知的障害」に関する資料を熟読しておく（1時間程度）					
5	障害の理解と支援-言語障害について学ぶ（グループワーク）				教科書のほか「言語障害」に関する資料を熟読しておく（1時間程度）					
6	障害の理解と支援-肢体不自由について学ぶ（グループワーク）				教科書のほか「肢体不自由」に関する資料を熟読しておく（1時間程度）					
7	障害の理解と支援-聴覚障害について学ぶ（グループワーク）				教科書のほか「聴覚障害」に関する資料を熟読しておく（1時間程度）					
8	障害の理解と支援-視覚障害について学ぶ（グループワーク）				教科書のほか「視覚障害」に関する資料を熟読しておく（1時間程度）					
9	障害の理解と支援-病弱について学ぶ（グループワーク）				教科書のほか「病弱」に関する資料を熟読しておく（1時間程度）					
10	障害の理解と支援-重度重複（強度行動障害）について学ぶ（グループワーク）				教科書のほか「重度重複・強度行動障害」に関する資料を熟読しておく（1時間程度）					
11	特別支援教育の教育課程を学ぶ-「通級による指導」及び「自立活動」について（グループワーク）				教科書の該当部分のほか「通級による指導」及び「自立活動」に関する資料を熟読しておく（1時間程度）					
12	個別の指導計画、教育支援計画について学ぶ（グループワーク）				TeamsやUNIPA掲載の個別の指導計画と個別の教育支援計画を参照し記載内容を考えておく（1時間程度）					
13	特別支援コーディネーターや関係機関など、様々な連携について学ぶ				教科書のほかTeams及びUNIPA掲載資料をもとに、関係機関との連携について考えておく（1時間程度）					
14	家庭との連携について学ぶ（グループワーク）				連絡帳の書き方や連絡の仕方を考えておく（1時間程度）					
15	障害によらない特別な教育的ニーズの必要性について学ぶ・困り感と支援方法について				障害によらない特別な教育的ニーズに関する具体例を考えておく（1時間程度）					
教科書	『ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育』小林徹・栗山宣夫、みらい									
参考文献	『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館									
備考	グループワーク等による意見交換のほかTeams等での学生間の情報共有を用いる。授業内課題等は授業内で知らせる。UNIPAでの提出物についてはコメントを記載してフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

特別支援学校・特別支援学級・通常の学級（小学校）での実践と研究を踏まえて、本人を中心に据えた指導と支援及び家庭との連携について、データベースの活用等を含めた授業を組み立てる。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-CRE-19				
	●		●							
科目名	子どもの保健				単位認定者	田中 希代子		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1 年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内課題等	15 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	15 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義、そして、子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。さらに、子どもの心身の健康状態とその把握の方法、子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。									
到達目標	子どもの身体発育、精神発達、疾患等の特徴を知り、健康の保持増進に資する能力を獲得できるようになる。									
学修者への期待等	授業への積極的な参加、提出物の期限の厳守。 子どもの発育発達を学ぶと同時に、自分自身の健康についても関心を持って学ぶこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	子どもの保健とは 身体発育 生理機能					事前に「第2章 子どもの成長と発達（p. 18～22）」と「第3章 生理機能の発達（p. 28～30）」に目を通す(1時間程度)。				
2	子どもの成長と発達① 運動機能					事前に「第2章 子どもの成長と発達（p. 23～24）」に目を通す(1時間程度)。				
3	子どもの成長と発達② 精神機能					事前に「第2章 子どもの成長と発達（p. 24～26）」に目を通す(1時間程度)。				
4	子どもの生活① 離乳食と幼児の食事、乳歯の生え方					事前に「第3章 生理機能の発達（p. 30～31）」と「第4章 子どもの生活と保健（p. 40～41）」に目を通す(1時間程度)。				
5	子どもの生活② 排泄と睡眠					事前に「第4章 子どもの生活と保健（p. 41～44）」に目を通す(1時間程度)。				
6	予防接種の意義 健康診査について					事前に「第1章 子どものこころとからだの健康と保健の意義（p. 12～15）」と「第5章 感染症を予防する（p. 76～78）」に目を通し自身が受けた予防接種を調べておくこと。				
7	子どもの病気① アレルギー					事前に「第9章 子どもの主な病気（p. 94～97）」に目を通す(1時間程度)。				
8	子どもの病気② 感染症(1) ～感染症とは？一般的にかかりやすい感染症～					事前に「第8章 感染症（p. 80～90）」に目を通す（1時間程度）。				
9	子どもの病気③ 感染症(2) ～子どもがかかりやすい感染症～									
10	子どもの病気④ 感染症(3) ～子どもがかかった時の登園目安～									
11	子どもの病気⑤ 循環器と呼吸器、消化器					事前に「第9章 子どもの主な病気（p. 92～96）」に目を通す（1時間程度）。				
12	子どもの病気⑥ 泌尿器と目・耳・皮膚の病気、けいれん					事前に「第9章 子どもの主な病気（p. 98～99）」に目を通す（1時間程度）。				
13	子どもの病気⑦ 体調不良時の症状別対応(1) 体調観察とけがへの対応					事前に「第15章 子どもの体調不良に気づき対応する」と「第16章 子どものけがへ適切に対応する」に目を通す（1時間程度）。				
14	子どもの病気⑧ 体調不良時の症状別対応(2) 誤飲した時の対応と虐待の早期発見					事前に「第17章 子どもの危機的状況へ適切に対応する」と「第19章 子どもの最善の利益保証を目指して」に目を通す（1時間程度）。				
15	まとめ					第14回までの板書を持参、復習しておくこと。				
教科書	『イラスト 子どもの保健・健康と安全』山下 雅実著、東京教学社									
参考文献	なし									
備考	授業内課題については、授業内でコメントする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
	●	●	●	●	●	CS-2-TPR-08				
科目名	教育実習Ⅰ				単位 認定者	小野瀬剛志 菅原弘 鈴木享之 田宮希砂 平田修三 堀之内敏恵 早坂正年 田中公一 中曽根裕 平山淑希		評価の方法	実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位			
				授業形態	実習	授業時間数	40 時間			
						授業回数	集中			
授業の概要	将来実践の場で柔軟に対応できるような実践的指導力の育成を志向し、教育実習を行う。大学で学んだ内容論や方法論を基盤として、幼稚園での幼児への理解を深め、総合的に教育する基礎を養うために観察実習を行う。									
学修者への期待等	理論と実践の具体的相互関係を学び、教育者・保育者としてのあり方を学ぶ。 日々、実習を振り返りながら、実習の内容を実習日誌に記し、それを基に次の日の準備を行う。									
授業計画								準備学修		
①実習期間：2月 ②実習の目標： ・幼児の生活実態及び教育や保育の実際を理解する。 ・大学で学んだ知識や技能を基盤に、教育や保育の場で総合的に実践する基礎を学ぶ。 ③実習内容： ・配属クラスにおいて観察実習を行う。 ・観察実習において、教師（幼稚園教諭）の幼児への援助の様相を環境の構成等との関係を踏まえながら、客観的に観察し、記録する。								実習開始前日には以下の準備学修を行う		
								・実習日誌の最終確認（概ね1時間）		
								・持参するものの確認（概ね1時間）		
								・実習の手引きの確認（概ね1時間）		
								実習開始後は日々以下の準備学修を行う		
								・実習日誌の記入（概ね1時間）		
								・教材研究等（概ね1時間）		
教科書	『幼稚園教育要領』文部科学省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館									
参考文献	『教育実習の手引き』宮城県幼稚園教育実習連絡協議会 その他、配布資料等									
備考	実習目標達成度については、以下の事項を加味し、総合的に評価を行う。 ①実習登録手続きに関する状況 ②事前の書類（細菌検査・オリエンテーション報告書等）提出の状況 ③実習中の状況（巡回指導時の状況も含む） ④実習への出席状況 ⑤実習先からの実習評価 ⑥実習日誌の提出の状況及び事後に必要な書類提出（欠席届等）の状況 ⑦実習日誌の記録内容 実習終了後は、評価表を基に個別面談を行い、学修内容に関するフィードバックを実施する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
	●	●	●	●	●	CS-2-TPR-09				
科目名	教育実習指導Ⅰ				単位 認定者	菅原弘 田宮希砂	田中公一 平山淑希	評価の方法	実習報告書	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	50 %
						授業時間数	20 時間			
				授業形態	演習	授業回数	10 回			
授業の概要	教育実習Ⅰの事前・事後指導を行う。事前指導では、実習に臨むにあたり必要とされる基本的な心構えや態度、幼稚園の概要、幼児の観察の仕方、実習日誌の書き方について理解を深める。事後指導では、実習の反省を踏まえて、今後の課題を明確にする。									
到達目標	1. 教育実習の意義や目的についてよく理解する。 2. 実習日誌等、実習で必要となる記録や文書の意義や役割を把握する。 3. 実習に参加するために必要な知識や技能を身に付ける。									
学修者への期待等	実習に向けて、自ら学ぶ姿勢をしっかりと持つこと。									
回	授業計画						準備学修			
1	実習についての基本的・総合的事項の理解						教育要領（幼稚園の教育が教育要領に基づいて行われている）についての理解(概ね1時間)			
2	実習の意義や目的について						教育要領（年齢ごとのねらい）についての理解(概ね1時間)			
3	実習において必要となる事柄の理解・整理						『教育実習の手引き』（教育実習の目的、実習の段階と内容）の理解(概ね1時間)			
4	実習に関する書類等の理解・整理						『教育実習の手引き』（個人票、実習日誌）の理解(概ね1時間)			
5	実習に対する心構えについて						実習に必要な事柄（準備物）を確認する(概ね2時間)			
6	実習準備：観察実習の意義						実習先の概要を調べる(概ね2時間)			
7	【グループワーク】 実習準備：観察実習の課題						観察すべき課題を考える(概ね2時間)			
8	【グループワーク】 実習準備：個別的課題の探究						実習に関する個別的課題の設定(概ね3時間)			
9	実習に関する事後指導						実習についての振り返り(概ね2時間)			
10	【グループワーク】 今後の実習に関する課題等の検討						実習についての振り返り(概ね2時間)			
教科書	『幼稚園教育要領』文部科学省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 『これで安心！保育指導案の書き方』開仁志編著、北大路書房									
参考文献	『教育実習の手引き』宮城県幼稚園教育実習連絡協議会 その他、随時配布する。									
備考	5回目の講義に関しては、ゲストスピーカーに講話をして頂きます。 実習に関わる重要な授業です。授業には、毎回真剣に取り組む必要があります。 提出された課題は確認後授業内で返却します。実習時の参考資料として活用してください。 個別指導では他の専任教員も指導を行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

幼稚園にて幼稚園教諭として勤務し、クラス担任及び主任教諭として実習指導を行ってきた経験を基に、実習に意欲的に取り組めるような事前事後指導を行う。（田宮）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-SEM-01				
			●	●						
科目名	基礎演習Ⅰ				単位 認定者	小野瀬剛志 堀之内敏恵 菅原弘 早坂正年 鈴木享之 平田修三 中曽根裕 田中公一 田宮希砂		評価の方法	授業内課題	70 %
									受講態度	30 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	1年	開講時期	通年	単位数	2 単位			
						授業時間数	60 時間			
					授業形態	演習	授業回数	30 回		
授業の概要	初学者が幼児教育を学ぶにあたって必要とされる基礎力の養成を行う。大学生活への導入、大学教育の意義と目的に始まり、資料検索等の情報収集の方法、文章の読み方・書き方（文章表現力）、キャリア形成について、学外実習の心得等の内容を取り扱う。学習目的遂行のために設定した課題について、探究的に学習し、課題の解決を目指す。									
到達目標	1 課題を発見し、それについて論理的に考え、解決を図るための基礎的能力を身につける。 2 資料収集、文章構成力、発表力など自主学修を行う上で必要な能力を獲得する。 3 次年度のゼミ学修（基礎演習Ⅱ）に向けて、基礎的な知識や方法を学ぶ。									
学修者への期待等	自主的な学びを中心にした科目ですので、自ら行動することを心がけてください。									
回	授業計画					準備学修				
1	【講義】 大学教育の意義（講義の目的と内容・授業の進行方法・レポートの作成方法 など）					事前に図書室の利用方法やパソコンを使った資料検索方法について確認しておく（概ね1時間）				
2	【ロールプレイ】 人間関係力向上に向けてⅠ（コミュニケーション方法の理解）					事前にコミュニケーションを図る上での留意点について調べておく（概ね1時間）				
3	【フィールドワーク】 人間関係力向上に向けてⅡ（コミュニケーションの留意点）					事前に現地への交通手段について確認しておく（概ね30分）				
4	【フィールドワーク】 人間関係力向上に向けてⅢ（コミュニケーションの実践）									
5	【グループワーク】 環境に応じた保育の実践Ⅰ（コーナー保育について）					事前にコーナー保育の内容について調べておく（概ね30分）				
6	【グループワーク】 環境に応じた保育の実践Ⅱ（実践内容の考察）					事前にコーナー保育の実践内容についてまとめておく（概ね30分）				
7	【グループワーク】 環境に応じた保育の実践Ⅲ（中心となる活動とねらい）					事前に保育のねらいの捉え方を学修しておく（概ね30分）				
8	【グループワーク】 環境に応じた保育の実践Ⅳ（環境構成の理解）					事前に保育の環境構成の捉え方について学修しておく（概ね30分）				
9	【グループワーク】 環境に応じた保育の実践Ⅴ（予想される幼児の活動の理解）					事前に幼児の発達について理解しておく（概ね30分）				
10	【グループワーク】 環境に応じた保育の実践Ⅵ（保育者の援助と留意点の理解）					事前に保育者の幼児に対する留意点について考察しておく（概ね30分）				
11	【グループワーク】 環境に応じた保育の実践Ⅶ（ドキュメンテーションの方法と内容）					事前に保育におけるドキュメンテーションについて学修しておく（概ね30分）				
12	【グループワーク】 環境に応じた保育の実践Ⅷ（ドキュメンテーションの応用）					事前にドキュメンテーションの具体的内容について整理しておく（概ね30分）				
13	【ロールプレイ】 環境に応じた保育の実践Ⅸ（コーナー保育実施①保育者の知識と技術の理解）					事前にこれまでの実践計画について把握しておく（概ね30分）				
14	【ロールプレイ】 環境に応じた保育の実践Ⅹ（コーナー保育実施②乳幼児の気持ちと発達の理解）					事前にこれまでの実践計画について把握しておく（概ね30分）				
15	【グループワーク・ディスカッション】 環境に応じた保育の実践Ⅺ（反省と課題）					事前にコーナー保育実施についての反省と課題をまとめておく（概ね30分）				

回	授業計画	準備学修
16	【講義】 後期授業の目的と内容・レジュメの作成方法	
17	【グループワーク】 課題の設定	興味のある課題や著作について事前に調べておく（概ね1時間）
18	【グループワーク】 文献検索	
19	【グループワーク・ディスカッション】 講読演習Ⅰ（指名学生1～2名からの文献報告）	各自、指定された文献の該当箇所について熟読し、論点などを整理しておく（概ね1時間）
20	【グループワーク・ディスカッション】 講読演習Ⅱ（指名学生1～2名からの文献報告）	各自、指定された文献の該当箇所について熟読し、論点などを整理しておく（概ね1時間）
21	【グループワーク・ディスカッション】 講読演習Ⅲ（指名学生1～2名からの文献報告）	各自、指定された文献の該当箇所について熟読し、論点などを整理しておく（概ね1時間）
22	【グループワーク・ディスカッション】 講読演習Ⅳ（指名学生1～2名からの文献報告）	各自、指定された文献の該当箇所について熟読し、論点などを整理しておく（概ね1時間）
23	【グループワーク・ディスカッション】 講読演習Ⅴ（指名学生1～2名からの文献報告）	各自、指定された文献の該当箇所について熟読し、論点などを整理しておく（概ね1時間）
24	【グループワーク・ディスカッション】 講読演習Ⅵ（指名学生1～2名からの文献報告）	各自、指定された文献の該当箇所について熟読し、論点などを整理しておく（概ね1時間）
25	【グループワーク・ディスカッション】 全体を通しての論点の整理	各自、これまでのレジュメや資料を整理しまとめておく（概ね1時間）
26	【グループワーク・ディスカッション】 報告書の作成	各自、報告書作成に向けての役割を整理しておく（概ね30分）
27	次年度の学修準備Ⅰ（研究領域について）	配布資料を熟読し、次年度にとくに深めていきたい学修内容を整理しておく（概ね1時間）
28	次年度の学修準備Ⅱ（調べ学修）	
29	次年度の学修準備Ⅲ（学修成果について）	
30	【グループワーク】 今後の学修の方向性を考える	
教科書	『大学1年生のための伝わるレポートの書き方』都築学 著、有斐閣 『福祉施設実習テキストブッケー子ども・利用者理解からはじめる実践ー』栗山宜夫・小林徹 編著、建帛社	
参考文献	各ゼミで適宜選定。	
備考	講読演習の報告書などは、内容確認後にフィードバックしますので、自己学修に活用してください。	

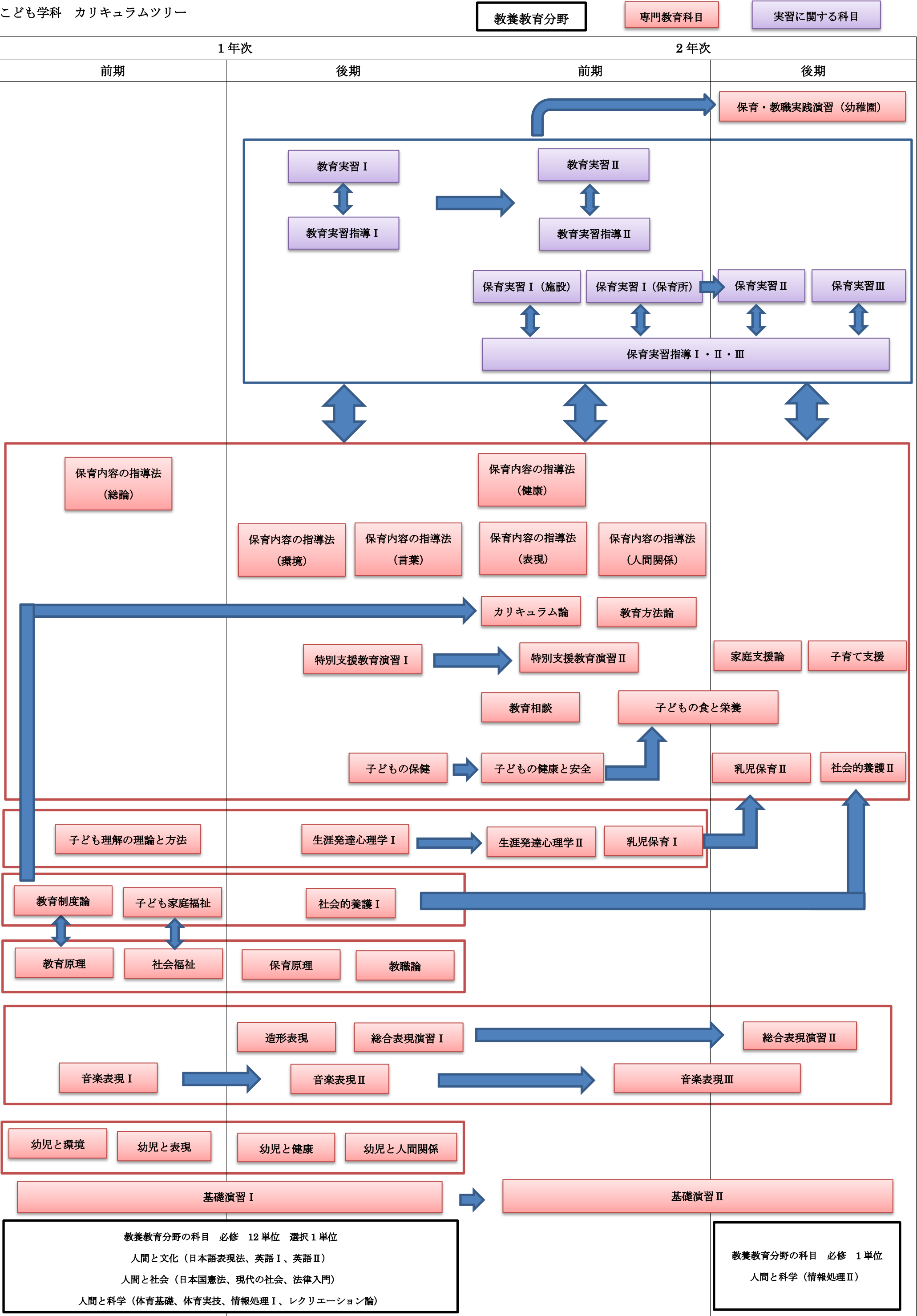
※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

こども学科 2 年生

- カリキュラムマップ
- カリキュラムツリー
- 読替表
- 年間予定表
- シラバス



2025年度 こども学科2年生 年間予定表

前期

	日		月		火		水		木		金		土	
4月					1		2	オリエンテーション	3	(入学式)	4		5	
	6		7	1	8	1	9	1 PM健康診断	10	1	11	1	12	
	13		14	2	15	2	16	2	17	2	18	2	19	
	20		21	3	22	3	23	3	24	3	25	3	26	
	27		28	4	29		30	4	1	実習オリエン テーション	2	実習オリエン テーション	3	
5月	4		5		6		7	5	8	4	9	4	10	
	11		12	5	13	4	14	6	15	5	16	5	17	
	18		19	6	20	5	21	7	22	6	23	6	24	
	25		26	保育実習Ⅰ (施設)	27	保育実習Ⅰ (施設)	28	保育実習Ⅰ (施設)	29	保育実習Ⅰ (施設)	30	保育実習Ⅰ (施設)	31	
6月	1		2	保育実習Ⅰ (施設)	3	保育実習Ⅰ (施設)	4	保育実習Ⅰ (施設)	5	保育実習Ⅰ (施設)	6	保育実習Ⅰ (施設)	7	
	8		9	実習予備日	10	6	11	8	12	7	13	7	14	
	15		16	7	17	7	18	9	19	8	20	8	21	
	22		23	教育実習Ⅱ	24	教育実習Ⅱ	25	教育実習Ⅱ	26	教育実習Ⅱ	27	教育実習Ⅱ	28	
	29		30	教育実習Ⅱ	1	教育実習Ⅱ	2	教育実習Ⅱ	3	教育実習Ⅱ	4	教育実習Ⅱ	5	
7月	6		7	教育実習Ⅱ	8	教育実習Ⅱ	9	教育実習Ⅱ	10	教育実習Ⅱ	11	教育実習Ⅱ	12	
	13		14	実習予備日	15	実習予備日	16	10	17	9	18	9	19	
	20		21		22	8	23	11	24	10	25	10	26	
	27		28	8	29	9	30	12	31	11	1	11	2	
8月	3		4	9	5	10	6	13	7	12	8	12	9	
	10		11		12		13		14		15		16	
	17		18	実習オリエン テーション	19	実習オリエン テーション	20		21		22		23	
	24		25	定期試験	26	定期試験	27		28		29		30	
	31		1		2		3		4		5	不合格者発表	6	
9月	7		8		9	実習指導	10	実習指導	11	再試験	12	再試験 PM実習指導	13	
	14		15		16	保育実習Ⅰ (保育所)	17	保育実習Ⅰ (保育所)	18	保育実習Ⅰ (保育所)	19	保育実習Ⅰ (保育所)	20	保育実習Ⅰ (保育所)
	21		22	保育実習Ⅰ (保育所)	23		24	保育実習Ⅰ (保育所)	25	保育実習Ⅰ (保育所)	26	保育実習Ⅰ (保育所)	27	保育実習Ⅰ (保育所)
	28		29	実習予備日	30									

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2025年度 こども学科2年生 年間予定表

後期

	日	月	火	水	木	金	土
10月				1 実習指導	2 実習指導	3 実習指導	4
	5	6 保育実習Ⅱ	7 保育実習Ⅱ	8 保育実習Ⅱ	9 保育実習Ⅱ	10 保育実習Ⅱ	11
	12	13	14 保育実習Ⅱ	15 保育実習Ⅱ	16 保育実習Ⅱ	17 保育実習Ⅱ	18 保育実習Ⅱ
	19	20 実習予備日	21 実習予備日	22 オリエンテーション	23 1	24 PMせいよう祭準備	25 せいよう祭
	26	27 1	28 1	29 1	30 2	31 交流会	1
11月	2	3	4 2	5 2	6 3	7 2	8
	9	10 2	11 3	12 3	13 4	14 3	15
	16	17 3	18 4	19 4	20 5	21 4	22
	23	24	25 5	26 5	27 6	28 5	29
	30	1 4	2 6	3 6	4 7	5 6	6
12月	7	8 5	9 7	10 7	11 8	12 7	13
	14	15 6	16 8	17 8	18 9	19 8	20
	21	22 7	23 9	24 AMせいよう演劇会	25 10	26 9	27
	28	29	30	31	1	2	3
1月	4	5 8	6 10	7 9	8 11	9 10	10
	11	12	13 11	14 10	15 12	16 11	17
	18	19 9	20 12	21 11	22 定期試験	23 定期試験	24
	25	26	27	28	29	30 不合格者発表	31
2月	1	2	3	4	5	6 再試験	7
	8	9 実習指導	10 教材発表会	11	12 実習報告会	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
3月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17 卒業式	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング CS-0-HSC-03				
		●		●						
科目名	情報処理Ⅱ				単位 認定者	菅原 弘 早坂 正年		評価 の方法	試験 (レポート)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	保育・教育現場では「書く・伝える」ことが日常的に行われ、大切な業務の一つとなっている。それは同僚間のみならず、保護者に対しても連絡帳やお便り等を通して実践していかなければならず、保育者にとってみれば必要不可欠な能力である。本授業では情報共有の重要性やリテラシーについて学び、様々な媒体を通じた情報提供の方法を実践的に学修し、活用できるようにする。									
到達目標	情報共有の重要性を学び、的確な情報交換を実践することができる。 多種多様な連絡・報告手段を学び、それらを適切に活用できるようになる。 保護者への情報提供を、わかりやすく且つスムーズに行うことができる。									
学修者への 期待等	授業から得られた知識をしっかりとアウトプットできるよう、主体的に学修に臨むこと。また、授業での学びが滞ることがないように教科書や配布資料、LMSへ掲載の資料等を熟読して授業へ参加すること。									
回	授業計画					準備学修				
1	保育現場で扱う情報の種類と目的 ICTを活用した双方向型授業									
2	情報モラル メール、SNSマナー									
3	WEB情報等の活用上の留意点									
4	保育・教育機関における情報発信の実際と留意点 ディスカッション					保育現場で扱う情報の種類を振り返り、それぞれの 情報発信における留意点を考えておく（1時間 程度）				
5	情報共有の具体的方法									
6	指導計画を基にした教材作成実技とその共有 ディスカッション									
7	保護者へのおたよりやドキュメンテーションの理解と 取材									
8	保護者との情報共有①（ドキュメンテーション）説明					ドキュメンテーションの目的等を調べる （1時間程度）				
9	保護者との情報共有②（ドキュメンテーション）作成 実技					ドキュメンテーションの具体的な様式を調べ、記 事を準備しておく（1時間程度）				
10	保護者との情報共有③（保護者へのおたより）説明					園だよりの目的について調べる （1時間程度）				
11	保護者との情報共有④（保護者へのおたより）作成実 技					園だよりについて調べ、記事を準備しておく （1時間程度）				
12	保護者との情報共有⑤（SNSの活用）									
13	地域（社会）への情報発信と情報共有①（ホームペー ジ）説明					これまでの実習園のホームページを閲覧し、ダウ ンロードしておくこと（30分程度）				
14	地域（社会）への情報発信と情報共有②（ホームペー ジ）作成実技									
15	保育・教育の情報化の今後と課題					業務の効率化と保育におけるICT活用（プログラ ミング等）について調べておく（2時間程度）				
教科書	『保育で使える 文章の教科書』木梨美奈子、つちや書店									
参考文献	適宜、参考資料を提示・配布する									
備考	製作や発表の時間もあるので、授業外でも計画的に準備を進めておくこと。また、演習・発表等にふさわしい姿勢や態度を心がけ、意欲的に授業に参加すること。授業で提示した課題については、回収後に内容を確認し、以後の授業時に返却する。									
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）										

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング CS-1-STC-03				
		●								
科目名	音楽表現Ⅲ				単位 認定者	田宮 希砂		評価 の方法	試験（レポート）	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位		授業内課題	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	30 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	1年次に培った基礎力を土台として、保育者に求められる基礎技能を高め、表現力を身につける。 教育実習・保育実習の場で季節や園の生活に即した数多くの音楽教材を扱うために「弾き歌い」のレパ トリーを拡充する。									
到達目標	子ども理解を基盤とした音楽表現について実践することができる。									
学修者への 期待等	音楽実技の習得は、継続的かつ繰り返しの取り組みが重要となります。それぞれの課題を十分に取り組ん でから授業に参加しましょう。									
回	授業計画					準備学修				
1	オリエンテーション 音楽表現と環境設定									
2	園生活と子どもの歌① 様々なリズムパターンの楽曲に親しみ、弾き歌いをする（実技）					授業内容を振り返り、各自の課題に取り組む。 (1時間程度)				
3	子どもの自発的な音あそび支援（実技）					授業内容を振り返り、各自の課題に取り組む。 (1時間程度)				
4	園生活と子どもの歌② こどもの歌や遊びに使われる楽曲の伴奏（実技）					授業内容を振り返り、各自の課題に取り組む。 (1時間程度)				
5	身体表現と音楽（実技・グループワーク）					授業内容を振り返り、各自の課題に取り組む。 (1時間程度)				
6	園生活と子どもの歌③ 弾き歌いにおける声の使い方（実技）					授業内容を振り返り、各自の課題に取り組む。 (1時間程度)				
7	声を使った音楽表現（実技・グループワーク）					授業内容を振り返り、各自の課題に取り組む。 (1時間程度)				
8	園生活と子どもの歌④ 伴奏の工夫や楽曲のアレンジ（実技）					授業内容を振り返り、各自の課題に取り組む。 (1時間程度)				
9	BGM・効果音としての音楽（実技・グループワーク）					授業内容を振り返り、各自の課題に取り組む。 (1時間程度)				
10	園生活と子どもの歌⑤ 保幼小接続を視点にした楽曲（実技）					授業内容を振り返り、各自の課題に取り組む。 (1時間程度)				
11	音楽行事について（実技・グループワーク）					授業内容を振り返り、各自の課題に取り組む。 (1時間程度)				
12	園生活と子どもの歌⑥ 活動内容に合わせた弾き方（実技）					授業内容を振り返り、各自の課題に取り組む。 (1時間程度)				
13	音楽行事の企画（実技・グループワーク）					授業内容を振り返り、各自の課題に取り組む。 (1時間程度)				
14	園生活と子どもの歌⑦ 弾き歌いのまとめ（実技）					授業内容を振り返り、各自の課題に取り組む。 (1時間程度)				
15	音楽行事の実践（実技・グループワーク）					授業内容を振り返り、各自の課題に取り組む。 (1時間程度)				
教科書	(1)『続こどものうた200』小林美実編、チャイルド本社 (2)『「音」からひろがる子どもの世界』吉永早苗著、(株)ぎょうせい									
参考文献	随時紹介します。									
備考	田宮希砂、大石祥之、川村智英子、高橋真美、田中美沙、富永睦子、半澤恵子、吉田明香里の8名で授業を 行う。課題のうち提出されたものに関しては、内容確認の次回以降返却する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング CS-1-STC-08								
		●	●	●										
科目名	総合表現演習Ⅱ				単位 認定者	鈴木享之 田中公一 田宮希砂		評価の 方法	試験 (レポート)	40 %				
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	40 %				
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %				
				授業形態	演習	授業回数	15 回							
授業の概要	子どもの心身の発達や取り巻く環境等と『保育所保育指針』を踏まえて、子ども自らが様々な児童文化財に親しめるよう、テーマを持ってストーリーを考え、それに沿ったレクリエーションを展開するために必要な知識・技術を学ぶ。													
到達目標	子どもの発達や環境を捉えながら、保育の表現に関する具体的な内容の理解を深める。 保育の表現に関する知識・技術を向上させる。 協力して活動する力を身に付ける。													
学修者への 期待等	実践的な活動の展開ができるよう、主体的・積極的に授業に取り組むこと。													
回	授業計画				準備学修			担当						
1	ガイダンス 総合表現演習Ⅰの振り返り				実習園の表現活動を振り返っておく (30分程度)			鈴木 享之						
2	実践発表の立案 (グループワーク)				発表する表現の案を考えてくること (1時間程度)			田中 公一						
3	実践発表準備①プログラムの構成 (グループワーク)				担当係ごとに発表準備を進めること (2時間程度)			田中 公一						
4	実践発表準備②台本の作成 (グループワーク)				担当係ごとに発表準備を進めること (2時間程度)			田中 公一						
5	実践発表準備③道具の作成 (グループワーク)				担当係ごとに発表準備を進めること (2時間程度)			田中 公一						
6	実践発表準備④衣装の作成 (グループワーク)				担当係ごとに発表準備を進めること (2時間程度)			田中 公一						
7	実践発表予行演習 (グループワーク)				担当係ごとに発表準備を進めること (2時間程度)			田宮 希砂						
8	学外実践発表①準備 (グループワーク)							田宮 希砂						
9	学外実践発表②実演 (グループワーク)							田宮 希砂						
10	学外実践発表の振り返り (グループワーク)				復習として修正案を考えてくること (1時間程度)			鈴木 享之						
11	実践発表の修正 (グループワーク)				復習として修正後の発表を十分に練習すること (2時間程度)			鈴木 享之						
12	学内実践発表①準備 (グループワーク)							鈴木 享之						
13	学内実践発表②実演 (グループワーク)							鈴木 享之						
14	学内実践発表の振り返り (グループワーク)				実践発表の反省点を考えてくること (1時間程度)			鈴木 享之						
15	表現についての総合的考察							鈴木 享之						
教科書	適宜、プリント等を配布します。													
参考文献	随時、紹介します。													
備考	課題を出した場合は、確認後、講義中に返却・解説します。													

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

						科目ナンバリング				
						CS-1-SSE-03				
学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力					
			●	●	●					
科目名	生涯発達心理学Ⅱ				単位 認定者	平田 修三		評価の 方法	試験 (レポート)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題	50 %
				授業形態 <td rowspan="2">講義</td> <th>授業時間数</th> <td>30 時間</td> <td></td> <td></td>	講義	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要	生涯発達に関する知識を習得したうえで、主として子どもの発達に影響を与える家族・家庭の意義や機能などについて学ぶ。それらの基本的知識をもとに、現代における子育て家庭の課題や子どもの心の健康に関する課題について理解を深める。									
到達目標	1. 乳幼児期の年齢ごとの発達の特徴について説明できる。 2. 現代における家族のあり方や諸課題について具体例を挙げながら説明できる。 3. 生涯発達という視点から現在の自分や家族をふりかえり、今後の展望を描く。									
学修者への期待等	「生涯発達」は私たち自身のテーマでもあることを意識しながら、自らの人生展望やキャリア形成に活かせるような学修を心がけてほしい。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス～生涯発達観のいろいろ、発達課題									
2	乳児の発達と保育①：0～5か月頃					教科書の「乳児①」（pp.5～14）に目を通し、要点をノートに整理しておく（概ね1時間）				
3	乳児の発達と保育②：6～11か月頃					教科書の「乳児②」（pp.15～24）に目を通し、要点をノートに整理しておく（概ね1時間）				
4	1歳頃の発達と保育					教科書の「1歳ころ」（pp.25～34）に目を通し、要点をノートに整理しておく（概ね1時間）				
5	2歳頃の発達と保育					教科書の「2歳ころ」（pp.35～44）に目を通し、要点をノートに整理しておく（概ね1時間）				
6	3歳頃の発達と保育					教科書の「3歳ころ」（pp.45～56）に目を通し、要点をノートに整理しておく（概ね1時間）				
7	4歳頃の発達と保育					教科書の「4歳ころ」（pp.57～66）に目を通し、要点をノートに整理しておく（概ね1時間）				
8	5歳頃の発達と保育					教科書の「5歳ころ」（pp.67～76）に目を通し、要点をノートに整理しておく（概ね1時間）				
9	6歳頃の発達と保育					教科書の「6歳ころ」（pp.77～86）に目を通し、要点をノートに整理しておく（概ね1時間）				
10	児童期～青年期									
11	成人期～老年期					「ワンオペ育児」について調べておく（概ね1時間）				
12	家族の介護・死									
13	家族ライフサイクル・家族システム論									
14	現代家族の特徴と諸課題									
15	人生展望とライフストーリー									
教科書	『0歳～6歳 子どもの発達と保育の本』河原紀子監修・執筆，Gakken									
参考文献	特になし									
備考	・講義は全て遠隔（オンデマンド）で実施する ・毎回、授業内課題を課し、次回以降の授業でコメントする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-SSE-04				
	●	●								
科目名	乳児保育 I				単位認定者	奥山 栄子		評価の方法	試験(レポート)	80 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題等	20 %
					授業形態		授業時間数		30 時間	
						講義	授業回数		15 回	
授業の概要	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。さらに、多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。また、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について、職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。									
到達目標	現代の子育て社会の問題を通して、保育の場における乳児保育の意義や役割について理解し説明できるようになる。 乳児期の子どもの発育・発達と保育内容を理解し保育現場で実践できるようになる。									
学修者への期待等	前回の授業の「保育者として必要な知識・重要ポイント」を授業開始時に復習するため、教科書・ノートなどを再読して授業に臨むこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	授業のガイダンス・評価方法について・乳児保育の目的と役割					保育所保育指針「第1章総則」を読んでおくこと（概ね1時間）				
2	乳児保育の基本					保育所保育指針「第2章保育の内容」を読んでおくこと（概ね1時間）				
3	0・1・2歳児の発達					教科書第4回「乳児の保育内容」について読んでおくこと（概ね1時間）				
4	乳児（0歳児）の保育内容					0歳児の発達について復習してくること（概ね1時間）				
5	1歳以上3歳未満児の保育内容					1．2歳児の発達について復習してくること（概ね1時間）				
6	乳児の生活と遊びの基本的事項					教科書第6回「乳児の生活と遊びの基本的事項」の章を読んでおくこと（概ね1時間）				
7	乳児の生活の基本①（食事と睡眠）					教科書第7回「乳児の生活と基本」の章を読んでおくこと（概ね1時間）				
8	乳児の生活の基本②（排泄・着脱・清潔）					基本的生活習慣「食事と睡眠」について復習してくること（概ね1時間）				
9	乳児の遊び					教科書第8回「乳児の遊び」の章を読んでおくこと（概ね1時間）				
10	乳児保育の環境構成					教科書第9回「乳児保育の環境構成」の章を読んでおくこと（概ね1時間）				
11	乳児保育における全体的な計画					保育所保育指針「第1章総則3保育の全体的な計画及び評価」を読んでおくこと（概ね1時間）				
12	乳児保育における子育て支援					保育所保育指針「第4章子育て支援」を読んでおくこと（概ね1時間）				
13	乳児保育における連携					教科書第12回「乳児保育における連携」について読んでおくこと（概ね1時間）				
14	一人一人を健やかに育んでいくために					教科書第13回「一人一人を健やかに育んでいくために」の章を読んでおくこと（概ね1時間）				
15	乳児保育に携わる保育者の専門性・まとめ					教科書、配布した資料、ノートなどを再読しておくこと（概ね1時間）				
教科書	『講義で学ぶ乳児保育』小山朝子、亀崎美沙子、善本眞弓著 わかば社									
参考文献	『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館									
備考	授業内課題については次の授業内にてフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング CS-1-CRE-01				
	●	●								
科目名	カリキュラム論				単位 認定者	小野瀬 剛志		評価の方法	試験 (筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題等	10 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	「カリキュラム」とは、「それに沿って学びが進行すべき計画」という意味と、「学習者の学びの経験の総体」という意味をもつ。本講義では、まずカリキュラムの意義や内容について理解を深める。その上で、幼稚園、保育と関連する教育・保育課程について詳しく学ぶ。									
到達目標	1 教育課程の意義について理解する。 2 教育課程編成の基本方針や方法を理解する。 3 教育課程の史的変遷を理解する。 4 幼稚園・保育所の教育課程の編成について理解する。									
学修者への期待等	講義の前半は保育に限らないカリキュラム一般について理解を深めます。それを踏まえた上で、保育のカリキュラムについて理解を深めていくので、つねに保育への応用やこれまで受けてきたカリキュラムとの関連性を念頭において講義に臨んでください。									
回	授業計画					準備学修				
1	オリエンテーション（授業概要の説明、保育におけるカリキュラムとは何か）									
2	カリキュラムの考え方（生活と科学、経験主義と系統主義）					「経験主義と系統主義」の違いについて教科書pp. 150～160から整理してくること。（概ね1時間）				
3	カリキュラムの編成方法					「カリキュラムの編成方法」について、教科書第5章pp. 180～211を読んでおくこと。（概ね30分）				
4	社会におけるカリキュラム（学校型教育への批判的視点）					社会と学校教育の関係について、教科書第7章pp. 246～270から整理してくること。（概ね1時間）				
5	カリキュラムと人格形成（顕在的カリキュラムとかくれたカリキュラム）（ディスカッション）									
6	近代日本における学校とカリキュラム①（明治期～大正期）					明治期～大正期の教育について教科書pp. 20～40を読んでおくこと。（概ね30分）				
7	近代日本における学校とカリキュラム②（昭和初期～終戦）					昭和初期～太平洋戦争終戦の教育について教科書pp. 40～46を読んでおくこと。（概ね30分）				
8	現代日本における学校とカリキュラム①（戦後復興期～高度経済成長）					戦後復興期～高度経済成長の教育について教科書pp. 48～72を読んでおくこと。（概ね30分）				
9	現代日本における学校とカリキュラム②（高度経済成長～現在）					高度経済成長～現在の教育について教科書pp. 72～120を読んでおくこと。（概ね30分）				
10	さまざまなカリキュラム①（食といのちの教育）					食といのちの教育に関して、配布資料を読んでおくこと。（概ね30分）				
11	さまざまなカリキュラム②（心の成長をうながすカリキュラム）					人間関係の構築における教育の重要性について、教科書第8章pp. 277～285を読んでおくこと。（概ね30分）				
12	幼児教育におけるカリキュラムの編成①（指導計画の基礎と作成）					幼児教育における指導計画の考え方について、配布資料を読んでおくこと。（概ね1時間）				
13	幼児教育におけるカリキュラムの編成②（日案の作成方法）					日案の考え方について、配布資料を読んでおくこと。（概ね1時間）				
14	幼児教育におけるカリキュラムの編成③（カリキュラム・マネジメントとPDCA）（ディスカッション）					PDCAの考え方について、配布資料を読んでおくこと。（概ね1時間）				
15	総括（幼児教育とカリキュラム）									
教科書	『新しい時代の教育課程』 田中耕治他、有斐閣									
参考文献	『よくわかる教育課程』 田中耕治編、ミネルヴァ書房 『保育・教育課程論』 高橋弥生編、一藝社 『保育所保育指針』 『保育所保育指針解説』 厚生労働省、フレーベル館 『幼稚園教育要領』 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館									
備考	講義は全て遠隔（オンデマンド、オンライン）で実施する。第5回、第14回は、ICTを利用した双方向型授業で実施する。授業内で課した課題については、後日コメント等を付して返却する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

						科目ナンバリング	
						CS-1-CRE-04	
学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力		
	●	●					
科目名	保育内容の指導法（健康）				単位 認定者	中曽根 裕	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位
					授業時間数	30 時間	
				授業形態		演習	授業回数
授業の概要	本科目では、領域「健康」に関する指導法の理解と実践能力の養成を目指します。3法令（「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」）の共通理解を基本とした上で、学生同士の教材研究や意見交換を通して、指導案の作成、模擬保育の実践を行います。						
到達目標	1 心身の健康に関する領域「健康」の「ねらい」と「内容」を理解する。 2 生活環境づくりなどを取り入れた指導案を作成し、保育を実践する。						
学修者への期待等	この科目はアクティブラーニングの手法を中心に取り入れ、学生自身が「保育研究（指導案作成、教材研究・作成）」、「模擬保育」、「課題発見（討論）」を通して学びを深めていく講義です。自ら行動することが基本となりますので、積極的な姿勢で臨んでください。						
回	授業計画				準備学修		
1	領域「健康」が目指すものとは						
2	心身の健康に関する領域「健康」の「ねらい」について						
3	心身の健康に関する領域「健康」の「内容」について						
4	保育・幼児教育における領域「健康」の位置づけ						
5	遊びの発達と健康（遊びの発達過程） （グループワーク）				教科書の第4章を読んで授業に臨んでください。 （1時間程度）		
6	幼児期の運動発達に沿った運動指導とは （グループワーク）						
7	災害時等の安全に関する指導について （グループワーク）						
8	外的環境と「こどもの健康」						
9	生活習慣の自立と指導 （グループワーク）				子どもの生活習慣形成の為に、保育者が家庭に向けて果たす役割とは何かまとめておくこと。 （1時間程度）		
10	生活習慣の形成に向けた保育の指導計画と指導法① （指導案の立案）				指導案の原案を考えておくこと。（1時間程度）		
11	生活習慣の形成に向けた保育の指導計画と指導法② （指導案の作成・提出）				模擬保育で使用する保育教材の準備をしてきてください。（1時間程度）		
12	生活習慣づくりの模擬保育①（保育者の視点から） （グループワーク）						
13	生活習慣づくりの模擬保育②（幼児の視点から） （グループワーク）						
14	生活習慣づくりの反省と課題（討論） （グループワーク）				実践から得た課題について改善案をまとめておくこと。（1時間程度）		
15	領域「健康」と小学校の教科等への接続の可能性について						
教科書	『保育内容 健康―保育の内容・方法を知る』花井忠征・野中壽子 編著、北大路書房						
参考文献	『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館						
備考	授業内課題については内容を確認し、次回以降の授業でコメントする。						

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング CS-1-CRE-05				
		●	●							
科目名	保育内容の指導法（人間関係）				単位 認定者	平田 修三		評価の方法	試験 （レポート）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題等	50 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	保育現場の様々な事例を通して、子ども同士の関係、子どもと大人の関係、保育者同士、保護者との関係等、多様な人間関係の特徴を学ぶ。また、理論的に説明されている発達の姿を、実際の子どもの姿と意図的に結びつけるグループディスカッションやロールプレイを通して考える。									
到達目標	1. 幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「人間関係」について理解する。 2. 乳幼児の人間関係について理解する。 3. 保育現場における「人間関係」の指導、援助のあり方を体得する。									
学修者への期待等	グループワークを通じた事例検討が中心となるため、積極的に授業参加すること。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス：領域「人間関係」とは									
2	「人間関係」のねらいと目的：①子どもに身に付けさせるべきもの					「幼稚園教育要領」の「人間関係」に関わる記述に目を通しておく（概ね1時間）				
3	「人間関係」のねらいと目的：②保育者に求められるもの					「私の思い出の保育者」についてまとめておく（概ね1時間）				
4	子どもと大人の関係性：①愛着形成を中心に（事例検討グループワーク）									
5	子どもと大人の関係性：②成長を促す大人の援助（事例検討グループワーク）					「観察実習で印象に残った保育者の指導や援助」についてまとめておく（概ね1時間）				
6	子ども同士の関係性：①共感性を育てる保育（事例検討グループワーク）					「観察実習で印象に残った子ども同士の関係性・人間関係」についてまとめておく（概ね1時間）				
7	子ども同士の関係性：②社会性を身に付ける保育（事例検討グループワーク）									
8	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を考える（事例検討グループワーク）									
9	子どもをめぐる今日の問題①子どもと情報機器（事例検討グループワーク）									
10	子どもをめぐる今日の問題②気になる子への対策（事例検討グループワーク）									
11	子どもをめぐる今日の問題③幼保小連携（事例検討グループワーク）									
12	子ども同士の「人間関係」を育む①（指導案の作成）3歳児					「3歳児の発達の特徴」についてまとめる（概ね1時間）				
13	子ども同士の「人間関係」を育む②（指導案の作成）5歳児					「5歳児の発達の特徴」についてまとめる（概ね1時間）				
14	子ども同士の「人間関係」を育む③（模擬保育）									
15	総括（模擬保育を振り返る）									
教科書	なし									
参考文献	『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館									
備考	授業内で検討したグループワーク等の成果物は、Office365の機能を用いてクラウド上に保存し、受講者が相互参照できるようにする。さらにそこで教員によるフィードバックも行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング			
		●	●			CS-1-CRE-08			
科目名	保育内容の指導法（表現）				単位 認定者	田宮 希砂 芳賀 哲	試験 （レポート） 60 %		
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	授業内課題等 30 %	
						授業時間数	30 時間	受講態度 10 %	
				授業形態	演習	授業回数	15 回		
授業の概要	豊かな感性や表現はどのようにして生まれるのか、授業で様々な表現活動を体験しながら、子どもの心に思いを馳せ、子どもたちが創造性を深められるような援助の仕方を学ぶ。具体的には様々な子どもにまつわる文化的表現活動を見て、体験して、自分のものとし、その状況等に適した応用の仕方などを学ぶ。								
到達目標	1 幼児の生活と領域「表現」について理解できる。 2 幼児の様々な表現活動を幼児の立場から喜びとして理解すると共に、発達の観点から見つめる。 3 幼児の表現活動を豊かにするための対応を学ぶ。								
学修者への期待等	子ども心に返り、十分に楽しむと共に、子どものようにどんどん発想を広げ、具体的な形として表現してほしい。また、他者発表から学び、自分の実践に取り入れてほしい。模擬保育等のグループワークでは、活発な意見交換が望まれる。								
回	授業計画				準備学修		担当		
1	領域「表現」について 声と動きの表現活動（実技）						田宮 希砂		
2	教材研究① 自由な表現としてZ画を作る。				Z画(展開画)のアイデアを考えてくる(1時間)		芳賀 哲		
3	教材研究② Z画を使って他者に表現する。				他者の前でどのように表現するかを練習してくる(30分)		芳賀 哲		
4	教材研究③ 自分の表現と他者の表現を組み合わせ、Z画紙芝居を作る。				他者の作品をデッサンしてくる(1時間)		芳賀 哲		
5	教材研究④ 「卵の中から」を製作し、中に入れるものを考え、作る。				卵の中身を考えてくる(30分)		芳賀 哲		
6	教材研究⑤ 「卵の中から」を他者に発表する。				他者の前でどのように表現するかを練習してくる(30分)		芳賀 哲		
7	教材研究⑥ 幼児の前で演じるポシェットを作る。				ポシェットに入れる作品を考えてくる(30分)		芳賀 哲		
8	即興身体表現遊び「アクションクイズ」・「棒が一本」等を学ぶ。				アクションクイズで表現できるものを考えてくる(30分)		芳賀 哲		
9	歌唱教材研究① 唱歌・童謡・子どものうた（実技）				歌唱教材を1曲選び教材研究をする（1時間程度）		田宮 希砂		
10	歌唱教材研究② 世界のうた・あそび歌（実技）				歌唱教材を1曲選び教材研究をする（1時間程度）		田宮 希砂		
11	身体を使った音楽表現① リトミック（実技） 歌唱活動の実践① 教材研究（ディスカッション）				ダルクローズのリトミックについて調べる（1時間程度）		田宮 希砂		
12	身体を使った音楽表現② 様々な表現（実技） 歌唱活動の実践② 指導計画立案（ディスカッション）				模擬保育までに各グループで指導計画を立てる（1時間程度）		田宮 希砂		
13	歌唱活動の実践③ 模擬保育 環境構成に着目して（グループワーク）				模擬保育までに各グループで指導計画を立てる（1時間程度）		田宮 希砂		
14	歌唱活動の実践④ 模擬保育 保育者の意図に着目して（グループワーク）				模擬保育までに各グループで指導計画を立てる（1時間程度）		田宮 希砂		
15	模擬保育の省察と領域「表現」のまとめ（討論・グループワーク）				模擬保育を振り返り再度指導計画を見直し提出すること（1時間程度）		田宮 希砂		
教科書	『保育をひらく造形表現』槇英子著、萌文書林 『続こどものうた200』小林美実編、チャイルド本社								
参考文献	『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館								
備考	課題に対しては次の授業時にコメントし、返却する。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-CRE-17					
	●	●	●								
科目名	特別支援教育演習Ⅱ				単位認定者	菅原 弘		評価の方法	試験 (レポート)	40	%
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題等	30	%
						授業時間数	30 時間		受講態度	30	%
				授業形態	演習	授業回数	15 回				
授業の概要	障害児保育の理念や歴史に触れ、理解を深める。個々の特性を理解し、その特性に応じた援助について学ぶ。個別の保育計画を作成し、保育実践について理解を深める。さらに、家庭への支援や、関係機関との連携により、支える仕組みについて学ぶ。										
到達目標	特別な支援を必要とする子どもの特性に応じた具体的な支援方法を整理して説明することができる。										
学修者への期待等	教科書や資料に事前に目を通し、質問等を整理して授業に臨み、グループワーク等でも積極的に伝え合うようにすること。										
回	授業計画					準備学修					
1	障害による教育的ニーズ（障害種別の特性と支援） 知的障害・発達障害・情緒障害等					教科書やTeamsやUNIPAの掲載資料をもとに障害をもつ子の困り感等をイメージしておく（1時間程度）					
2	障害による教育的ニーズ（障害種別の特性と支援） 聴覚障害・視覚障害・病弱・重度重複障害					教科書やTeamsやUNIPAの掲載資料をもとに障害をもつ子の困り感等をイメージしておく（1時間程度）					
3	いわゆる「気になる子」の理解と支援について考える（グループワーク）					「発達障害」に関する資料（スライド等）を熟読し具体的な支援例を考えておく（1時間程度）					
4	知的障害・重度重複障害の理解と支援について考える（グループワーク）					「知的障害」に関する資料（スライド等）を熟読し具体的な支援例を考えておく（1時間程度）					
5	言語障害・聴覚障害・重複障害の支援について考える（グループワーク）					「言語障害」に関する資料（スライド等）を熟読し具体的な支援例を考えておく（1時間程度）					
6	肢体不自由・重度重複障害の支援について考える（グループワーク）					「肢体不自由」に関する資料（スライド等）を熟読し具体的な支援例を考えておく（1時間程度）					
7	自閉スペクトラム症・強度行動障害の支援について考える（グループワーク）					「聴覚障害」に関する資料（スライド等）を熟読し具体的な支援例を考えておく（1時間程度）					
8	視覚障害・（重度）重複障害の支援について考える（グループワーク）					「視覚障害」に関する資料（スライド等）を熟読し具体的な支援例を考えておく（1時間程度）					
9	病弱児の支援について考える（グループワーク）					「病弱・重度重複障害」に関する資料（スライド等）を熟読し具体的な支援例を考えておく（1時間程度）					
10	個別的教育支援計画・個別の指導計画を立てる（グループワーク）					「通級による指導」及び「自立活動」に関する資料（スライド等）を熟読しておく（1時間程度）					
11	個別的教育支援計画・個別の指導計画をもとにした授業について考える（グループワーク）					個別の指導計画と個別的教育支援計画に関する資料（スライド）を熟読し素案を考えておく（1時間程度）					
12	個別の指導計画や合理的配慮を反映した指導案について考える（グループワーク）					個別の指導計画に関する資料（スライド等）を熟読し指導案に挿入する具体的な配慮事項を考えておく（1時間程度）					
13	家庭との相談と連携に際しての具体的な方法を考える（グループワーク）					家庭との連携に関する資料（スライド等）に目を通し、連絡帳の書き方や相談の仕方等を考えておく（1時間程度）					
14	障害によらない特別な教育的ニーズへの具体的対応と機関連携について考える（グループワーク）					関係機関との連携に関する資料（スライド等）を熟読し、具体的な連携の在り方を考えておく（1時間程度）					
15	各障害の理解と支援等のまとめと特別な教育的ニーズの把握と対応のまとめ					学修を振り返り配布資料に要点を記入しておく（1時間程度）					
教科書	『ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育』小林徹・栗山宣夫、みらい										
参考文献	『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館										
備考	グループワーク等による意見交換のほかTeams等での学生間の情報共有を用いる。 授業内課題等は授業内で知らせる。UNIPAでの提出物についてはコメントを記載してフィードバックする。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

特別支援学校・特別支援学級・通常の学級での指導実践及び特別支援教育コーディネーターの経験を踏まえ、具体的事例を掘り下げて検討する授業を行う。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング CS-1-CRE-18				
		●	●							
科目名	乳児保育Ⅱ				単位 認定者	鈴木 享之		評価の方法	試験（レポート）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	20 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	受講態度
						授業回数	15 回			
授業の概要	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。さらに、養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境、配慮の実践について、具体的に理解する。これらを基に乳児保育における計画の作成について具体的に理解する。									
到達目標	乳児保育の実践の基本的な考え方及び方法について理解し、保育現場で活用できるようになる。									
学修者への期待等	演習科目であるため、主体的参加を希望します。									
回	授業計画					準備学修				
1	乳児保育の基本①子どもと保育士等との関係の重要性と個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり					保育所保育指針の「第一章総則養護に関する基本的事項」を読んでおくこと（概ね1時間）				
2	乳児保育の基本②子どもの主体性の尊重と自己の育ちと子どもの体験と学びの芽生え					保育所保育指針の「第二章保育の内容 乳児に関わるねらい及び内容」を読んでおくこと（概ね1時間）				
3	子どもの1日の生活の流れと保育の環境と子どもの生活や遊びを支える環境の構成					保育所保育指針の「第二章保育の内容 乳児に関わるねらい及び内容」を読んでおくこと（概ね1時間）				
4	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実践と実技①（だっこ、おんぶ、衣服の着脱）									
5	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実践と実技②（授乳、沐浴）									
6	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実践と実技③（離乳食、排泄・トイレトレーニング、衛生管理、かみつき、ひっかきへの対応）									
7	3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実践と実技（わらべうた、ふれあい遊び、絵本、玩具）									
8	乳児保育の実践①7カ月未満児の保育の留意点					保育所保育指針解説の「第二章子どもの発達 2 発達過程」を読んでおくこと（概ね1時間）				
9	乳児保育の実践②8カ月から1歳6か月の保育の留意点					保育所保育指針解説の「第二章子どもの発達 2 発達過程」を読んでおくこと（概ね1時間）				
10	乳児保育の実践③1歳6カ月から3歳の保育の留意点					保育所保育指針解説の「第二章子どもの発達 2 発達過程」を読んでおくこと（概ね1時間）				
11	子ども同士の関わりとその援助の実践と集団での生活における配慮の実践と実技									
12	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮（安全管理）と環境の変化や移行に対する配慮					保育所保育指針「第三章健康及び安全」を読んでおくこと（概ね1時間）				
13	長期的な指導計画と短期的な指導計画					保育所保育指針「第一章総則保育の計画及び評価」を読んでおくこと（概ね1時間）				
14	個別的な指導計画と集団の指導計画					保育所保育指針「第一章総則保育の計画及び評価」を読んでおくこと（概ね1時間）				
15	乳児保育の展望と課題について									
教科書	『はじめて学ぶ乳児保育』志村聡子他著、同文書院									
参考文献	『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館									
備考	授業内課題については内容を確認し、次回以降の授業でコメントする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-CRE-11				
			●		●					
科目名	教育相談				単位認定者	早坂 正年		評価の方法	試験（筆記）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	30 %
				授業形態	演習	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要	児童・生徒の問題行動への対応が急がれるなか、子どもたちの健康的な学習活動を支えるための手法として教育相談が重要視されている。教育相談では、カウンセリング技術を中心とした個別支援や治療的アプローチについて理解を深めると同時に、問題に対する予防的介入や集団に対する支援のあり方についても学習する。また、教育者として円滑な教育相談を提供していくために必要な知識である子どもの発達段階や生じやすい問題（障害）について理解を深める。さらに、教員として相談活動を展開する際に必要とされるカウンセリングマインドを涵養するとともに、教育相談体制の構築法や相談室の運営方法、保護者やスクールカウンセラーをはじめとするその他の専門家（機関）との協働のあり方についても理解を深める。									
到達目標	1. 教育相談の理論と役割を説明できるようになる。 2. 獲得した基礎的知識を用いて、教育場面において円滑に相談活動が展開できるようになる。									
学修者への期待等	講義による理論の学修を行うと同時に、実践的演習を計画しているため、欠席等が極力生じないように注意すること。また、限られた時間の中で最大限の学修成果を得るためにも、参考書等を利用して積極的に予習し、授業へ参加すること。									
回	授業計画					準備学修				
1	教育相談の歴史の変遷と現代社会における教育相談の役割について					教科書P1～6の教育相談の概要について読む（1時間程度）				
2	学校教育相談の基礎（生徒指導、教育相談体制、校務分掌、スクールカウンセリング等の概要）					教科書P7～20の生徒指導の概要について読む（1時間程度）				
3	人間の生涯発達と人間関係の諸理論－就学前から学生まで教育相談が提供される意義について					教科書P21～42の発達と人間関係の理論について読む（1時間程度）				
4	学校内の支援体制のあり方と保護者・専門家（機関）との連携、チーム学校について					教科書P43～58の校内支援体制について読む（1時間程度）				
5	予防・開発的アプローチ心理教育の意義と方法					教科書P59～82の心理教育について読む（1時間程度）				
6	心理アセスメントの意義と方法・アセスメント実技					教科書P83～102の心理アセスメントについて読む（1時間程度）				
7	カウンセリングに関する基礎理論Ⅰ－精神分析的アプローチ、人間性心理学的アプローチの概要					教科書P103～107のカウンセリングの基礎について読む（1時間程度）				
8	カウンセリングに関する基礎理論Ⅱ－行動論的アプローチ、その他遊戯療法、表現療法等の概要					教科書P108～118のカウンセリングの方法について読む（1時間程度）				
9	カウンセリングの基礎的技法－カウンセリングロールプレイ・カウンセリング実技（基本的な応答訓練）					第7・8回の授業内容を復習し、習得したカウンセリングの知識を整理する（1時間程度）				
10	不登校（園）・いじめの理解と支援 ディスカッション					教科書P119～146の不登校といじめについて読む（1時間程度）				
11	反社会的行動・虐待の理解と支援 ディスカッション					教科書P147～174の反社会的行動と虐待について読む（1時間程度）				
12	発達障害・精神疾患の理解と支援 ディスカッション					教科書P175～204の発達障害と精神疾患について読む（1時間程度）				
13	事件事故・災害時等における危機介入 ディスカッション					インターネット・新聞・TV等を活用し、非常事態時の諸問題や対策について理解を深める（1時間程度）				
14	教育環境としての教師の存在－健康的な教育活動のための教師のメンタルヘルスとキャリア発達					インターネット・新聞・TV等を活用し、教師の職業的課題について理解を深める（1時間程度）				
15	教育相談活動、カウンセリング技術の向上のための方法（コンサルテーション、事例研究会等）					教科書・参考文献等を活用し、専門性向上の方法について理解を深める（1時間程度）				
教科書	『事例から学ぶ 児童・生徒への指導と援助』庄司一子監修、ナカニシヤ出版									
参考文献	『学校心理学』石隈利紀著、誠信書房 『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館									
備考	授業内課題は内容を確認した後にコメントを加えてフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-CRE-12				
		●		●						
科目名	教育方法論				単位 認定者	堀之内 敏恵		評価の 方法	試験（筆記）	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題	50 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	本講義では、前半は学習理論や教授方法、教室でのコミュニケーションなど、教師の行動のありようを実践事例を通して学んでいく。後半は教育メディアをめぐる現状について理解を深め、それらの有効な活用方法について考える。教育の方法、技術に関する基礎的な理論を学び、それらを実践で活用するための基礎力を培うことを目指す。									
到達目標	・教育方法に関する基礎的な理論と実践について理解する。 ・幼児教育における情報通信機器の活用について、知識と実践力を身につける。									
学修者への期待等	講義形式を基本とするが、グループワーク等も行うので、積極的な授業参加を期待する。日ごろから教育に関する報道に関心を持ち、情報収集すること。									
回	授業計画					準備学修				
1	ガイダンス 「教育方法」とは（ディスカッション）					【事前】これまで受けてきた授業の中で印象に残っている授業について思い返しておく 【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
2	教えるという行為①変容					【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
3	教えるという行為②効果（ディスカッション）					【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
4	教えるという行為③伝達（ディスカッション）					【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
5	教えることと学ぶこと 発達の最近接領域					【事前】「発達の最近接領域」という概念について調べておく 【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
6	学習方法 一斉学習、グループ学習、個別学習（グループワーク）					【事前】1年次に学んだ教育の思想、歴史について復習しておく 【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
7	学習理論 経験学習、系統学習					【事前】1年次に学んだ教育の思想、歴史について復習しておく（概ね1時間） 【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
8	コミュニケーション技法					【事前】自分の癖など、身体が発するメッセージについて思い返しておく 【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
9	教育メディアをめぐる子どもの現状（ディスカッション）					【事前】教育実践における教育メディアの活用について自分の考えをまとめておく 【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
10	幼児教育における教育メディアの活用① 保育者					【事前】実習先での事務作業等での情報機器の活用状況について思い返しておく 【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
11	幼児教育における教育メディアの活用② 子ども					【事前】実習先での保育活動での情報機器の活用状況について思い返しておく 【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
12	教育メディアを活用した指導案① 検討（グループワーク）					【事前】指導案作成のための準備をしておく（概ね1時間）				
13	教育メディアを活用した指導案② 作成（グループワーク）					【事前】指導案作成のための準備をしておく（概ね1時間）				
14	教育メディアを活用した指導案③ 評価（グループワーク）					【事前】他のグループの指導案について閲覧しておく（概ね1時間）				
15	まとめ 「教育方法論」を通しての学びを振り返る					【事前】15回の授業内容について復習してくる 【事後】授業内課題に取り組む（概ね1時間）				
教科書	指定しない。プリントを配布するので、ファイリングして授業時に持参すること。									
参考文献	『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館									
備考	授業内課題については、内容を確認し、次回以降の授業でコメントする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
		●	●		●	CS-1-CRE-13				
科目名	社会的養護Ⅱ				単位 認定者	田中 公一		評価の方法	試験 （レポート）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題	30 %
						授業時間数	30 時間			
					授業形態	演習	授業回数			
授業の概要	社会的養護の基礎的な内容の理解を踏まえ、施設養護及び家庭養護の実践について理解する。また、計画・記録・自己評価の実際を把握し、相談援助の方法・技術について理解する。加えて、虐待の防止と家庭支援について理解し、今後の動向と課題について考察する。									
到達目標	子どもの権利を知り、社会的養護問題の具体的事象から支援内容を理解する。又、保育士として家庭に潜む虐待等の問題の予防策を考察する必要性を理解する。									
学修者への期待等	この科目は社会福祉・児童家庭福祉と関連させ、社会的養護Ⅰの復習が効果的です。日ごろから社会的養護に関する情報に興味・関心を持ち、その積み重ねが保育士としてのスキル向上に結び付くことを理解する。									
回	授業計画					準備学修				
1	社会的養護の理解（第二次世界大戦以降の社会的養護、親子を救うための施設、特別養子縁組）					教科書第1章を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）				
2	アドミッションケア（子どもの保護について、子どもを受け入れるにあたって、自立支援計画）					教科書第2章を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）				
3	インケア（豊かな暮らしのために、治療的支援）					教科書第3章を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）				
4	【グループワーク・ディスカッション】 児童心理治療施設での心理療法と日常生活支援					教科書第3章演習CASE③を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）				
5	【グループワーク・ディスカッション】 児童自立支援施設における「育て直し」の支援					教科書第3章演習CASE④を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）				
6	【グループワーク・ディスカッション】 児童養護施設における「衣食住」の支援					教科書第3章演習CASE⑤を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）				
7	【グループワーク・ディスカッション】 乳児院のインケア					教科書第3章演習CASE⑥を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）				
8	リービングケア（社会への巣立ち、生い立ちの理解）					教科書第4章を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）				
9	【グループワーク・ディスカッション】 リービングケアにおける進学の支援					教科書第4章演習CASE⑦を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）				
10	アフターケア（家庭復帰、就職・進学後）					教科書第5章を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）				
11	ソーシャルワーク（家庭支援、里親支援）					教科書第6章を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）				
12	【グループワーク・ディスカッション】 退所に向けたソーシャルワーク					教科書第6章演習CASE⑨を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）				
13	児童養護施設の実際①（記録の必要性）					教科書第7章を読んで授業に臨むこと（概ね1時間）				
14	児童養護施設の実際②（ケアプラン）					前回のノートを確認しておくこと（概ね30分）				
15	児童養護施設の実際③（こども達の生活）					前回のノートを確認しておくこと（概ね30分）				
教科書	『図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅱ』 杉山宗尚・原田旬哉 編著、萌文書林									
参考文献	随時、講義の中で紹介する。									
備考	授業内において、適宜、課題等の作成を指示するので意欲的に取り組むこと。なお、提出された課題は、内容確認・評価後に講評及び返却するので準備学修や試験対策に役立てること。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング CS-1-CRE-20				
	●	●								
科目名	子どもの健康と安全				単位 認定者	田中 希代子		評価の方法	試験 (レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題等	15 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	15 %
					授業形態	演習	授業回数		15 回	
授業の概要	保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について、関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、子どもの発達や状態に即した適切な対応について等、具体的に理解する。さらに、子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。									
到達目標	主に乳児に焦点を当て、発育の時期に応じた育児に必要な知識や具体的な技術を習得する。子どもの健康増進のための基本的知識や援助、緊急時の応急処置を理解する。									
学修者への期待等	授業で扱う教材等は丁寧に扱うこと。模擬演習が主体なので動きやすい服装で望むこと。沐浴時はエプロン、バスタオル、調乳時はマグカップを各自持参してください。									
回	授業計画					準備学修				
1	乳児の抱っこおんぶの仕方を学ぶ(実技)					乳児の身体の特徴を復習しておくこと(概ね1時間)				
2	排泄 排泄の仕組みと観察の要点 おむつ交換を学ぶ(実技)					第3章 第5節「排泄」について予習しておくこと(概ね1時間)				
3	衣服 衣服の選び方 着脱の方法(実技)					第3章 第7節「衣生活」について予習しておくこと(概ね1時間)				
4	清潔 沐浴① 沐浴演習(実技)					第3章 第6節「身体の清潔」について予習しておくこと(概ね1時間)				
5	清潔 沐浴② レポート作成(幼児視野体験)									
6	応急手当① 外傷 骨折 捻挫の手当て 包帯法(実技)					第6章 第4節「応急手当」について予習しておくこと(概ね1時間)				
7	応急手当② 火傷 溺水 熱中症 誤飲 窒息の対処法					第6章 第4節「応急手当」について予習しておくこと(概ね1時間)				
8	蘇生法① 事故防止 心肺蘇生法を学ぶ(実技)					第6章 第5節「救命手当と危機管理」について予習しておくこと(概ね1時間)				
9	蘇生法② 事故防止 レポート作成(保健だより)					第6章 第5節「救命手当と危機管理」について予習しておくこと(概ね1時間)				
10	調乳① ミルクの作り方 調乳器具の消毒方法(実技)					第3章 第2節「子どもの栄養と食事」について予習しておくこと(概ね1時間)				
11	調乳② レポート作成(母乳の特徴とミルクの特徴 ミルクの種類)					第3章 第2節「子どもの栄養と食事」について予習しておくこと(概ね1時間)				
12	身体測定					第2章 第4節「子どもの成長発達の評価」について予習しておくこと(概ね1時間)				
13	症状の対応① 発熱 痙攣 腹痛 嘔吐 下痢 便秘					第4章 第2節「一般的な症状に対する看護」について予習しておくこと(概ね1時間)				
14	症状の対応② 薬の与え方 電法 エピペンとは					第4章 第2節「一般的な症状に対する看護」と第6章 第5節「救命手当と危機管理」について予習しておくこと(概ね1時間)				
15	感染予防 手洗いの仕方					第5章「感染の予防」について予習しておくこと(概ね1時間)				
教科書	『子どもの保健・実習―すこやかな育ちをサポートするために』兼松百合子他編著、同文書院									
参考文献	なし									
備考	授業内課題については、内容を確認し、次回以降の授業でコメントします。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-CRE-21				
			●		●					
科目名	家庭支援論				単位認定者	菅原 弘		評価の方法	試験（レポート）	40 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位		授業内課題	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	受講態度
							授業回数		15 回	
授業の概要	子育て家庭の現状を理解し、ニーズに応じた支援の必要性を学ぶ。保育士として求められる支援について理解を深める。さらに、自治体や専門機関など地域の資源の活用と連携した支援体制についても学ぶ。									
到達目標	子育て家庭を取り巻く現状を理解し、多様な子どもとその家族を想定した支援を考えることができる。									
学修者への期待等	日々の社会情勢に関心を持ち、それらと子育て家庭とのつながりを考え、問題意識を持って授業に臨むこと。 ディスカッションやTeams等を介した情報交換等にも意欲的に取り組むこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	子どもが育つ場としての「家庭」について考え、家庭支援の必要性を理解する (Teamsによる情報共有)									
2	子育て家庭を取り巻く社会環境の変化について学ぶ					核家族や貧困等、社会問題について新聞等に目を通し、事前に学修しておくこと（1時間程度）				
3	子どもや子育てに関する意識の変化を知る									
4	子育てに関する負担感や不安感について理解を深める Teamsによる意見交換（ディスカッション）					保護者、特に母親が日々どのような心理状況にあるか具体的に知るためにテレビの育児相談などを見ておくこと（1時間程度）				
5	男女の働き方と子育てについて考える					共働き、育児休暇などをキーワードに、新聞等に目を通して、事前に学修しておくこと（1時間程度）				
6	親になるということについて考える									
7	諸外国の子育て支援について学ぶ					文献学修を行うこと（1時間程度）				
8	子育て家庭を支援する制度について学ぶ Teamsによる意見交換（ディスカッション）					子どもの養育に関する手当、子育て支援センターの活動、子育てサークルの実態について身近な情報を得る（1時間程度）				
9	子育て支援の在り方について理解を深める									
10	子育て支援の実際を知る Teamsによる意見交換（ディスカッション）					授業内課題を手掛かりにして子育て支援について中間的なまとめを行う（1時間程度）				
11	DVが子どもに与える影響について学ぶ (Teamsによる情報共有)					DVの現状について、事前に調べてくること（1時間程度）				
12	虐待が起きる要因と保育士の支援について学ぶ					虐待の現実を知るために、新聞記事に目を向け情報を収集すること（1時間程度）				
13	障害をもつ子どもの理解を深め、受容についての方策を探る（Teamsによる情報共有）					「障害児保育」で学んだことを振り返りながら理解を深められるように臨むこと（1時間程度）				
14	障害をもつ子どもの母親の心理過程を知るとともに支援について考える									
15	保育士ができる子育て支援についてまとめ、保育者の役割について考える									
教科書	『子ども家庭支援論－保育を基礎とした子ども家庭支援－』 太田光洋他著、同文書院									
参考文献	『実践子ども家庭支援論』松本園子他著、ななみ書房 『ともにそだつ』そだてびとへの手紙－振り返りから道を探す一つの方法－菅原弘著、金港堂									
備考	Teams等での提出物の相互参照や情報交換（遠隔での意見交換）を行う。 UNIPAで提出を求めた授業課題等は、課題に応じて学生間で共有あるいはフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

特別支援学校・特別支援学級・通常の学級での相談の実際や生徒指導及び特別支援教育コーディネーターとしての実践を踏まえ、具体的な子どもと家族への対応について掘り下げた授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-1-CRE-22				
	●	●								
科目名	子どもの食と栄養				単位認定者	遠藤 浩子		評価の方法	試験(筆記)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		授業内課題等	40 %
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	「子どもの食と栄養」では、健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学び、そして子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。さらに食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で捉え、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。加えて、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解を深める。									
到達目標	1. 「発育・発達段階」に応じた食事の必要性を理解する。 2. 味覚・食習慣の形成期に適する食事内容と提供の方法が分かる。 3. 望ましい食生活の基礎作りの支援方法を具体的に考えられる。									
学修者への期待等	1. 栄養や調理の基礎知識を自分自身の食生活に活用、実践することで、知識の定着を図って欲しい。 2. 演習では指示に従い、事前準備が必要。 3. 積極的な取り組みと、課題の提出を期待する。									
回	授業計画					準備学修				
1	子どもの健康と食生活の意義 子どもの特徴					子どもの発達段階を振り返っておく。 (1時間程度)				
2	栄養に関する基本的知識									
3	栄養素の種類と働き 体内における水の働き					自分の食生活の状況、嗜好について記録してくる。(1時間程度)				
4	食べ物と体の関係・日本人の食事摂取基準について									
5	栄養に関する制度					食品についている表示、マークについて調べておく。(1時間程度)				
6	食中毒と衛生管理									
7	基礎食品群と食品構成 間食について					3色食品群について調べておく。(1時間程度)				
8	妊娠期と授乳期の食生活									
9	乳幼児期の授乳・離乳の意義と食生活									
10	離乳期の栄養・離乳の意義 与え方と進め方初期・中期(実技)									
11	離乳期の栄養 与え方と進め方 後期・完了期(実技)									
12	ベビーフードについて					市販のベビーフードを取り扱っているドラッグストア等を見学しておく。(1時間程度)				
13	離乳食の復習とまとめ～離乳食の進め方を振り返る～									
14	幼児期の発育・発達と食生活～正しい食生活のあり方を理解する～									
15	お弁当と衛生管理～バランスの摂れた幼児のお弁当の献立をたてる～					子どもの好む食材・料理を考えてくる。 (1時間程度)				

回	授業計画	準備学修
16	学童期・思春期の発育・発達と食生活	
17	幼児期の食事のマナー・生活習慣病について	
18	生涯発達と食生活 メタボリックシンドロームとは	
19	脂質異常症予防の食事について	
20	高血圧・糖尿病予防の食事について	
21	高齢期の特徴と食生活の要点	
22	食育の基本と内容	保育所での食育計画の資料を見直す。 (1時間程度)
23	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	地域の関係機関を調べてみる（行政機関や児童館など）（1時間程度）
24	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	配慮を要する子どものおやつを考えてくる。 (1時間程度)
25	保育所における給食の進め方と保護者との連携	保育所での食事の内容や保育士のかかわり方を思いだしてみる。（1時間程度）
26	障害のある子どもへの対応	
27	アレルギー疾患をもつ子どもの食と栄養	食物アレルギーについて調べてくる。 (1時間程度)
28	重要ポイント復習①～栄養の知識・離乳食について～	
29	重要ポイント復習②～幼児食・食育・食物アレルギー・保育所給食について～	
30	総括～これまでの重要なポイントを振り返る～	
教科書	『子どもと食の栄養 ～保育現場で活かせる食の基本』太田百合子、堤ちはる著 羊土社 『子どもノート』 保健活動を考える自主的研究会編集 合同会社ニワトコ	
参考文献	なし	
備考	授業内課題については、次回以降の授業でコメントする。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング CS-1-CRE-23				
			●		●					
科目名	子育て支援				単位 認定者	鈴木 享之 鈴木 純子		評価の方法	試験 (レポート)	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	保育士が行う保育の専門性を背景とした保護者に対する保育相談支援について、その特性と展開を具体的に理解する。さらに、保育士が行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例を通して具体的に理解する。									
到達目標	1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。 2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。									
学修者への期待等	主体的参加を希望する。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	子どもの保育とともに行う保護者の支援				保育所保育指針解説p328をよく読み、子育て支援の原則について理解しておく(概ね40分)				鈴木 享之	
2	特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援				保育所保育指針解説p335～336をよく読み、保護者の状況に応じた個別支援について理解しておくこと(概ね40分)				鈴木 享之	
3	保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解				多面的な理解について確認する(概ね1時間)				鈴木 享之	
4	子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供				保育所・幼稚園・こども園について確認する(概ね1時間)				鈴木 享之	
5	子ども及び保護者の状況・状態の把握				保護者との協同について考える(概ね1時間)				鈴木 享之	
6	支援の計画と環境の構成				支援作成のポイントを確認する(概ね1時間)				鈴木 享之	
7	支援の実践・記録・評価・カンファレンス				記録の重要性を確認する(概ね1時間)				鈴木 享之	
8	職員間の連携・協働と社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働				保育所保育指針解説p337・p341をよく読み、地域の関係機関の連携について理解しておくこと(概ね1時間)				鈴木 享之	
9	保育所等における支援の実践				日常的・継続的な関わりについて確認する(概ね1時間)				鈴木 純子	
10	障害のある子ども及びその家庭に対する支援				保護者を支える保育者の姿勢と方法について確認する(概ね1時間)				鈴木 純子	
11	地域の子育て家庭に対する支援事例を基にグループワークを行う				保育所保育指針解説p339～344をよく読み、地域の保護者に対する子育て支援について理解しておくこと(概ね40分)				鈴木 純子	
12	日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成事例を基にグループワークを行う				保育所保育指針解説p329～338をよく読み、保護者に対する基本的態度について理解しておくこと(概ね40分)				鈴木 純子	
13	子ども虐待の予防と対応について事例を基にグループワークを行う				保育機関の役割について確認する(概ね1時間)				鈴木 純子	
14	要保護児童等の家庭に対する支援事例を基にグループワークを行う				事例のまとめを確認する(概ね1時間)				鈴木 純子	
15	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭について考える				これまでの授業について振り返りまとめる(概ね2時間)				鈴木 純子	
教科書	・『子育て支援-保育者に求められる新たな専門的実践-』太田光洋著、同文書院 ・『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館									
参考文献	『幼保連携型認定こども園教育保育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館									
備考	・授業内課題については確認後授業の中でフィードバックする。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-CLE-01					
	●	●	●	●	●						
科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）					単位 認定者	小野瀬剛志 堀之内敏恵 菅原弘 早坂正年 中曽根裕 平田修三		評価 の方法	授業内課題等	90 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	後期		単位数	2 単位		受講態度	10 %
					授業形態	演習	授業時間数	30 時間			
							授業回数	15 回			
授業の概要	必修科目及び選択必修科目の履修履歴のカルテを基盤に、大学で学んだ学習知と、実習等で得られた領域等の指導力に関する実践知との更なる統合を図り、使命感や責任感、教育的愛情に裏打ちされた実践的指導力（保育実践力）を有する保育士・幼稚園教諭として必要な知識技能の修得、資質の構築とその確認を行う。具体的には、指導案を作成したり、模擬保育を試みたりして資質能力の確認を行う。また、保育にかかわる課題の中から一つ以上のものに関する分析、考察、検討を行うとともに、その課題について、子どもや保護者を援助するための技術、方法等について学習する。さらに、問題を発見し、その問題を解決する過程や解決内容について再検討する手法を学ぶ。										
到達目標	教員として必要な資質能力について理解し、指導計画を作成する力量を高め、実践的指導力を身につけることを到達目標とする。										
学修者への期待等	授業は、積み上げ式になっているので、毎回配布される資料などはきちんと保管し予習を行ってほしい。また、グループワークやディスカッションの場では、現場に立つための練習として積極的に参加し発言してほしい。										
回	授業計画					準備学修				担当	
1	ガイダンス（講義の進め方、諸注意、教科の目的と意義）					1年次および2年生前期までの学修内容、成績などを整理しておく。（概ね1時間）				小野瀬 剛志	
2	自己評価表の作成					保育・教育課程、カリキュラムなどのキーワードを中心に事前学修をしてくる。（概ね1時間）				小野瀬 剛志 早坂 正年	
3	学習カウンセリング					入学してからの学習成果や課題を整理しておく。（概ね1時間）				各グループ 担当	
4	学習課題の設定					学習カウンセリングの内容をもとに学習課題を考えてくる。（概ね1時間）				各グループ 担当	
5	指導案作成①（ねらいの設定、環境構成）					指導計画を考えてくる。（概ね1時間）				各グループ 担当	
6	指導案作成②（子どもの様子、援助の方法）									各グループ 担当	
7	グループ・ディスカッション①（ねらいの設定）					他の学生の書いた指導案を評価する ①良い点、②改善点、③質問の記入）。 （概ね1時間）				各グループ 担当	
8	グループ・ディスカッション②（環境構成）									各グループ 担当	
9	グループ・ディスカッション③（子どもの様子）									各グループ 担当	
10	グループ・ディスカッション④（援助の方法）									各グループ 担当	
11	教師論（教師と生涯学習：教師のキャリア形成）									堀之内 敏恵	
12	キャリア形成論①（新任保育者に求められるもの）					就職後のキャリアイメージをまとめてくる。（概ね30分）				神戸 典子 堀之内 敏恵	
13	キャリア形成論②（ミドルリーダーの役割）					就職後3～7年目程度のキャリアイメージをまとめてくる。（概ね30分）				大宮 麻智子 堀之内 敏恵	
14	キャリア形成論③（地域や家庭を見据えた保育）					就職後の地域や家庭との連携を考えてくる。（概ね30分）				神戸 典子 堀之内 敏恵	
15	総括（学習の振り返り、自己評価）									各グループ 担当	
教科書	とくになし										
参考文献	『教育課程・保育の計画と評価』岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正、萌文書林										
備考	授業内課題は、授業内でコメントをつけて返却する。各グループ担当回は、単位認定者全員が担当する。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-TPR-01				
	●	●	●	●	●					
科目名	保育実習Ⅰ（保育所）				単位認定者	小野瀬剛志 堀之内敏恵 菅原弘 早坂正年 鈴木享之 田中公一 田宮希砂 中曽根裕 平田修三 平山淑希		評価の方法	実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位			
				授業形態	実習	授業時間数	80 時間			
						授業回数	集中			
授業の概要	「保育実習Ⅰ（保育所）」では、大学で学んだ保育理論や保育方法等の原理原則を、保育現場において観察、参加、保育等によって実証的、実践的に研究し、将来実践の場で柔軟に対応できる保育実践力の基礎を学ぶ。その過程において、保育所の役割と機能、子どもの観察とその記録及び子どもへの援助やかかわり方等を学び、指導計画の理解や指導案作成、記録に基づく省察等とのかかわりにおいて環境構成のあり様を学ぶ。さらに、専門職としての保育士の役割と職業倫理を学ぶ。									
学修者への期待等	実習中に生じた疑問や質問については、現場の職員や担当教員などに相談しながら利用者と関わること。実習中にトラブルなどが起きた場合は、実習先と大学に連絡・相談・報告をすること。									
授業計画							準備学修			
①実習期間：9月中旬から9月下旬 ②実習の目標：保育所の実際に接して、子どもと保育の全体について知ることと保育所の役割と概略を理解する。また、子どもとのかかわりを通して、乳幼児の発達と保育の意義について理解する。 ③実習内容： ・実習施設について理解する。 ・保育の一日の流れを理解し、参加する。 ・子どもの観察や関わりを通して、乳幼児の発達を理解する。 ・保育計画・指導計画について学修する。 ・生活や遊びの一部分を担当し、保育技術について理解を深める。 ・職員間の役割分担とチームワークについて学修する。 ・記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して、家庭・地域社会を理解する。							実習開始前日には以下の準備学修を行う ・実習日誌の最終確認（概ね1時間） ・持参するものの確認（概ね1時間） ・実習の手引きの確認（概ね1時間） 実習開始後は日々以下の準備学修を行う ・実習日誌の記入（概ね1時間） ・教材研究等（概ね1時間）			
教科書	『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館									
参考文献	『保育実習の手引き』宮城県保育士養成校連絡協議会 その他、配布資料等									
備考	実習目標達成度については、以下の事項を加味し、総合的に評価を行う。 ①実習登録手続きに関する状況 ②事前の書類（細菌検査・オリエンテーション報告書等）提出の状況 ③実習中の状況（巡回指導時の状況も含む） ④実習への出席状況 ⑤実習先からの実習評価 ⑥実習日誌の提出の状況及び事後に必要な書類提出（欠席届等）の状況 ⑦実習日誌の記録内容 実習終了後は、評価表を基に個別面談を行い、学修内容に関するフィードバックを実施する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-TPR-02				
	●	●	●	●	●					
科目名	保育実習Ⅰ（施設）				単位 認定者	小野瀬剛志 菅原弘 鈴木享之 田宮希砂 平田修三 堀之内敏恵 早坂正年 田中公一 中曽根裕 平山淑希		評価の方法	実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位			
						授業時間数	80 時間			
				授業形態	実習	授業回数	集中			
授業の概要	「保育実習Ⅰ（施設）」では、大学で学んだ保育理論や保育方法等の原理原則を、保育現場において観察、参加、保育等によって実証的、実践的に研究し、将来実践の場で柔軟に対応できる保育実践力の基礎を学ぶ。その過程において、施設の役割と機能、子どもの観察とその記録及び子どもへの援助やかかわり方等を学び、支援計画の理解や指導案作成、記録に基づく省察等とのかかわりにおいて環境構成のあり様を学ぶ。さらに、専門職としての保育士の役割と職業倫理を学ぶ。									
学修者への期待等	実習中に生じた疑問や質問については、現場の職員や担当教員などに相談しながら利用者と関わること。実習中にトラブルなどが起きた場合は、実習先と大学に連絡・相談・報告をすること。									
授業計画								準備学修		
①実習期間：5月下旬から6月上旬 ②実習の目標：実習施設の概要を理解する ・実習施設の概要や役割機能を把握し、理解を深める。 ・保育士をはじめとした支援職員の職務内容を理解すると共に、他職種間との連携内容について学ぶ。 ・子ども/利用者一人ひとりに即した支援内容や、その方法について学ぶ。 ③実習内容：保育士や職員の補助的立場で養護活動に直接参加し、体験的に学修する。 ・施設の種別、目的、沿革を理解する。 ・施設職員の専門性を理解する。 ・施設利用者の概況を理解する。 ・施設の方針・特色を理解する。 ・施設を取り巻く社会資源を理解する。 ・実習中に取り組む課題の設定（実習に向けての目標・抱負の作成）								実習開始前日には以下の準備学修を行う ・実習日誌の最終確認（概ね1時間） ・持参するものの確認（概ね1時間） ・実習の手引きの確認（概ね1時間） 実習開始後は日々以下の準備学修を行う ・実習日誌の記入（概ね1時間） ・教材研究等（概ね1時間）		
教科書	『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館									
参考文献	『保育実習の手引き』宮城県保育士養成校連絡協議会 その他、配布資料等									
備考	実習目標達成度については、以下の事項を加味し、総合的に評価を行う。 ①実習登録手続きに関する状況 ②事前の書類（細菌検査・オリエンテーション報告書等）提出の状況 ③実習中の状況（巡回指導時の状況も含む） ④実習への出席状況 ⑤実習先からの実習評価 ⑥実習日誌の提出の状況及び事後に必要な書類提出（欠席届等）の状況 ⑦実習日誌の記録内容 実習終了後は、評価表を基に個別面談を行い、学修内容に関するフィードバックを実施する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果						科目ナンバリング			
						CS-2-TPR-03			

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

										科目ナンバリング		
										CS-2-TPR-04		
学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力							
	●	●	●	●	●							
科目名	保育実習Ⅱ				単位 認定者	小野瀬剛志 菅原弘 鈴木享之 田宮希砂 平田修三		堀之内敏恵 早坂正年 田中公一 中曽根裕 平山淑希		評価の方法	実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位					
				授業形態	実習	授業時間数	80 時間					
						授業回数	集中					
授業の概要	「保育実習Ⅰ（保育所）」での学びを踏まえて、保育実践力をより確かなものにする。それにあたっては、子どもの観察とその記録及び子どもへの援助やかかわり方等を様々な実践を通して総合的に学び、指導計画の理解や様々な指導案作成、記録に基づく省察等とのかかわりにおいてより良い環境構成のあり様を習得する。さらに、専門職としての保育士の役割と職業倫理を学び、保育をめぐるの自己の課題を明確にする。											
学修者への期待等	実習中に生じた疑問や質問については、現場の職員や担当教員などに相談しながら利用者と関わること。実習中にトラブルなどが起きた場合は、実習先と大学に連絡・相談・報告をすること。											
授業計画							準備学修					
①実習期間：10月上旬～10月中旬 ②実習目標：保育所の保育を実践し、保育士として適切な保育を行うための必要な資質・能力・技術を習得する。子どもをもつ家庭の福祉に対する理解を深め、子育てを支援するための能力を養う。 ③実習内容： ・保育実習Ⅰ（保育所）での経験を踏まえ、指導計画を立てて実践する。 ・子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。 ・保育士としての倫理を具体的に学修する。 ・安全及び疾病予防への配慮について理解する。							実習開始前日には以下の準備学修を行う ・実習日誌の最終確認（概ね1時間） ・持参するものの確認（概ね1時間） ・実習の手引きの確認（概ね1時間） 実習開始後は日々以下の準備学修を行う ・実習日誌の記入（概ね1時間） ・教材研究、指導案作成等（概ね1～2時間）					
教科書	『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館											
参考文献	『保育実習の手引き』宮城県保育士養成校連絡協議会 その他、配布資料等											
備考	実習目標達成度については、以下の事項を加味し、総合的に評価を行う。 ①実習登録手続きに関する状況 ②事前の書類（細菌検査・オリエンテーション報告書等）提出の状況 ③実習中の状況（巡回指導時の状況も含む） ④実習への出席状況 ⑤実習先からの実習評価 ⑥実習日誌の提出の状況及び事後に必要な書類提出（欠席届等）の状況 ⑦実習日誌の記録内容 実習終了後は、評価表を基に個別面談を行い、学修内容に関するフィードバックを実施する。											

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

						科目ナンバリング				
						CS-2-TPR-05				
学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力					
	●	●	●	●	●					
科目名	保育実習指導Ⅱ				単位 認定者	鈴木享之 田中公一 平田修三 平山淑希				
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価 の方法	実習報告書	50 %
						授業時間数	30 時間		授業内課題等	50 %
				授業形態	演習 <th>授業回数</th> <td>15 回</td> <td></td> <td></td>	授業回数	15 回			
授業の概要	「保育実習Ⅰ」を踏まえ、「保育実習Ⅱ」の事前事後指導を行う。事前指導では、まず実習の意義や目的、指導案の意義や役割、指導案の形式と要素を確認する。これらのことを踏まえて指導案を作成し、教材を作成する。模擬保育をティーム・ティーチングまたは単独で試みる。観察参加の記録を取り、それを基に模擬保育を振り返り、再度指導案を作成し、保育実践力の基盤をより確かなものにする。事後指導では、個々の実習ノート、部分指導案を基に保育を振り返る。保育をめぐるの自己の課題を明確にし、保育に対する認識を新たにする。									
到達目標	保育実習に関しての知識・技術の確認と事前学修を行い保育実習の充実を図る。事後指導やまとめの学修を通し、実習の成果や反省から新たな課題を見出し、保育観作りの足掛かりを作る。									
学修者への期待等	保育実習Ⅱは、指導案の作成や部分・全日実習など実践に近い実習となるので、様々な事態を想定した学修の場にするよう心がけること。振り返りや反省を通し、真摯に自分の課題と向き合うこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	保育実習Ⅱの全体像について					『保育実習の手引き』の理解 (1時間程度)				
2	実習の意義・内容の理解					保育指針の再確認、実習先についての学修 (3時間程度)				
3	指導案についての理解					指導案についての学修 (4時間程度)				
4	実習の実践的指導①部分実習					実践する事柄を考える (2時間程度)				
5	実習の実践的指導②全日実習					実践する事柄を考える (2時間程度)				
6	実習の全体的課題について					実習の内容を検討する (3時間程度)				
7	【グループワーク】 実習の個別的課題について					実習の内容を検討する (3時間程度)				
8	【グループワーク】 実習に関する事後指導：実習成果の確認					全日実習等を振り返る (2時間程度)				
9	【グループワーク】 実習に関する事後指導：相互による検討					全日実習等を振り返る (2時間程度)				
10	【グループワーク】 個別の課題に関する反省：理論的側面の検討					各自の課題を見出す (1時間程度)				
11	【グループワーク】 個別の課題に関する反省：実践的側面の検討					各自の課題を見出す (1時間程度)				
12	実習についての全体的総括：理論的側面					これまで行った実習全体を振り返る (1時間程度)				
13	実習についての全体的討議：理論的側面					実習に関する課題を考える (1時間程度)				
14	実習についての全体的総括：実践的側面					これまで行った実習全体を振り返る (1時間程度)				
15	実習についての全体的討議：実践的側面					実習に関する課題を考える (1時間程度)				
教科書	『保育所保育指針解説』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 『これで安心！保育指導案の書き方』開仁志編著、北大路書房									
参考文献	『保育実習の手引き』宮城県保育士養成校連絡協議会 その他、随時配布する。									
備考	・実習に関わる重要な授業であるため、毎回真剣に取り組むこと。 ・実習関係書類、腸内細菌検査、レポート等の提出状況や取り組み状況等で総合的に評価する。 ・毎時間、単位認定者全員が指導を行うが、個別指導では他の専任教員も指導を実施する。 ・提出された課題は確認後授業内で返却する。実習時の参考資料として活用すること。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-TPR-06				
	●	●	●	●	●					
科目名	保育実習Ⅲ				単位 認定者	小野瀬剛志 堀之内敏恵 菅原弘 早坂正年 鈴木享之 田中公一 田宮希砂 中曽根裕 平田修三 平山淑希		評価の方法	実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位			
						授業時間数	80 時間			
				授業形態	実習	授業回数	集中			
授業の概要	「保育実習Ⅰ（施設）」を踏まえ、保育実践力をより確かなものにする。それにあたっては、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について、実践を通して理解を深めつつ、児童福祉施設等（保育所以外）における様々な支援、つまり個別支援計画の作成と実践、子どもの家族への支援と対応等を実践と結びつけて習得する。さらに、専門職としての保育士の役割と職業倫理を学び、保育をめぐるの自己の課題を明確にする。									
学修者への期待等	実習中に生じた疑問や質問については、現場の職員や担当教員などに相談しながら利用者と関わること。実習中にトラブルなどが起きた場合は、実習先と大学に連絡・相談・報告をすること。									
授業計画							準備学修			
①実習期間：12月上旬～12月中旬 ②実習目標：施設の保育士として必要な資質・能力・技術を習得するとともに、家庭と地域の生活状況を把握し、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力・判断力を養い、子育てを支援するために必要な能力を養う。 ③実習内容 ・保育実習Ⅰ（施設）での経験を踏まえ、指導計画を立てて実践する。 ・子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。 ・保育士としての倫理を具体的に学修する。 ・安全及び疾病予防への配慮について理解する。							実習開始前日には以下の準備学修を行う ・実習日誌の最終確認（概ね1時間） ・持参するものの確認（概ね1時間） ・実習の手引きの確認（概ね1時間） 実習開始後は日々以下の準備学修を行う ・実習日誌の記入（概ね1時間） ・教材研究等（概ね1時間）			
教科書	『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館									
参考文献	『保育実習の手引き』宮城県保育士養成校連絡協議会 その他、配布資料等									
備考	実習目標達成度については、以下の事項を加味し、総合的に評価を行う。 ①実習登録手続きに関する状況 ②事前の書類（細菌検査・オリエンテーション報告書等）提出の状況 ③実習中の状況（巡回指導時の状況も含む） ④実習への出席状況 ⑤実習先からの実習評価 ⑥実習日誌の提出の状況及び事後に必要な書類提出（欠席届等）の状況 ⑦実習日誌の記録内容 実習終了後は、評価表を基に個別面談を行い、学修内容に関するフィードバックを実施する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

						科目ナンバリング	
						CS-2-TPR-07	
学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力		
	●	●	●	●	●		
科目名	保育実習指導Ⅲ				単位 認定者	鈴木 享之 田中 公一	
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位
					授業時間数	30 時間	
				授業形態	演習	授業回数	15 回
授業の概要	「保育実習Ⅰ」を踏まえ、「保育実習Ⅲ」の事前事後指導を行う。事前指導では、まず実習の意義や目的、指導案の意義や役割、指導案の形式と要素を確認する。これらのことを踏まえて指導案を作成し、教材を作成する。模擬保育をディーム・ティーチングまたは単独で試みる。観察参加の記録を取り、それを基に模擬保育を振り返り、再度指導案を作成し、保育実践力の基盤をより確かなものにする。事後指導では、個々の実習ノート、部分指導案を基に保育を振り返る。保育をめぐるの自己の課題を明確にし、保育に対する認識を新たにすること。						
到達目標	保育実習に関する知識・技術の確認と事前学修を行い保育実習の充実を図る。事後指導やまとめの学修を通し、実習の成果や反省から新たな課題を見出し、保育観作りの足掛かりを作る。						
学修者への 期待等	保育実習Ⅲは、指導案の作成や部分・全日実習など実践に近い実習となるので、様々な事態を想定した学習の場にするよう心がけること。振り返りや反省を通し、真摯に自分の課題と向き合うこと。						
回	授業計画				準備学修		
1	保育実習Ⅲの全体像について				『保育実習の手引き』の理解 (概ね1時間)		
2	実習の意義・内容の理解				保育指針の再確認、実習先についての学修 (概ね3時間)		
3	指導案についての理解				指導案についての学修 (概ね4時間)		
4	実習の実践的指導①部分実習				実践する事柄を考える (概ね2時間)		
5	実習の実践的指導②全日実習				実践する事柄を考える (概ね2時間)		
6	実習の全体的課題について				実習の内容を検討する (概ね3時間)		
7	【グループワーク】 実習の個別的課題について				実習の内容を検討する (概ね3時間)		
8	【グループワーク】 実習に関する事後指導：実習成果の確認				全日実習等を振り返る (概ね2時間)		
9	【グループワーク】 実習に関する事後指導：相互による検討				全日実習等を振り返る (概ね2時間)		
10	【グループワーク】 個別の課題に関する反省：理論的側面の検討				各自の課題を見出す (概ね1時間)		
11	【グループワーク】 個別の課題に関する反省：実践的側面の検討				各自の課題を見出す (概ね1時間)		
12	実習についての全体的総括：理論的側面				これまで行った実習全体を振り返る (概ね1時間)		
13	実習についての全体的討議：理論的側面				実習に関する共有すべき課題を考える (概ね1時間)		
14	実習についての全体的総括：実践的側面				これまで行った実習全体を振り返る (概ね1時間)		
15	実習についての全体的討議：実践的側面				実習に関する共有すべき課題を考える (概ね1時間)		
教科書	『保育所保育指針』厚生労働省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 『これで安心！保育指導案の書き方』開仁志編著、北大路書房						
参考文献	『保育実習の手引き』宮城県保育士養成校連絡協議会 その他、随時配布する。						
備考	・実習に関わる重要な授業であるため、毎回真剣に取り組むこと。 ・提出されたレポートは確認後授業内で返却する。実習時の参考資料として活用すること。 ・授業内課題等については、実習関係書類、腸内細菌検査、レポート等の提出状況や取り組み状況等で総合的に評価する。 ・個別指導では他の専任教員も指導を行う。						

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング		
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-TPR-10		
	●	●	●	●	●			
科目名	教育実習Ⅱ				単位認定者	小野瀬剛志 菅原弘 鈴木享之 田宮希砂 平田修三	堀之内敏恵 早坂正年 田中公一 中曽根裕 平山淑希	実習目標達成度 100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	3 単位	評価の方法
				授業形態	実習	授業時間数	120 時間	
						授業回数	集中	
授業の概要	将来実践の場で柔軟に対応できるような実践的指導力の育成を志向し、教育実習を行う。幼稚園教諭としての職務を理解し、教育現場での実践を通じて教員としての資質能力、実践的指導力を体得する参加実習を行う。							
学修者への期待等	理論と実践の具体的相互関係を学び、教育者・保育者としてのあり方を学ぶ。 日々、実習を振り返りながら、実習の内容を実習日誌に記し、それを基に次の日の準備を行う。							
授業計画						準備学修		
①実習期間： ・6月中旬～7月上旬 ②実習の目的・目標： ・大学で学んだ知識や技能を基盤に、幼稚園教諭としての服務を理解する。 ・教育や保育を試み、幼稚園教諭としての資質能力の基礎を体得する。 ③実習内容： ・配属クラスにおいて教育や保育を行う。 ・指導案や教材等を作成し、それを基に教育や保育を試みる。 ・教育や保育を振り返り、教材観や幼児観や指導観を形成する。						実習開始前日には以下の準備学修を行う ・実習日誌の最終確認（概ね1時間） ・持参するものの確認（概ね1時間） ・実習の手引きの確認（概ね1時間） 実習開始後は日々以下の準備学修を行う ・実習日誌の記入（概ね1時間） ・教材研究、指導案作成等（概ね1～2時間）		
教科書	『幼稚園教育要領』文部科学省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館							
参考文献	『教育実習の手引き』宮城県幼稚園教育実習連絡協議会 その他、配布資料等							
備考	実習目標達成度については、以下の事項を加味し、総合的に評価を行う。 ①実習登録手続きに関する状況 ②事前の書類（細菌検査・オリエンテーション報告書等）提出の状況 ③実習中の状況（巡回指導時の状況も含む） ④実習への出席状況 ⑤実習先からの実習評価 ⑥実習日誌の提出の状況及び事後に必要な書類提出（欠席届等）の状況 ⑦実習日誌の記録内容 実習終了後は、評価表を基に個別面談を行い、学修内容に関するフィードバックを実施する。							

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング CS-2-TPR-11				
	●	●	●	●	●					
科目名	教育実習指導Ⅱ				単位 認定者	菅原弘 田宮希砂	田中公一 平山淑希	評価 の方法	実習報告書	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題	50 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	演習	授業回数	15 回			
授業の概要	教育実習Ⅱの事前・事後指導を行う。事前指導では教育実習Ⅰを踏まえ、2回目の幼稚園での実習に臨むにあたり、必要となる実践力、研究力の育成を目指す。事後指導では実習の反省を踏まえ、自己の課題を見出しながら、教育者・保育者として必要となる事柄の習得のための学びを深める。									
到達目標	1. 教育実習Ⅱの意義や目的をよく理解する。 2. 指導案の意義や役割を理解し、作成能力を身に付ける。 3. 参加実習に向け、必要な技能・実践力を身に付ける。									
学修者への期待等	実習に向けて、自ら学ぶ姿勢をしっかりと持つこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	教育実習Ⅱについての理解・教育実習Ⅰの振り返り					教育実習Ⅰで行った活動の再確認（概ね1時間）				
2	指導案の意義や内容・作成方法					具体的な指導案を考える（概ね1時間）				
3	指導案の作成・教材の理解					指導案の実践に必要な教材を考える（概ね1時間）				
4	実習に関する実践的指導① 部分実習					実践内容を考える（概ね1時間）				
5	実習に関する実践的指導② 全日実習					実践内容を考える（概ね1時間）				
6	小グループ活動による保育計画の作成(1) - 活動のねらい -					グループで原案を考えるための資料を準備する（概ね1時間）				
7	小グループ活動による保育計画の作成(2) - 活動の展開 -					グループで原案を考えるための資料を準備する（概ね2時間）				
8	【グループワーク】 小グループによる保育の実践(1) - 教材と発達 -					保育実践で使用する教材の準備をして授業に臨む（概ね2時間）				
9	【グループワーク】 小グループによる保育の実践(2) - 保育者の援助 -					保育実践で使用する教材の準備をして授業に臨む（概ね2時間）				
10	【グループワーク】 小グループによる保育の実践(3) - 一人一人へ -					保育実践で使用する教材の準備をして授業に臨む（概ね2時間）				
11	【グループワーク】 小グループによる保育の実践(4) - クラス全体へ -					保育実践で使用する教材の準備をして授業に臨む（概ね2時間）				
12	【グループワーク】 保育における環境構成・保育者としての専門性					指導計画案を整理する（概ね1時間）				
13	実習に関する事後指導：全般的な反省					実習内容の振り返り（概ね1時間）				
14	【グループワーク】 実習に関する事後指導：個別の課題に関する反省					実習内容の振り返り（概ね1時間）				
15	教育実習全体のまとめ					実習の反省点を検討する（概ね2時間）				
教科書	『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館 『これで安心！保育指導案の書き方』開仁志編著、北大路書房									
参考文献	『教育実習の手引き』宮城県幼稚園教育実習連絡協議会 その他、随時配布する。									
備考	実習に関わる重要な授業です。授業には、毎回真剣に取り組むことが必要です。 提出されたレポートは確認後授業内で返却します。実習時の参考資料として活用してください。 個別指導では他の専任教員も指導を行います。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

特別支援学校と公立小学校での勤務経験をもとに、実習生として学びを深めるための職員と子どもに向き合う基本姿勢と具体的な学びの視点等を伝え、実習意欲を強める（菅原）
幼稚園にて幼稚園教諭として勤務し、クラス担任及び主任教諭として実習指導を行ってきた経験を基に、保育の実際に即した実践的な事前事後指導を行う（田宮）

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-SEM-02				
			●	●						
科目名	基礎演習Ⅱ				単位 認定者	小野瀬 剛志		評価の方法	授業内課題	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	60 時間			
					授業形態	演習	授業回数		30 回	
授業の概要	各担当教員の支援指導の下で、学生が実習等の体験の中で直面した問題を自らの課題と捉え、その課題解決のために探究を行う。問題を論理的に整理し、教員と学生の間でグループディスカッションを行い、新聞・諸論文・紙芝居等の様々な形式でのプレゼンテーションを通して、より実践的な知識や技術の獲得及び卒業後のキャリア形成能力の養成を目指す。									
到達目標	・自然と人間（社会）のかかわりを理解する。 ・子どもたちに対する環境教育の重要性を理解し、実践する力を身につける。									
学修者への期待等	基礎演習Ⅱは自分たちで課題を見つけ、それについて調べ、解決策を探ることが基本です。常に自分から学ぶという姿勢で講義に臨んでください。									
回	授業計画					準備学修				
1	授業ガイダンス（授業計画・受講上の注意などの説明）と課題探求への導入									
2	体験学習①（春の自然環境）									
3	自然と社会の理解①（人間と自然のかかわり）					人間と自然の共生について調べてくる。（概ね1時間）				
4	自然と社会の理解②（社会と自然のかかわり）					現代社会のあり方と環境問題の関係について調べてくる。（概ね1時間）				
5	自然と社会の理解③（社会運動と教育）					環境保護などの社会運動と教育の関係について考えてくる。（概ね1時間）				
6	自然と社会の理解④（グループディスカッション）									
7	環境教育の実践①（遊びの体験）									
8	環境教育の実践②（指導計画の作成）					環境教育に関連した遊びを計画してくる。（概ね1時間）				
9	環境教育の実践③（実践）									
10	環境教育の実践④（反省と評価）									
11	環境教育の実践⑤（グループディスカッション）									
12	体験学習②（夏の自然環境）									
13	中間まとめ①（人間・社会と自然の関係について）					これまで学んだ内容から人間・社会のあり方と環境問題の関係について整理してくる。（概ね1時間）				
14	中間まとめ②（遊びを通した環境教育）									
15	前期のふり振り返りと後期への展望									

回	授業計画	準備学修
16	アクティブ・ラーニング①（企画）	子ども、もしくは親子を対象にしたゲームを考えてくる。（概ね1時間）
17	アクティブ・ラーニング②（教材作成）	
18	アクティブ・ラーニング③（模擬実践）	
19	アクティブ・ラーニング④（企画の見直し）	模擬実践の反省点と改善案をまとめてくる。（概ね1時間）
20	アクティブ・ラーニング⑤（最終確認・事前準備）	
21	アクティブ・ラーニング⑥（実践）	
22	報告書の作成（実践）①（実践のふり返し）	
23	報告書の作成（実践）②（今後の課題）	
24	発表用レジュメの作成と提出	
25	発表準備	
26	学科内研究発表会①第1グループの研究成果報告	第1グループのレジュメを読み、質問事項を考えてくる。（概ね1時間）
27	学科内研究発表会②第2グループの研究成果報告	第2グループのレジュメを読み、質問事項を考えてくる。（概ね1時間）
28	学科内研究発表会③第3グループの研究成果報告	第3グループのレジュメを読み、質問事項を考えてくる。（概ね1時間）
29	学科内研究発表会④第4グループの研究成果報告	第4グループのレジュメを読み、質問事項を考えてくる。（概ね1時間）
30	総括：研究活動の反省と課題	
教科書	特に指定しない。	
参考文献	適宜紹介する。	
備考	授業課題については各授業内でコメントし、学科内発表については最終回でコメントする。 第5回目には早川昌子先生に講話をしていただきます。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-SEM-02				
			●	●						
科目名	基礎演習Ⅱ				単位認定者	堀之内 敏恵		評価の方法	授業内課題	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	各担当教員の支援指導の下で、学生が実習等の体験の中で直面した問題を自らの課題と捉え、その課題解決のために探究を行う。問題を論理的に整理し、教員と学生の間でグループディスカッションを行い、新聞・諸論文・紙芝居等の様々な形式でのプレゼンテーションを通して、より実践的な知識や技術の獲得及び卒業後のキャリア形成能力の養成を目指す。									
到達目標	・子どもをとりまく諸課題について、論理的に考察することができる。 ・探究した成果を自分の言葉で、他の人にわかりやすく伝えることができる。									
学修者への期待等	海外の事例との比較検討を通して、子どもをとりまく諸課題について「保育者」として出来得る対策をゼミ生みんなで模索してもらいたい。各自が主体的、協力的に活動に取り組むことを期待する。									
回	授業計画				準備学修					
1	授業ガイダンス（授業計画・受講上の注意などの説明）と課題探求への導入									
2	比較教育学とは				資料を熟読し疑問点や課題を考えてくる（概ね1時間）					
3	講読・発表①幼稚園・保育所（ディスカッション）				発表者はレジュメを用意してくる。発表者以外は資料の当該部分を読み、疑問点や課題を考えてくる（概ね1時間）					
4	講読・発表②学童保育（ディスカッション）				発表者はレジュメを用意してくる。発表者以外は資料の当該部分を読み、疑問点や課題を考えてくる（概ね1時間）					
5	講読・発表③オルタナティブスクール（ディスカッション）				発表者はレジュメを用意してくる。発表者以外は資料の当該部分を読み、疑問点や課題を考えてくる（概ね1時間）					
6	講読・発表④子育て支援（ディスカッション）				発表者はレジュメを用意してくる。発表者以外は資料の当該部分を読み、疑問点や課題を考えてくる（概ね1時間）					
7	講読・発表⑤若者支援（ディスカッション）				発表者はレジュメを用意してくる。発表者以外は資料の当該部分を読み、疑問点や課題を考えてくる（概ね1時間）					
8	講読を通しての全体討議（ディスカッション）				講読を通して学んできた子どもをとりまく諸課題について整理してくる（概ね1時間）					
9	事例研究①学童保育									
10	映像視聴①歴史				資料を熟読し疑問点や課題を考えてくる（概ね1時間）					
11	映像視聴②児童文化				資料を熟読し疑問点や課題を考えてくる（概ね1時間）					
12	映像視聴③家族				資料を熟読し疑問点や課題を考えてくる（概ね1時間）					
13	映像視聴を通しての全体討議（ディスカッション）				映像視聴を通して学んできた子どもをとりまく諸課題について整理してくる（概ね1時間）					
14	事例研究②子育て・若者支援									
15	前期のまとめと後期のテーマ設定（ディスカッション）				後期のテーマを設定する準備をしてくる（概ね1時間）					

回	授業計画	準備学修
16	後期ガイダンスと活動内容・方法の検討	
17	課題解決へのアプローチ① 企画（グループワーク）	学生同士が事前に話し合をもちながら準備する（概ね1時間）
18	課題解決へのアプローチ② 資料収集（グループワーク）	学生同士が事前に話し合をもちながら準備する（概ね1時間）
19	課題解決へのアプローチ③ 体験学習①（フィールドワーク）	学生同士が事前に話し合をもちながら準備する（概ね1時間）
20	課題解決へのアプローチ④ 振り返り・課題の整理（ディスカッション）	学生同士が事前に話し合をもちながら準備する（概ね1時間）
21	課題解決へのアプローチ⑤ 体験学習②（フィールドワーク）	学生同士が事前に話し合をもちながら準備する（概ね1時間）
22	課題解決へのアプローチ⑥ 振り返り・課題の整理（ディスカッション）	学生同士が事前に話し合をもちながら準備する（概ね1時間）
23	学科内発表会準備① 発表内容・方法の検討（グループワーク）	
24	学科内発表会準備② 発表資料の作成（グループワーク）	各自分担部分について発表用資料の準備を進める（概ね1時間）
25	学科内発表会準備③ 発表資料の完成、提出	各自分担部分について発表用資料の準備を進める（概ね1時間）
26	学科内研究発表会①：第1グループの研究 成果報告	第1グループのレジュメを読み、質問事項を考えてくる（概ね1時間）
27	学科内研究発表会②：第2グループの研究 成果報告	第2グループのレジュメを読み、質問事項を考えてくる（概ね1時間）
28	学科内研究発表会③：第3グループの研究 成果報告	第3グループのレジュメを読み、質問事項を考えてくる（概ね1時間）
29	学科内研究発表会④：第4グループの研究 成果報告	第4グループのレジュメを読み、質問事項を考えてくる（概ね1時間）
30	総括：研究活動の反省と課題	
教科書	指定しない。資料を配布するので、ファイリングして授業時に持参すること。	
参考文献	授業時に適宜紹介する。	
備考	授業内課題については各授業内でコメントし、学科内発表については最終回でコメントする。 第9回は齋藤史夫氏に、第14回は南銀伊氏に講話をしていただく。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-SEM-02				
			●	●						
科目名	基礎演習Ⅱ				単位 認定者	菅原 弘		評価 の方法	授業内課題	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	演習	授業回数	30 回			
授業の概要	各担当教員の支援指導の下で、学生が実習等の体験の中で直面した問題を自らの課題と捉え、その課題解決のために探究を行う。問題を論理的に整理し、教員と学生の間でグループディスカッションを行い、新聞・諸論文・紙芝居等の様々な形式でのプレゼンテーションを通して、より実践的な知識や技術の獲得及び卒業後のキャリア形成能力の養成を目指す。									
到達目標	1. 保育者の役割について理解し、保育観を明確にする。 2. 協力して取り組んだことを整理し、他者へ伝えられるようにする。									
学修者への期待等	基礎演習Ⅱは自分たちで課題を見つけ、それについて調べ、解決策を探ることが基本です。常に自分から学ぶという姿勢で臨んでください。									
回	授業計画					準備学修				
1	授業ガイダンス（授業計画・受講上の注意などの説明）と課題探求への導入									
2	購読①：特別支援教育・保育について					特別支援教育・保育について自身の考えを端的に発表できるように準備しておく（1時間程度）				
3	購読②：特別な支援を要する子どもたちについて					授業で配布した特別支援教育に関する資料に、自分で調べたことを記入しておく（1時間程度）				
4	購読③：特別な支援を要する子どもたちと家族					授業で配布した家族の変容過程について、疑問や意見を書き入れておく（1時間程度）				
5	購読④：支援の実際（ディスカッション）					授業で配布した「発達障害」に関する資料を熟読しておく（1時間程度）				
6	購読⑤：支援者として（ディスカッション）					授業で配布した特別支援教育に関する資料に支援者として重要なことをメモしておく（1時間程度）				
7	調査の準備①：問題意識の整理（グループワーク）					これまでの授業を通して、感じた課題を明確にしておく（1時間程度）				
8	調査の準備②：調査対象者の選定（ディスカッション）					調査についてイメージしてくる（1時間程度）				
9	調査の準備③：質問事項の精査、作成（ディスカッション）					学生同士事前に話し合いを持ちながら準備する（1時間程度）				
10	調査の準備④：シミュレーション					学生同士事前に話し合いを持ちながら準備する（1時間程度）				
11	調査①：施設見学（フィールドワーク）					事前の打ち合わせをしっかりとしておく（1時間程度）				
12	調査②：インタビュー（フィールドワーク）					事前の打ち合わせをしっかりとしておく（1時間程度）				
13	報告書の作成①：調査の結果をまとめる					学生同士で事前に論点整理をしておくこと（1時間程度）				
14	報告書の作成②：調査の結果を分析する					主体的な話し合いができるように、調査結果を読み込んでくる（1時間程度）				
15	前期のまとめ：進捗状況の報告と後期の方針					自分たちの取り組みを整理しておく（1時間程度）				

回	授業計画	準備学修
16	報告書の作成③：調査の結果を考察する (ディスカッション)	主体的な話し合いができるように、調査結果を読み込んでくる (1時間程度)
17	報告書の作成④：課題を明確にする (ディスカッション)	報告書を完成させる (1時間程度)
18	ゼミ内発表資料作成 (グループワーク)	学生同士事前に話し合いを持ちながら準備する (1時間程度)
19	ゼミ内発表練習	学生同士事前に話し合いを持ちながら準備する (1時間程度)
20	ゼミ内発表①：第1グループの発表	自分の発表練習をしてくるとともに、他者の発表から課題を見つけ出せるよう資料に目を通しておく (1時間程度)
21	ゼミ内発表②：第2グループの発表	自分の発表練習をしてくるとともに、他者の発表から課題を見つけ出せるよう資料に目を通しておく (1時間程度)
22	学科内発表原稿の作成	学生同士事前に話し合いを持ちながら準備する (1時間程度)
23	学科内発表原稿の作成と発表練習	学生同士事前に話し合いを持ちながら準備する (1時間程度)
24	学科内発表用レジュメの作成と提出 (グループワーク)	学生同士事前に話し合いを持ちながら準備する (1時間程度)
25	学科内発表準備	学生同士事前に話し合いを持ちながら準備する (1時間程度)
26	学科内研究発表会①第1グループの研究成果報告	第1グループのレジュメを読み、質問事項を考える (1時間程度)
27	学科内研究発表会②第2グループの研究成果報告	第2グループのレジュメを読み、質問事項を考える (1時間程度)
28	学科内研究発表会③第3グループの研究成果報告	第3グループのレジュメを読み、質問事項を考える (1時間程度)
29	学科内研究会発表④第4グループの研究成果報告	第4グループのレジュメを読み、質問事項を考える (1時間程度)
30	総括：研究活動の反省と課題	
教科書	適宜資料を配布する	
参考文献		
備考	授業課題については各授業内でコメントし、学科内発表については最終回でコメントする。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-SEM-02				
			●	●						
科目名	基礎演習Ⅱ				単位認定者	早坂 正年		評価の方法	授業内課題	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	30 %
				授業形態	演習	授業時間数	60 時間			
						授業回数	30 回			
授業の概要	各担当教員の支援指導の下で、学生が実習等の体験の中で直面した問題を自らの課題と捉え、その課題解決のために探究を行う。問題を論理的に整理し、教員と学生の間でグループディスカッションを行い、新聞・諸論文・紙芝居等の様々な形式でのプレゼンテーションを通して、より実践的な知識や技術の獲得及び卒業後のキャリア形成能力の養成を目指す。									
到達目標	1. 保育者に必要とされる問題の分析力・解決力を修得する。 2. 保育実践において、心理臨床学的知見を活用した支援が提供できるようになる。									
学修者への期待等	学生自身で課題を発見し、役割分担と事前計画のもとで授業を進めていくので、遅刻・欠席等が生じないように責任を持つこと。また、既修の心理学関連科目・相談支援関連科目について十分な復習を行っておくこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	授業ガイダンス（授業計画・受講上の注意などの説明）と課題探求への導入									
2	課題探求の方法①（心理学の基礎研究と臨床研究について）					配布資料の心理学研究法の基礎を読む（1時間程度）				
3	課題探求の方法②（研究における倫理）					配布資料の研究倫理を読む（1時間程度）				
4	課題探求の方法③（文献検索の方法等）					配布資料の文献検索の方法を読む（1時間程度）				
5	講読演習①（文献の内容理解と論点の整理）					入手した文献を読む（1時間程度）				
6	講読演習②（論点の整理と資料の作成）					配布資料の論点整理の方法を読む（1時間程度）				
7	講読演習③ グループ別発表と討論（教育心理学領域） ・プレゼンテーション、ディスカッション					発表グループは、事前に学生同士で打ち合わせを行い、論点を整理しておくこと（2時間程度）				
8	講読演習④ グループ別発表と討論（臨床心理学領域） ・プレゼンテーション、ディスカッション					発表グループは、事前に学生同士で打ち合わせを行い、論点を整理しておくこと（2時間程度）				
9	講読演習⑤ グループ別発表と討論（小児保健領域） ・プレゼンテーション、ディスカッション					発表グループは、事前に学生同士で打ち合わせを行い、論点を整理しておくこと（2時間程度）				
10	講読演習⑥ グループ別発表と討論（病児支援領域） ・プレゼンテーション、ディスカッション					発表グループは、事前に学生同士で打ち合わせを行い、論点を整理しておくこと（2時間程度）				
11	研究課題の選定および研究計画の立案					配布資料の研究計画の立案を読む（1時間程度）				
12	研究方法論① フィールドワーク（施設見学等）／文献検索的研究									
13	研究方法論② 実験法／質問紙法（ICTを活用したアンケート調査の実施方法）／事例研究法									
14	経過報告書の作成と報告会					事前に学生同士で話し合いを行い、報告する内容をまとめておく（2時間程度）				
15	前期のまとめと今後の計画									

回	授業計画	準備学修
16	後期ガイダンスと報告書作成への導入	
17	研究の実践① データ・文献等の収集	研究方法論（データ収集等）の配布資料を読む（1時間程度）
18	研究の実践② データ処理・文献の整理	研究方法論（データ処理等）の配布資料を読む（1時間程度）
19	研究の実践③ 結果の分析	研究方法論（結果の分析等）の配布資料を読む（1時間程度）
20	研究の実践④ 結果の考察	研究方法論（考察の進め方）の配布資料を読む（1時間程度）
21	研究の実践⑤ 課題の明確化と今後の展望をまとめる	研究方法論（課題の発見）の配布資料を読む（1時間程度）
22	報告書の作成① 報告書執筆	配布資料（報告書のまとめ方）を読む（1時間程度）
23	報告書の作成② 指導後の加筆・修正	
24	発表用レジュメの作成と提出	
25	発表準備	
26	学科内研究発表会① 第1グループの研究成果報告	第1グループのレジュメを読み、質問事項を考える（1時間程度）
27	学科内研究発表会② 第2グループの研究成果報告	第2グループのレジュメを読み、質問事項を考える（1時間程度）
28	学科内研究発表会③ 第3グループの研究成果報告	第3グループのレジュメを読み、質問事項を考える（1時間程度）
29	学科内研究会発表④ 第4グループの研究成果報告	第4グループのレジュメを読み、質問事項を考える（1時間程度）
30	総括：研究活動の反省と課題	
教科書	適宜、資料等を配布する。	
参考文献		
備考	授業課題については各授業内でコメントし、学科内発表については最終回でコメントする。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-SEM-02				
			●	●						
科目名	基礎演習Ⅱ				単位認定者	鈴木 享之		評価の方法	授業内課題	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	60 時間			
					授業形態	演習	授業回数		30 回	
授業の概要	各担当教員の支援指導の下で、学生が実習等の体験の中で直面した問題を自らの課題と捉え、その課題解決のために探究を行う。問題を論理的に整理し、教員と学生の間でグループディスカッションを行い、新聞・諸論文・紙芝居等の様々な形式でのプレゼンテーションを通して、より実践的な知識や技術の獲得及び卒業後のキャリア形成能力の養成を目指す。									
到達目標	1. 保育の理論と児童文化の基礎知識を習得する。 2. 保育現場で活用可能な実践力を身につける。 3. 創造的な保育活動を企画・実践する能力を養う。 4. 保育士としての自己表現力とコミュニケーション力を向上させる。 5. 保育と文化を融合させた新たな教育の可能性を探究する。									
学修者への期待等	主体的に学びに取り組む姿勢を期待します。保育学と児童文化を結びつける新たな視点を探究し、理論と実践を通じて学びを深めてください。グループワークや発表では、多様な意見を尊重し、積極的にコミュニケーションを図ることが求められます。また、課題を発見し、解決に向けたアイデアを提案する力を育むことを目指します。									
回	授業計画					準備学修				
1	ゼミの目的と進め方の説明					シラバスを熟読し、学びたいテーマを考えておく（概ね30分）				
2	保育学の基礎：保育士に求められる役割と保育の基本					保育士の役割に関する文献を1つ読み、重要だと思う点をまとめる（概ね1時間）				
3	児童文化の基礎：絵本・遊び・伝承文化の意義					好きな絵本や遊びを1つ選び、その魅力を簡単にまとめる（概ね1時間）				
4	子どもの発達と文化の関係					子どもの発達段階に関する基礎知識を確認し、疑問点を整理する（概ね1時間）				
5	保育現場での児童文化の活用法					地域の保育施設で行われている文化活動について調べ、共有できる情報を準備する（概ね2時間）				
6	絵本の選び方と読み聞かせのポイント					自分が選んだ絵本を読んで、どのように読み聞かせをするか考える（概ね1時間）				
7	遊びの理論と実践：子どもを引きつける遊び方					遊びに関する理論を調べ、自分なりの解釈をノートにまとめる（概ね2時間）				
8	行事と文化：季節の行事の意義と実践					季節行事に関する情報を調べ、保育現場でどのように取り入れられているかを考える（概ね1時間）				
9	創造力を引き出す活動：工作・音楽・劇遊び					創造的な活動例を1つ調べ、どのように保育に活用できるか考える（概ね1時間）				
10	現場での安全管理とリスクアセスメント					保育現場での安全対策に関する事例を調べ、自分なりの意見をまとめる（概ね1時間）				
11	保育計画の立案と評価					簡単な保育計画を考え、実際に現場でどう役立つかを検討する（概ね30分）				
12	地域文化と保育：地域行事との連携					地域文化や行事に関する情報を集め、保育との関連性を考える（概ね1時間）				
13	発表準備①：活動案のブラッシュアップ					自分たちの活動案を整理し、改善点をリストアップする（概ね1時間）				
14	発表準備②：プレゼンテーション練習					発表資料を作成し、他の人からフィードバックをもらう準備をする（概ね1時間）				
15	中間発表会：保育計画と児童文化の融合案					発表内容をまとめ、質疑応答の準備をする（概ね1時間）				

回	授業計画	準備学修
16	中間振り返りと改善点の整理	中間発表のフィードバックを受けて、自分たちの案を改善する（概ね1時間）
17	伝承文化の保育現場での活用	日本の伝承文化について調べ、どのように保育に活用できるかを考える（概ね1時間）
18	異文化と保育：多様性を尊重した保育活動	異文化に関する活動案を調べ、保育で活用するアイデアを考える（概ね1時間）
19	子どもの感性を育てる音楽・リズム遊び	音楽やリズム遊びの例を調べ、自分なりの工夫を加えたアイデアを準備する（概ね1時間）
20	餅つき・季節行事の実践的学び	餅つきや季節行事の進行案を調べ、準備物や注意点をリストアップする（概ね1時間）
21	子どもの創造力を育む工作活動	保育現場での工作活動例を調べ、具体的な進行案を考える（概ね1時間）
22	子どもと楽しむ劇遊びの企画と実践	劇遊びのシナリオを考え、配役や進行のポイントを整理する（概ね1時間）
23	保育現場でのICT活用：利点と課題	ICTを活用した保育の事例を調べ、自分なりの利点と課題をまとめる（概ね1時間）
24	保育士としての自己表現力を高める方法	自己表現に関する練習を行い、実際に現場でどう活用できるか考える（概ね1時間）
25	最終発表準備：成果物の仕上げ	成果物の最終調整を行い、発表内容を確認する（概ね30分）
26	学科内研究発表会①：第1グループの研究成果報告	第1グループのレジュメを読み、質問事項を考えてくる（概ね1時間）
27	学科内研究発表会②：第2グループの研究成果報告	第2グループのレジュメを読み、質問事項を考えてくる（概ね1時間）
28	学科内研究発表会③：第3グループの研究成果報告	第3グループのレジュメを読み、質問事項を考えてくる（概ね1時間）
29	学科内研究会発表④：第4グループの研究成果報告	第4グループのレジュメを読み、質問事項を考えてくる（概ね1時間）
30	総括：研究活動の反省と課題	今後の目標や抱負を整理し、ゼミの学びを振り返る（概ね1時間）
教科書	適宜配布します。	
参考文献	随時紹介します。	
備考	授業課題については各授業内でコメントし、学科内発表については最終回でコメントする。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力	科目ナンバリング				
			●	●		CS-2-SEM-02				
科目名	基礎演習Ⅱ				単位 認定者	平田 修三		評価の 方法	授業内課題	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	60 時間			
				授業形態	演習 <th>授業回数</th> <td>30 回</td> <td></td> <td></td>	授業回数	30 回			
授業の概要	各担当教員の支援指導の下で、学生が実習等の体験の中で直面した問題を自らの課題と捉え、その課題解決のために探究を行う。問題を論理的に整理し、教員と学生の間でグループディスカッションを行い、新聞・諸論文・紙芝居等の様々な形式でのプレゼンテーションを通して、より実践的な知識や技術の獲得及び卒業後のキャリア形成能力の養成を目指す。									
到達目標	1. さまざまな生育のあり方に目を向け、尊重しながら、個々の子どもや家族にあわせたかかわり方を考えていくための視点を身につける。 2. 保育領域に関わる課題発見能力・課題遂行能力を養う。									
学修者への期待等	自ら課題を発見して主体的に学ぶこと、そして、ゼミで定めた役割分担やスケジュールを守りながら、ゼミメンバー全員の学びに貢献できるようなふるまいを心がけること。									
回	授業計画					準備学修				
1	授業ガイダンス（授業計画・受講上の注意などの説明）と課題探求への導入									
2	生涯発達心理学の基本的視座					事前に配布した文献を熟読し、自分の意見をまとめる（概ね1時間）				
3	「多様化する家族」論の検討					事前に配布した文献を熟読し、自分の意見をまとめる（概ね1時間）				
4	「動物としてのヒト」という見方					事前に配布した文献を熟読し、自分の意見をまとめる（概ね1時間）				
5	「現代社会、虐待、障害、差別」等に関する時事テーマ					事前に配布した文献を熟読し、自分の意見をまとめる（概ね1時間）				
6	講読・映像視聴①：生涯発達心理学（グループ討議）					グループごとにレジュメを用意してくる（概ね2時間）				
7	講読・映像視聴②：多様化する家族（グループ討議）					グループごとにレジュメを用意してくる（概ね2時間）				
8	講読・映像視聴③：動物としてのヒト（グループ討議）					グループごとにレジュメを用意してくる（概ね2時間）				
9	講読・映像視聴④：現代社会（グループ討議）					グループごとにレジュメを用意してくる（概ね2時間）				
10	講読・映像視聴⑤：虐待、障害、差別（グループ討議）					グループごとにレジュメを用意してくる（概ね2時間）				
11	調査研究実習①：文献研究									
12	調査研究実習②：インタビュー調査									
13	調査研究実習③：観察調査									
14	調査研究実習④：質問紙調査									
15	前期のふり返りと後期への展望									

回	授業計画	準備学修
16	後期ガイダンスと報告書作成への導入	
17	発表資料作成①：研究テーマの確認・再設定（グループ討議）	
18	発表資料作成②：資料・データの収集（文献研究）	各自の分担に基づいて準備する（概ね1時間）
19	発表資料作成③：資料・データの収集（施設見学等）	各自の分担に基づいて準備する（概ね1時間）
20	発表資料作成④：資料・データの整理（グループ討議）	各自の分担に基づいて準備する（概ね1時間）
21	発表資料作成⑤：報告書執筆	各自の分担に基づいて準備する（概ね1時間）
22	発表リハーサル①：プレゼンテーション	各自の分担に基づいて準備する（概ね1時間）
23	発表リハーサル②：ふり返りと指導後の修正	
24	発表用レジュメと報告書の提出	発表用レジュメ・報告書を完成させる（概ね2時間）
25	発表準備	
26	学科内研究発表会①：第1グループの研究成果報告	第1グループのレジュメを読み、質問事項を考える（概ね1時間）
27	学科内研究発表会②：第2グループの研究成果報告	第2グループのレジュメを読み、質問事項を考える（概ね1時間）
28	学科内研究発表会③：第3グループの研究成果報告	第3グループのレジュメを読み、質問事項を考える（概ね1時間）
29	学科内研究発表会④：第4グループの研究成果報告	第4グループのレジュメを読み、質問事項を考える（概ね1時間）
30	総括：研究活動の反省と課題	
教科書	なし	
参考文献	適宜紹介する。	
備考	授業課題については各授業内でコメントし、学科内発表については最終回でコメントする。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-SEM-02				
			●	●						
科目名	基礎演習Ⅱ				単位認定者	中曽根 裕		評価の方法	授業内課題	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	60 時間			
					授業形態	演習	授業回数		30 回	
授業の概要	各担当教員の支援指導の下で、学生が実習等の体験の中で直面した問題を自らの課題と捉え、その課題解決のために探究を行う。問題を論理的に整理し、教員と学生の間でグループディスカッションを行い、新聞・諸論文・紙芝居等の様々な形式でのプレゼンテーションを通して、より実践的な知識や技術の獲得及び卒業後のキャリア形成能力の養成を目指す。									
到達目標	幼児期の健康や遊びの分野に関連した課題を発見し、探求したものを他者に伝えられるようにする。また、それらを活用しながら、具体的な実践方法を理解する。									
学修者への期待等	実技の時間は運動のできる服装を用意すること。グループ学修によって進められるので、積極的な姿勢で授業に臨むことを希望する。また、ゼミで出される課題について協力して活動に取り組むこと。									
回	授業計画					準備学修				
1	課題探究への導入（自己紹介、講義の進め方、学生への希望などについて）（グループワーク）									
2	課題について調査・報告・議論の仕方を学ぶ（グループワーク）									
3	テーマ①（幼児期における運動遊び）の資料収集					検索した資料を読んでもくること。（1時間程度）				
4	テーマ①（幼児期における運動遊び）各自考察を深める（グループワーク）					幼児期における運動遊びの論点などを書き出してくること。（1時間程度）				
5	テーマ①（幼児期における運動遊び）グループ討議					グループごとに資料をまとめて、次回提出すること。（1時間程度）				
6	テーマ①（幼児期における運動遊びの実際）体験学習									
7	テーマ②（子どもの体力の現状と課題）の資料収集					検索した資料を読んでもくること。（1時間程度）				
8	テーマ②（子どもの体力の現状と課題）各自考察を深める（グループワーク）					子どもの体力の現状と課題についての論点を書き出してくること。（1時間程度）				
9	テーマ②（子どもの体力の現状と課題）グループ討議									
10	テーマ②（子どもの体力の現状と課題）資料をまとめる					グループごとに資料をまとめて、次回提出すること。（1時間程度）				
11	テーマ③（幼児期における集団遊び）の資料収集					検索した資料を読んでもくること。（1時間程度）				
12	テーマ③（幼児期における集団遊び）各自考察を深める（グループワーク）					幼児期における集団遊びの論点などを書き出してくること。（1時間程度）				
13	テーマ③（幼児期における集団遊び）グループ討議					グループごとに資料をまとめて、次回提出すること。（1時間程度）				
14	テーマ③（幼児期における集団遊びの実際）体験学習									
15	テーマ④（親子体操）の資料収集					検索した資料を読んでもくること。（1時間程度）				

回	授業計画	準備学修
16	テーマ④（親子体操）各自考察を深める（グループワーク）	親子体操についての論点などを書き出してくること。（1時間程度）
17	テーマ④（親子体操）グループ討議	グループごとに資料をまとめて、次回提出すること。（1時間程度）
18	テーマ④（親子体操の実際）体験学習	
19	テーマ①～④までのまとめ（グループワーク）	これまで何を学び、どのようなスキルを身につけることができたかをまとめておくこと。（1時間程度）
20	プレゼンテーションの基礎知識（グループワーク）	
21	プレゼンテーションに必要な技術の修得（グループワーク）	
22	レジュメの作成方法について	どのような発表方法が効果的なのかを考えてくること。（1時間程度）
23	発表の役割分担について（グループワーク）	発表の方法を分担しながら検討すること。（1時間程度）
24	発表用レジュメの作成と提出（グループワーク）	
25	発表準備（グループワーク）	
26	学科内研究発表会①第1グループの研究成果報告	第1グループのレジュメを読み、質問事項を考えてくること。（1時間程度）
27	学科内研究発表会②第2グループの研究成果報告	第2グループのレジュメを読み、質問事項を考えてくること。（1時間程度）
28	学科内研究発表会③第3グループの研究成果報告	第3グループのレジュメを読み、質問事項を考えてくること。（1時間程度）
29	学科内研究会発表④第4グループの研究成果報告	第4グループのレジュメを読み、質問事項を考えてくること。（1時間程度）
30	総括：研究活動の反省と課題（グループワーク）	
教科書	特になし	
参考文献	適宜、指示する	
備考	授業課題については各授業内でコメントし、学科内発表については最終回でコメントする。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-SEM-02				
			●	●						

科目名	基礎演習Ⅱ				単位認定者	田中 公一		評価の方法	授業内課題	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	30 %
				授業時間数		60 時間				
				授業形態		演習			授業回数	30 回

授業の概要	各担当教員の支援指導の下で、学生が実習等の体験の中で直面した問題を自らの課題と捉え、その課題解決のために探究を行う。問題を論理的に整理し、教員と学生の間でグループディスカッションを行い、新聞・諸論文・紙芝居等の様々な形式でのプレゼンテーションを通して、より実践的な知識や技術の獲得及び卒業後のキャリア形成能力の養成を目指す。									
到達目標	講読演習・体験学習・聴き取り調査・グループワーク・ディスカッションを通して「社会福祉」の知見を深めるとともに、「社会福祉援助技術」を獲得して保育現場や養護施設での活動に活かすことができる。									
学修者への期待等	新聞などに目を通し、日頃から社会問題に関心を持って欲しい。主体的に取り組む姿勢を期待する。									

回	授業計画	準備学修
1	授業ガイダンス（年間予定、受講上の注意など）	
2	【グループワーク】 文献講読①：社会福祉とは何か	配布資料（社会福祉について）を熟読しておく（概ね1時間）
3	【グループワーク】 文献講読②：社会福祉の範囲	配布資料（社会福祉の対象）を熟読しておく（概ね1時間）
4	【グループワーク】 文献講読③：児童福祉施設と社会福祉施設	配布資料（児童福祉関係施設）を熟読しておく（概ね1時間）
5	【グループワーク】 文献講読④：ボランティア活動の意義	配布資料（ボランティア活動の意義）を熟読しておく（概ね1時間）
6	【ディベート】 自己覚知の学び	学生同士事前に話し合いを持ちながら準備する（概ね1時間）
7	【ディベート】 他者理解の学び	学生同士事前に話し合いを持ちながら準備する（概ね1時間）
8	【グループワーク】 研究調査準備①：調査対象の把握	調査対象分野についての概要をまとめる（概ね1時間）
9	【グループワーク】 研究調査準備②：アンケート・質問項目の準備	アンケート・質問項目を考えてくる（概ね1時間）
10	【フィールドワーク】 調査研究①：施設の理解	アンケート・質問項目を確認しておく（概ね1時間）
11	【フィールドワーク】 調査研究②：利用者の理解	アンケート・質問項目を確認しておく（概ね1時間）
12	【フィールドワーク】 調査研究③：職員の理解	アンケート・質問項目を確認しておく（概ね1時間）
13	【グループワーク】 報告書の作成①：調査結果の分析	主体的な話し合いができるように、調査内容を読み込んでくる（概ね1時間）
14	【グループワーク】 報告書の作成②：調査結果の分析に関する考察	主体的な話し合いができるように、調査内容を読み込んでくる（概ね1時間）
15	前期のまとめ：進捗状況の報告と後期の方針	自分たちの取り組み内容を整理しておく（概ね1時間）

回	授業計画	準備学修
16	【グループワーク】 報告書の作成③：調査の結果を考察する	主体的な話し合いができるように、調査結果を読み込んでくる（概ね1時間）
17	【グループワーク】 報告書の作成④：課題を明確にする	報告書を完成させる（概ね2時間）
18	【フィールドワーク】 調査研究④：コミュニケーションの学び	学生同士事前に話し合いを持ちながら準備する（概ね1時間）
19	【フィールドワーク】 調査研究⑤：グループダイナミクスの学び	学生同士事前に話し合いを持ちながら準備する（概ね1時間）
20	【発表・ディスカッション】 ゼミ内発表①：体験・調査結果報告（Aグループ）	担当箇所について、学生同士事前に話し合いを持ちながら準備する（概ね1時間）
21	【発表・ディスカッション】 ゼミ内発表②：体験・調査結果報告（Bグループ）	担当箇所について、学生同士事前に話し合いを持ちながら準備する（概ね1時間）
22	【グループワーク】 学科内発表原稿の作成	担当箇所について、学生同士事前に話し合いを持ちながら準備する（概ね1時間）
23	【グループワーク】 学科内発表原稿の作成と発表練習	担当箇所について、学生同士事前に話し合いを持ちながら準備する（概ね1時間）
24	【グループワーク】 学科内発表用レジュメの作成と提出	担当箇所について、学生同士事前に話し合いを持ちながら準備する（概ね1時間）
25	【グループワーク】 学科内発表準備	担当箇所について、学生同士事前に話し合いを持ちながら準備する（概ね1時間）
26	学科内研究発表会①：第1グループの研究成果報告	第1グループのレジュメを読み、質問事項を考えてくる（概ね1時間）
27	学科内研究発表会②：第2グループの研究成果報告	第2グループのレジュメを読み、質問事項を考えてくる（概ね1時間）
28	学科内研究発表会③：第3グループの研究成果報告	第3グループのレジュメを読み、質問事項を考えてくる（概ね1時間）
29	学科内研究会発表④：第4グループの研究成果報告	第4グループのレジュメを読み、質問事項を考えてくる（概ね1時間）
30	総括：研究活動の反省と課題	自分たちの取り組み内容を整理しておく（概ね1時間）
教科書	特に指定しない。	
参考文献	随時、講義の中で紹介する。	
備考	授業課題については各授業内でコメントし、学科内発表については最終回でコメントする。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CS-2-SEM-02				
			●	●						
科目名	基礎演習Ⅱ				単位認定者	田宮 希砂		評価の方法	授業内課題	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	こども学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	60 時間			
					授業形態	演習	授業回数		30 回	
授業の概要	各担当教員の支援指導の下で、学生が実習等の体験の中で直面した問題を自らの課題と捉え、その課題解決のために探究を行う。問題を論理的に整理し、教員と学生の間でグループディスカッションを行い、新聞・諸論文・紙芝居等の様々な形式でのプレゼンテーションを通して、より実践的な知識や技術の獲得及び卒業後のキャリア形成能力の養成を目指す。									
到達目標	・乳幼児期の音楽表現に関する知識の習得と理解を深める。 ・子どもの姿、保育の場面に合わせた、簡単な編曲、作曲ができるようになる。									
学修者への期待等	自ら課題を見つけ主体的に取り組む姿勢を期待する。実際に音を出し積極的に自ら表現し実践することを通して学びを深めてほしい。また、課題等に学生同士で協力して取り組む姿勢が求められる。									
回	授業計画				準備学修					
1	授業ガイダンスと課題探求への導入 (グループワーク)									
2	音楽資料の探し方・学びの方法について				保育現場の音楽について自身の興味関心がある分野を取り上げる。(1時間程度)					
3	乳幼児期の音楽表現① 音楽と子ども (ディスカッション・グループワーク)				配布資料を読み、発表レジュメを作成、発表準備をする (1時間程度)					
4	乳幼児期の音楽表現② 音楽と感情・感性 (ディスカッション・グループワーク)				配布資料を読み、発表レジュメを作成、発表準備をする (1時間程度)					
5	様々な音楽表現① 声による表現 (実技・グループワーク)				担当箇所の発表準備をする (1時間程度)					
6	様々な音楽表現② 身体による表現 (実技・グループワーク)				担当箇所の発表準備をする (1時間程度)					
7	様々な音楽表現③ 楽器による表現 (実技・グループワーク)				担当箇所の発表準備をする (1時間程度)					
8	様々な音楽表現④ 即興的な表現 (実技・グループワーク)				担当箇所の発表準備をする (1時間程度)					
9	音楽表現活動の実践① 作品制作の導入・練習 (グループワーク)				実践に向けて準備をする (1時間程度)					
10	音楽表現活動の実践② 実践の準備 (グループワーク)				実践に向けて準備をする (1時間程度)					
11	音楽表現活動の実践③ 実践 (グループワーク・フィールドワーク)				実践に向けて準備をする (1時間程度)					
12	音楽表現活動の実践④ 振り返り (ディスカッション)				実践の振り返り資料を作成する (1時間程度)					
13	音楽の三要素の基礎 あそび歌創作の構想 (グループワーク・実技)				配布した資料を読む (1時間程度)					
14	音楽の三要素の応用 あそび歌創作 (グループワーク・実技)				各自自分が構想したあそび歌を完成させる (1時間程度)					
15	あそび歌創作のまとめ				まとめ資料を作成する (1時間程度)					

回	授業計画	準備学修
16	音楽創作① 作品テーマの構想 (ディスカッション・実技)	配布した資料を読む (1時間程度)
17	音楽創作② 既成曲のアレンジ法について (実技)	配布した資料を読む (1時間程度)
18	音楽創作③ 作曲技法の基礎 (実技)	配布した資料を読みコード進行について調べる (1時間程度)
19	音楽創作④ 創作活動 (実技・グループワーク)	配布した資料を読みリズムについて調べる (1時間程度)
20	音楽創作⑤ 発表準備 (実技・グループワーク)	配布した資料を読みメロディについて調べる (1時間程度)
21	音楽創作⑥ 作品発表会 (実技・グループワーク)	各自創作と発表の準備を行う (1時間程度)
22	学科内研究発表の構成 (グループワーク)	各自分担部分について発表資料の準備を進める (1時間程度)
23	学科内研究発表資料の作成 (グループワーク)	各自分担部分について発表資料の準備を進める (1時間程度)
24	学科内研究発表準備 (グループワーク)	各自分担部分について発表資料の準備を進める (1時間程度)
25	学科内研究発表リハーサル (グループワーク)	各自分担部分について発表資料の準備を進める (1時間程度)
26	学科内研究発表会①：第1グループの研究成 果報告	第1グループのレジメを読み、質問事項を考えてくる (1時間程度)
27	学科内研究発表会②：第2グループの研究成 果報告	第2グループのレジメを読み、質問事項を考えてくる (1時間程度)
28	学科内研究発表会③：第3グループの研究成 果報告	第3グループのレジメを読み、質問事項を考えてくる (1時間程度)
29	学科内研究発表会④：第4グループの研究成 果報告	第4グループのレジメを読み、質問事項を考えてくる (1時間程度)
30	総括：研究活動の反省と課題	
教科書	特に指定しない	
参考文献	随時配布する	
備考	授業課題については各授業内でコメントし、学科内発表については最終回でコメントする。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

こども学科

- ナンバリング
- 教員一覧
- 実務教員を有する教員一覧
- オフィスアワー
- 成績評価

こども学科のナンバリングの見方

【例】CS-1-〇〇〇-01

CS	-	1	-	〇〇〇	-	01
①	半角[-]	②	半角[-]	③	半角[-]	④

①学科（専攻）識別番号（全学共通教養教育科目も独立した略称）

半角アルファベット（大文字）2桁

全学共通教養教育科目：C0

こども学科：CS

②科目レベル

半角数字1桁

教養科目：0（全学共通教養教育科目も学科独自教養科目も同じ）

専門教育分野：1

展開科目：2

③科目分類

半角アルファベット（大文字）3桁

教養教育分野 人間と文化	HCU	Human & culture
教養教育分野 人間と社会	HSO	Human & society
教養教育分野 人間と科学	HSC	Human & science
幼児教育の基礎	BSN	Basic Subjects about Nurture
基礎技能	STC	Skill Training Course for Nurture
教育及び保育の本質	PEN	Principles of Education and Nurture
教育及び保育の制度	SEN	Systems of Education and Nurture
教育及び保育の対象理解	SSE	Study on Subjects of Education and Nurture
教育及び保育の計画と方法	CRE	Curriculum Research for Education and Nurture
統括科目	CLE	Composite Learning
実習	TPR	Teaching Practice
ゼミナール	SEM	Seminar

④連続番号

半角数字 2 桁

全学共通教養教育科目は全学科、以下のナンバリングを使用する。

科目名称	ナンバリング
日本語表現法	CO-0-HCU-01
英語	CO-0-HCU-02
現代の社会	CO-0-HSO-03
法律入門	CO-0-HSO-04
情報処理	CO-0-HSC-01
数理リテラシー	CO-0-HSC-02

科目区分		授業科目の名称	ナンバリング
教養教育分野	人間と文化	英語 I	CO-0-HCU-02
		英語 II	CS-0-HCU-01
		日本語表現法	CO-0-HCU-01
	人間と社会	日本国憲法	CS-0-HSO-02
		現代の社会	CO-0-HSO-03
		法律入門	CO-0-HSO-04
	人間と科学	体育基礎	CS-0-HSC-01
		体育実技	CS-0-HSC-02
		情報処理 I	CO-0-HSC-01
		情報処理 II	CS-0-HSC-03
		レクリエーション論	CS-0-HSC-04
		数理リテラシー	CO-0-HSC-02
専門教育分野	幼児教育の基礎	幼児と環境	CS-1-BSN-01
		幼児と健康	CS-1-BSN-02
		幼児と表現	CS-1-BSN-03
		幼児と人間関係	CS-1-BSN-04
	基礎技能	音楽表現 I	CS-1-STC-01
		音楽表現 II	CS-1-STC-02
		音楽表現 III	CS-1-STC-03

		造形表現	CS-1-STC-04
		総合表現演習Ⅰ	CS-1-STC-07
		総合表現演習Ⅱ	CS-1-STC-08
	教育及び保育の本質	教職論	CS-1-PEN-01
		保育原理	CS-1-PEN-02
		教育原理	CS-1-PEN-07
		社会福祉	CS-1-PEN-03
	教育及び保育の制度	教育制度論	CS-1-SEN-01
		子ども家庭福祉	CS-1-SEN-02
		社会的養護Ⅰ	CS-1-SEN-03
	教育及び保育の対象理解	子ども理解の理論と方法	CS-1-SSE-01
		生涯発達心理学Ⅰ	CS-1-SSE-02
		生涯発達心理学Ⅱ	CS-1-SSE-03
		乳児保育Ⅰ	CS-1-SSE-04
	教育及び保育の計画と方法	カリキュラム論	CS-1-CRE-01
		保育内容の指導法（総論）	CS-1-CRE-03
		保育内容の指導法（健康）	CS-1-CRE-04
		保育内容の指導法（人間関係）	CS-1-CRE-05
		保育内容の指導法（環境）	CS-1-CRE-06
		保育内容の指導法（言葉）	CS-1-CRE-07
		保育内容の指導法（表現）	CS-1-CRE-08
		特別支援教育演習Ⅰ	CS-1-CRE-16
		特別支援教育演習Ⅱ	CS-1-CRE-17
		乳児保育Ⅱ	CS-1-CRE-18
		教育相談	CS-1-CRE-11
		教育方法論	CS-1-CRE-12
		社会的養護Ⅱ	CS-1-CRE-13
		子どもの保健	CS-1-CRE-19

		子どもの健康と安全	CS-1-CRE-20
		家庭支援論	CS-1-CRE-21
		子どもの食と栄養	CS-1-CRE-22
		子育て支援	CS-1-CRE-23
	統括科目	保育・教職実践演習 (幼稚園)	CS-2-CLE-01
	実習	保育実習Ⅰ（保育所）	CS-2-TPR-01
		保育実習Ⅰ（施設）	CS-2-TPR-02
		保育実習指導Ⅰ	CS-2-TPR-03
		保育実習Ⅱ	CS-2-TPR-04
		保育実習指導Ⅱ	CS-2-TPR-05
		保育実習Ⅲ	CS-2-TPR-06
		保育実習指導Ⅲ	CS-2-TPR-07
		教育実習Ⅰ	CS-2-TPR-08
		教育実習指導Ⅰ	CS-2-TPR-09
		教育実習Ⅱ	CS-2-TPR-10
		教育実習指導Ⅱ	CS-2-TPR-11
	ゼミナール	基礎演習Ⅰ	CS-2-SEM-01
		基礎演習Ⅱ	CS-2-SEM-02

こども学科 教員一覧

	職位	氏名	E-mail
1	教授 (学科長)	おのせ たけし 小野瀬 剛志	t_onose@seiyogakuin.ac.jp
2	教授 (副学科長)	ほりのうち としえ 堀之内 敏恵	t_horinouchi@seiyogakuin.ac.jp
3	教授	すがわら ひろし 菅原 弘	h_sugawara@seiyogakuin.ac.jp
4	准教授	はやさか まさとし 早坂 正年	m_hayasaka@seiyogakuin.ac.jp
5	准教授	すずき たかゆき 鈴木 享之	tk_suzuki@seiyogakuin.ac.jp
6	准教授	ひらた しゅうぞう 平田 修三	s_hirata@seiyogakuin.ac.jp
7	准教授	なかそね ゆたか 中曽根 裕	y_nakasone@seiyogakuin.ac.jp
8	講師	たなか こういち 田中 公一	k_tanaka@seiyogakuin.ac.jp
9	講師	たみや きさ 田宮 希砂	k_tamiya@seiyogakuin.ac.jp
10	助教	ひらやま よしき 平山 淑希	y_hirayama@seiyogakuin.ac.jp

こども学科 実務経験を有する教員一覧

科目名	単位	実務教員	実務の概要
子ども理解の理論と方法	1	菅原 弘	特別支援学校・特別支援学級・通常の学級および生徒指導・特別支援教育コーディネーターでの経験を踏まえ、個別の事例に向き合う姿勢を培いながら、子どもを理解するための基本的な手立てを掘り下げて考える。
教育実習指導Ⅰ	1	田宮 希砂	幼稚園にて幼稚園教諭として勤務し、クラス担任及び主任教諭として実習指導を行ってきた経験を基に、実習に意欲的に取り組めるような事前事後指導を行う。
教育実習指導Ⅱ	1	菅原 弘 田宮 希砂	特別支援学校と公立小学校での勤務経験をもとに、実習生として学びを深めるための職員と子どもに向き合う基本姿勢と具体的な学びの視点等を伝え、実習意欲を強める(菅原) 幼稚園にて幼稚園教諭として勤務し、クラス担任及び主任教諭として実習指導を行ってきた経験を基に、保育の実際に即した実践的な事前事後指導を行う(田宮)
特別支援教育演習Ⅰ	1	菅原 弘	特別支援学校・特別支援学級・通常の学級(小学校)での実践と研究を踏まえて、本人を中心に据えた指導と支援及び家庭との連携について、データベースの活用等を含めた授業を組み立てる。
特別支援教育演習Ⅱ	1	菅原 弘	特別支援学校・特別支援学級・通常の学級での指導実践及び特別支援教育コーディネーターの経験を踏まえ、具体的事例を掘り下げて検討する授業を行う。
家庭支援論	2	菅原 弘	特別支援学校・特別支援学級・通常の学級での相談の実際や生徒指導及び特別支援教育コーディネーターとしての実践を踏まえ、具体的な子どもと家族への対応について掘り下げた授業を行う。
	7	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
	62	設置基準上の標準単位数	

2025（令和7）年度 オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんとのコミュニケーションを充実させ、個別に相談を受けるために研究室に在室する時間を設ける制度のことです。

相談を希望する教員のオフィスアワーの時間帯は、掲示などによりお知らせします。指定時間に教員が研究室で待機していますが、臨時の会議や出張などにより不在の場合もありますので、電話・メールなどで事前に連絡をとることをおすすめします。

非常勤の先生には、非常勤講師控室（1階事務室隣にあります）または授業後の教室で相談をすることができます。

成績評価

成績評価基準は次のとおりです。

判定	成績評価	点数	GP
合格 (単位認定)	秀 (AA)	90点以上	4
	優 (A)	80点以上90点未満	3
	良 (B)	70点以上80点未満	2
	可 (C)	60点以上70点未満	1
不合格 (単位認定不可)	不可 (D)	60点未満 (※)	0
	評価不能 (E)	(1) 履修規程第6条第5項により、受験資格を有しない者 (2) 資格取得に係る実習で、各学科が関係法令を踏まえて授業科目ごとに定める時間数を満たさない者	0

(※) 再試験で合格の場合の成績評価は可 (C)、GP は1ポイントとなります。